

小城市道路網整備計画

令和3年3月

小城市

目次

第1章 地域特性の把握	1
1 概況	1
2 人口	3
2-1 人口分布	3
2-2 高齢化	4
3 産業	6
3-1 就業人口	6
3-2 農業	8
3-3 工業	10
3-4 商業	12
3-5 観光	13
4 交通流動	15
4-1 旅客流動	15
4-2 貨物流動	16
第2章 小城市の現況	17
1 地勢・歴史	17
2 人口特性	18
2-1 現況人口	18
2-2 人口の将来見通し	29
3 産業	39
3-1 就業人口	39
3-2 農業	41
3-3 工業	44
3-4 商業	46
4 観光	49
4-1 観光客数	49
4-2 観光施設及び宿泊施設	50
5 市街化の動向	51
5-1 土地利用現況	51
5-2 DID 地区の変遷	53
6 都市計画	55
6-1 用途地域	55
6-2 都市公園等	55
7 施設分布	57
7-1 公共施設・文化施設・集会施設	57
7-2 スポーツ施設	58

7-3 医療機関	59
7-4 福祉施設	60
7-5 保育施設・教育施設	61
7-6 商業施設	62
8 地域間の流動	63
8-1 通勤・通学動向	63
9 災害	65
第3章 小城市の道路交通現況	70
1 広域交通体系	70
2 道路現況	71
2-1 道路ネットワーク	71
2-2 道路整備状況	73
2-3 車道幅員	75
2-4 歩道の設置状況	77
3 交通状況	83
3-1 路線別交通量	83
3-2 大型車混入率	84
3-3 混雑度	85
3-4 旅行速度	86
3-5 自動車保有台数、自動車依存状況	87
3-6 交通事故の発生状況	88
3-7 通学路	90
4 公共交通の現況	92
4-1 バスの利用状況	92
第4章 上位関連計画の整理	93
1 「佐賀県総合計画 2019」の概要	93
2 小城都市計画「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」（区域マス）の概要	94
3 「佐賀県中長期道路整備計画」の概要	96
4 「第2次小城市総合計画」の概要	97
5 「小城市都市計画マスタープラン」（都市マス）の概要	98
6 「小城市立地適正化計画」の概要	99
7 「小城市公共施設等総合管理計画」の概要	100
8 「小城市中心市街地活性化基本計画」の概要	101
9 地域高規格道路 佐賀唐津道路	102
10 「H28 年度佐賀唐津道路（仮）小城インターアクセス道路予備設計業務報告書」の概要	103
第5章 地域特性の整理	105
第6章 道路整備方針の検討	106

第7章 将来幹線道路ネットワークの検討	107
1 道路の機能分類と道路ネットワークの考え方	107
1-1 道路ネットワークの考え方	107
2 将来幹線道路ネットワークの整理	108
第8章 検討対象路線の選定	109
1 検討対象路線の選定の考え方	109
2 検討対象路線の選定結果	110
3 評価の考え方	111
4 路線の重要度評価	112
4-1 路線の重要度評価の考え方	112
4-2 評価項目の設定	113
4-3 路線の重要度評価結果	114
4-4 道路の重要度評価結果（評価項目ごとの該当路線）	116
5 路線の危険度評価	123
5-1 路線の危険度評価の考え方	123
5-2 路線の危険度評価結果	130
5-3 路線の重要度及び危険度評価結果	139
6 整備優先度の評価	141
7 優先度A路線の状況整理	144
第9章 整備推進にあたっての考え方	155
1 整備種別ごとの考え方	155
2 整備優先路線について	156
3 維持管理について	158
4 国県道について	159
5 都市計画道路について	160
6 農道について	161
7 計画の実現に向けて	162
7-1 本計画の計画期間	162
7-2 今後の計画の見直しについて	162

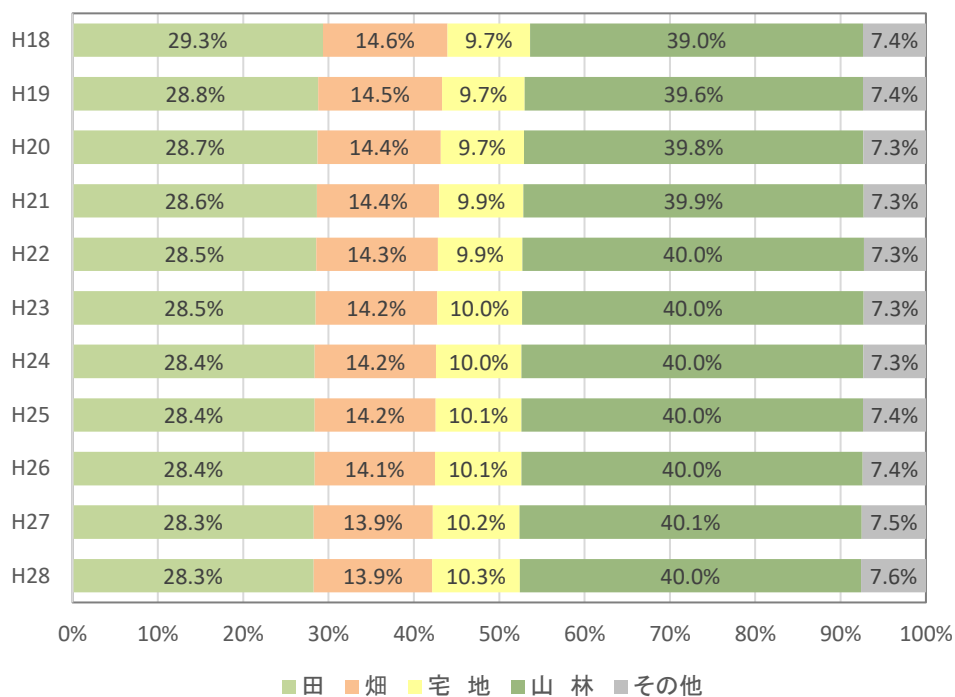
第1章 地域特性の把握

1 概況

佐賀県は九州地方の北部に位置しています。面積は約 1,579 km²で、県土の約 8 割を田、畑、山林が占めており、県南部に広がる佐賀平野を中心とした穀物や、有明海ののりなど豊かな自然の恵みを受けた地域資源が豊富にあります。また、豊臣秀吉と所縁のある虹の松原や、日本で初めて磁器が焼かれた泉山など、文化的、歴史的にも重要な地区が多く、価値観が多様化する現代でも変わらぬ価値を持ち続けています。さらに、唐津くんちやインターナショナルバルーンフェスタ、酒蔵開きなどのイベントには、地域住民はもちろん県外からも観光客が訪れ、今では、世界中から多くの方が佐賀県へ足を運んでいます。



図 対象地域



出典：佐賀県統計年鑑

図 佐賀県の土地利用の推移

表 佐賀県の土地利用の推移

	田	畑	宅地	山林	原野	その他	総数
H18	45,258	22,500	14,960	60,114	6,431	4,975	154,237
H19	45,512	22,952	15,269	62,678	6,595	5,073	158,079
H20	45,357	22,831	15,408	62,866	6,540	5,058	158,060
H21	45,211	22,679	15,596	62,964	6,467	5,080	157,996
H22	45,104	22,537	15,654	63,197	6,433	5,073	157,998
H23	44,970	22,450	15,722	63,180	6,389	5,113	157,822
H24	45,030	22,544	15,895	63,533	6,425	5,218	158,645
H25	44,950	22,424	15,960	63,374	6,442	5,255	158,406
H26	44,842	22,320	16,012	63,228	6,377	5,339	158,117
H27	44,739	22,051	16,125	63,497	6,440	5,452	158,305
H28	44,636	21,930	16,205	63,176	6,448	5,546	157,940

出典：佐賀県統計年鑑

2 人口

2-1 人口分布

佐賀県の人口は、833 千人（平成 27 年）で、九州では最も少ない人口です。その中で小城市は人口 44 千人で、佐賀県全体の 5.3%を占めています。

市町村別の人口増減をみると、福岡県に近い鳥栖市や上峰町、吉野ヶ里町、佐賀県の中心に位置する江北町では増加傾向にあります。小城市を含むその他の市町村では減少傾向にあります。

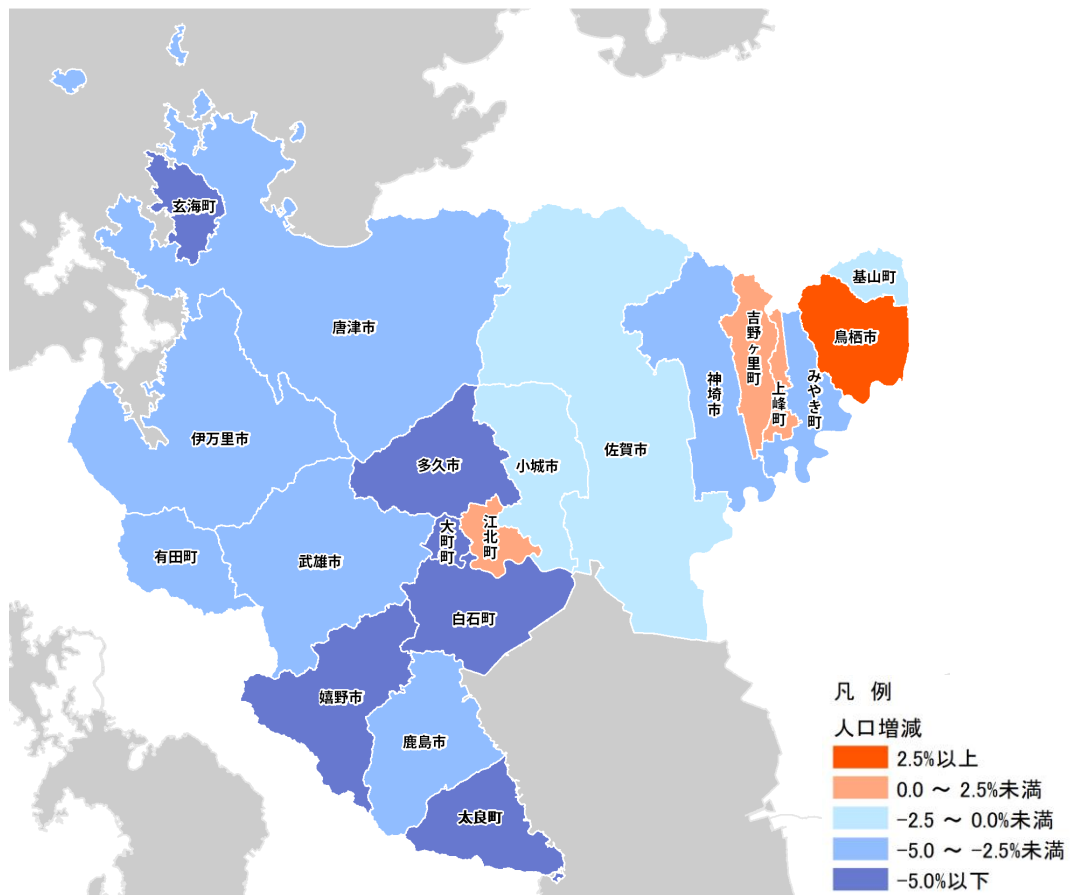


図 市町村別人口増減率（平成 22 年～平成 27 年）

出典：国勢調査

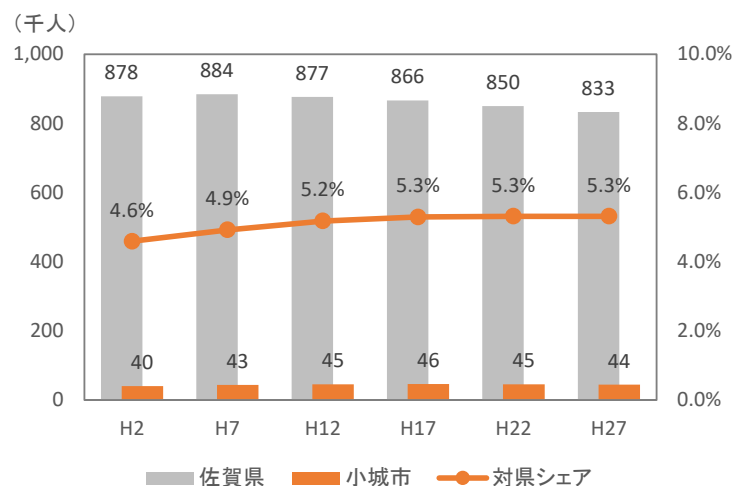


図 人口の推移

出典：国勢調査

2-2 高齢化

佐賀県は、高齢化率が27.7%（平成27年）で九州全体（28.0%）と比べると0.3ポイント下回っています。小城市は25.8%で、佐賀県全体の高齢化率よりも1.9ポイント低くなっています。

市町村別の高齢化率をみると、人口が増加傾向にある鳥栖市などの市町村では高齢化率が比較的lowく、小城市をはじめとする減少傾向にある市町村では、比較的高い傾向にあります。

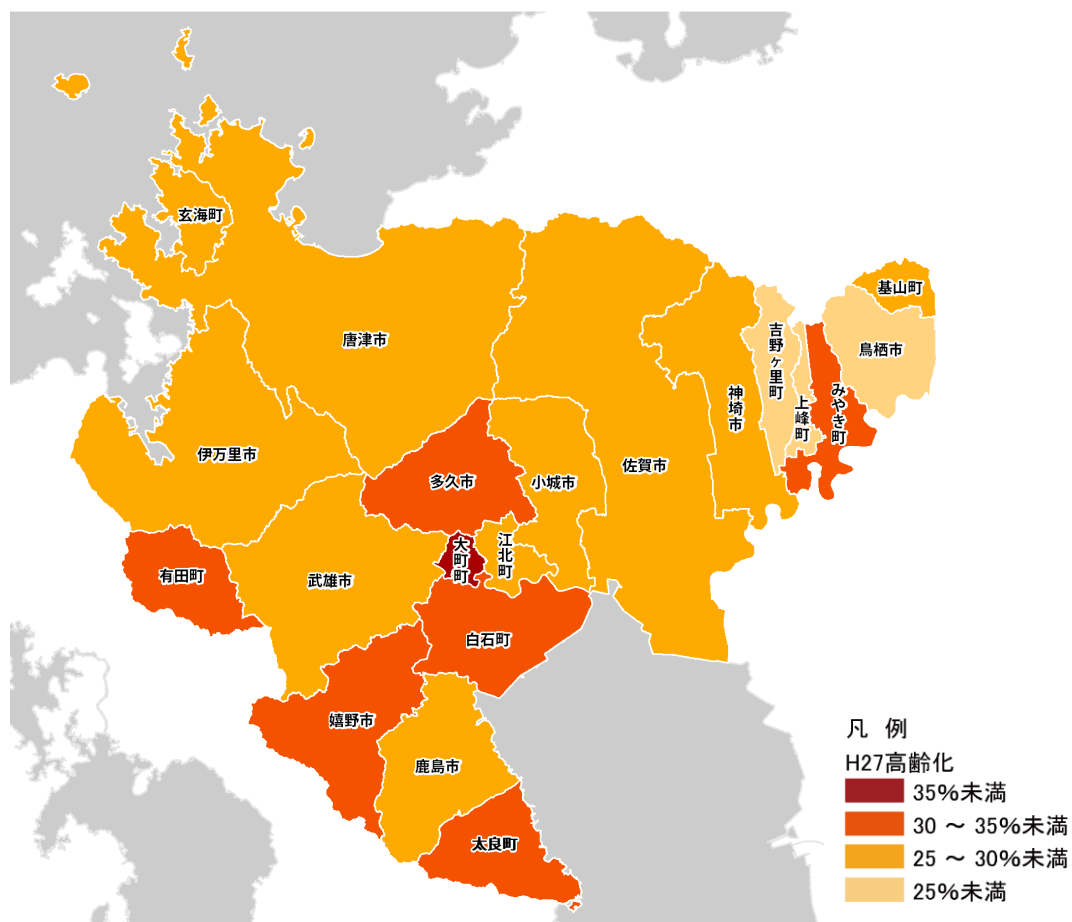


図 市町村別高齢化率（平成27年）

出典：国勢調査

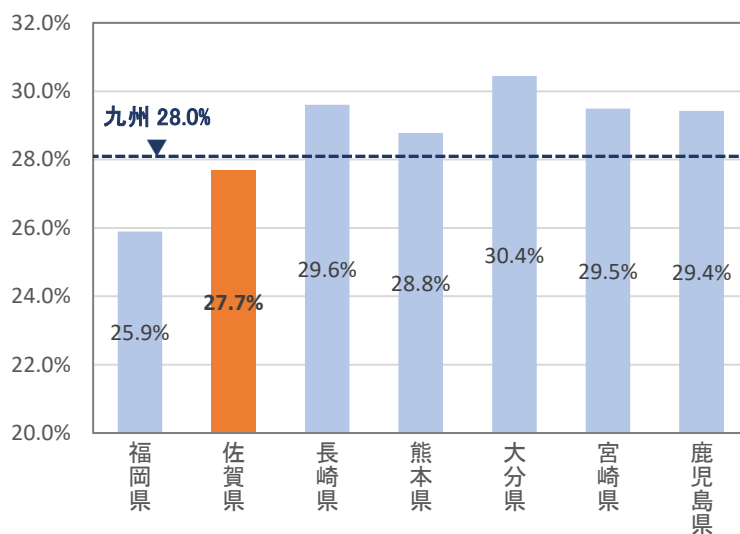


図 県別高齢化率（平成 27 年）

出典：国勢調査

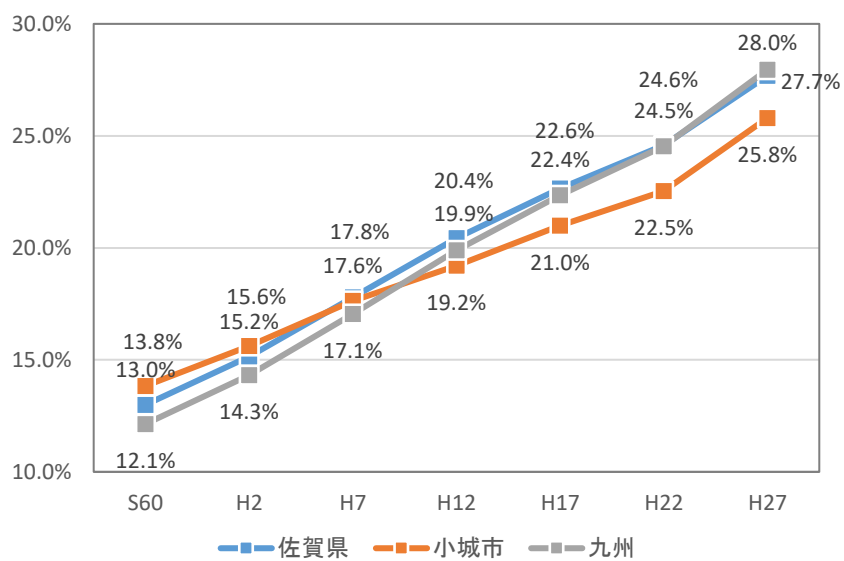


図 高齢化率の推移

出典：国勢調査

3 産業

3-1 就業人口

佐賀県の市町村別就業人口の増減をみると、鳥栖市、鹿島市、江北町では5.0%以上の増加がみられ、佐賀市、小城市、伊万里市、上峰町及び吉野ヶ里町では0.0%～5.0%未満の増加がみられます。

産業大分類別就業人口の割合をみると、小城市は佐賀県全体と比較すると、第1次産業の就業人口が3.3ポイント上回っています。

就業人口の推移をみると、佐賀県全体では減少傾向となっていますが、小城市はほぼ横ばいで、対県シェア率は増加傾向にあります。

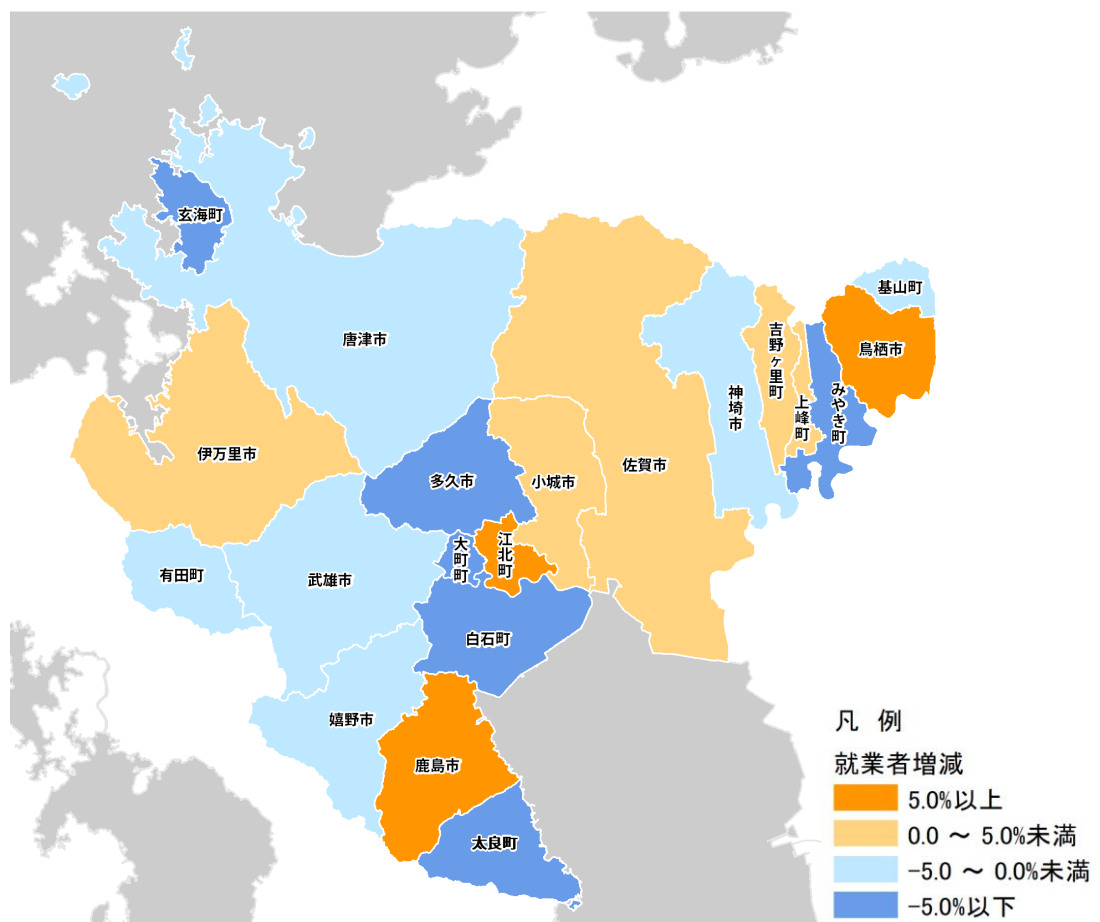


図 市町村別就業人口の増減（平成22年～平成27年）

出典：国勢調査

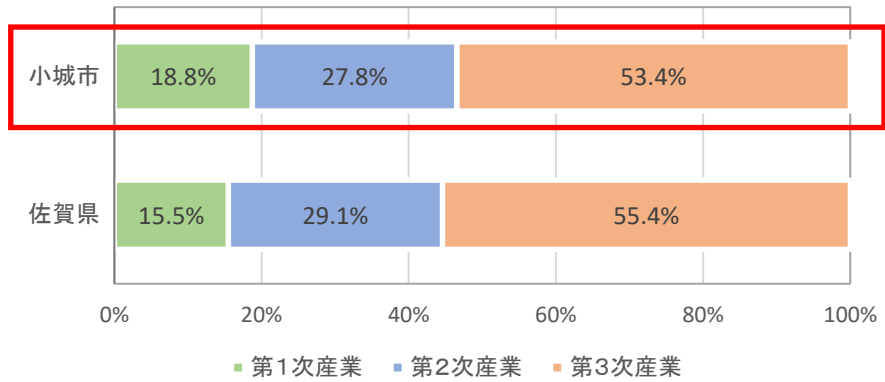


図 産業大分類別就業人口の割合（平成 27 年）

出典：国勢調査

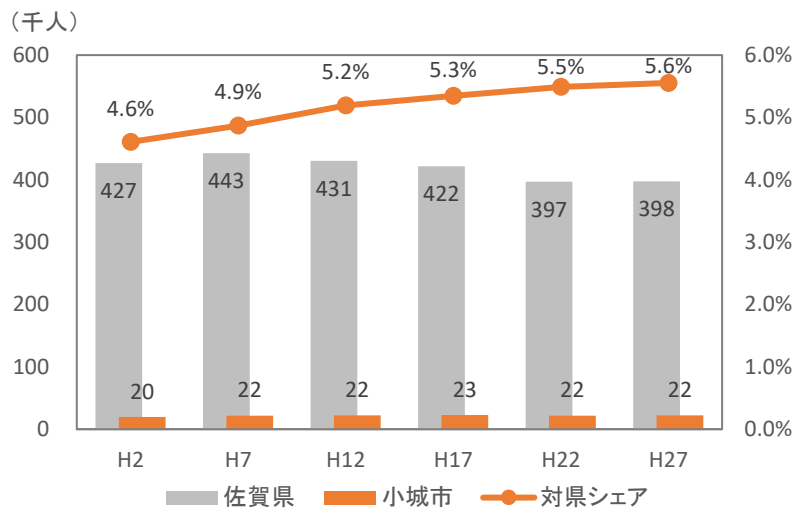


図 就業人口の推移

出典：国勢調査

3-2 農業

佐賀県の農業産出額は、1,303億円と、九州内で2番目に少ない金額ですが、佐賀県内の農家1戸あたりの農業産出額は591.4万円で、九州平均の568.0万円を上回っています。

小城市の農家総戸数は、平成12年の2,121戸と比べて、平成27年には約7割減の538戸となっており、減少傾向にあります。

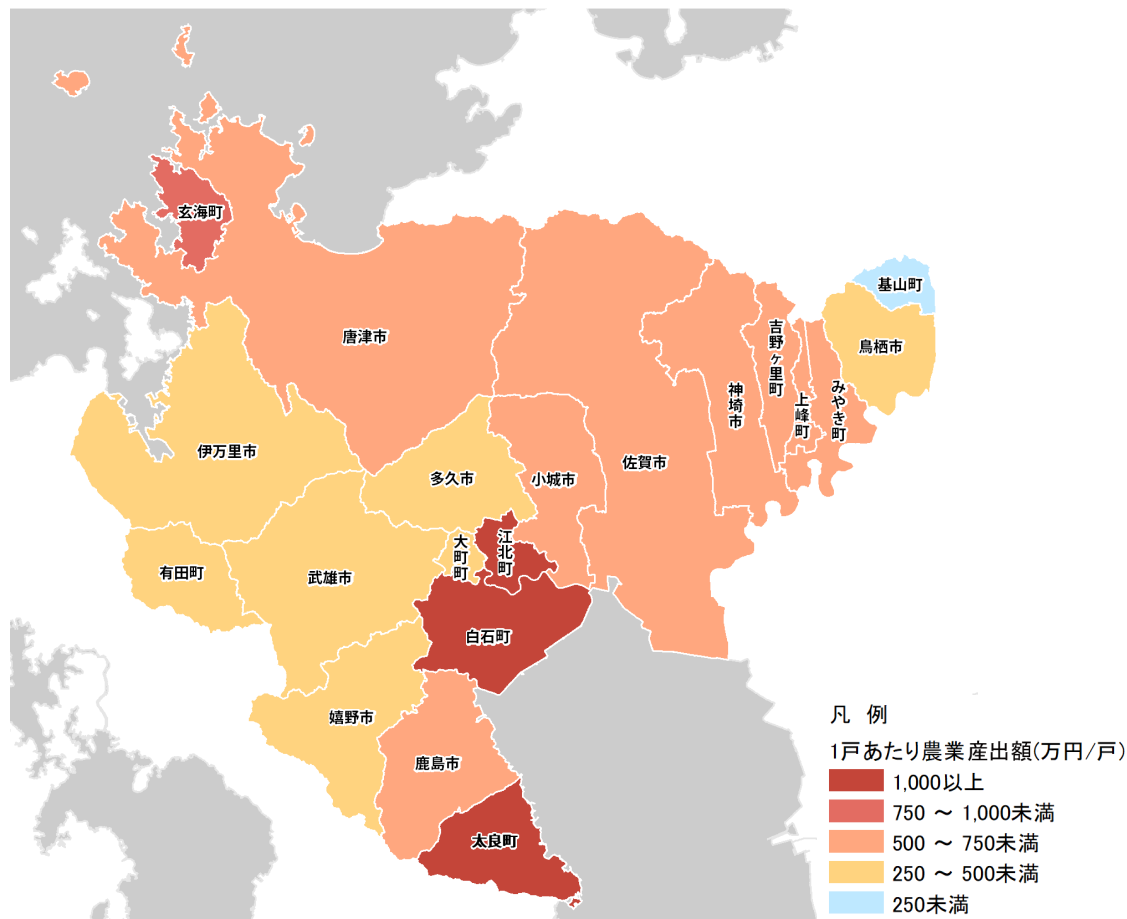


図 市町村別農家1戸あたり農業産出額（平成27年）

出典：農林業センサス

表 県別農業算出額（平成 27 年）

	総農家数 (戸)	農業産出額 (億円)	農家1戸あたり 農業産出額 (万円/戸)
佐賀県	22,033	1,303	591.4
福岡県	52,704	2,191	415.7
長崎県	33,802	1,553	459.4
熊本県	58,414	3,348	573.2
大分県	39,475	1,287	326.0
宮崎県	38,428	3,424	891.0
鹿児島県	63,943	4,435	693.6
九州計	308,799	17,541	568.0

出典：農林業センサス

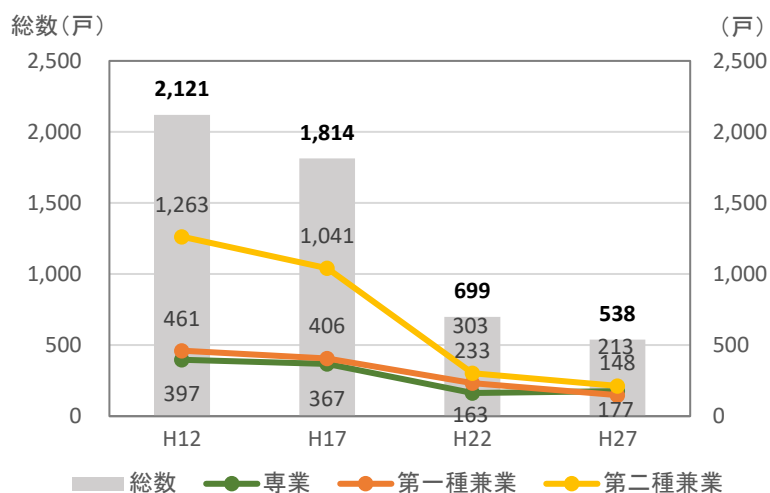


図 小城市の専業別販売農家数の推移

出典：農林業センサス

3-3 工業

佐賀県の製造品出荷額は17,909億円となっており、宮崎県、長崎県に次いで、九州内で3番目に少ない出荷額となっています。

小城市の製造品出荷額の推移をみると、平成17年～平成19年にかけて増加していましたが、平成20年～平成23年は低迷し、平成17年の水準を下回ることがありました。平成24年以降は回復し、現在は増加傾向にあります。

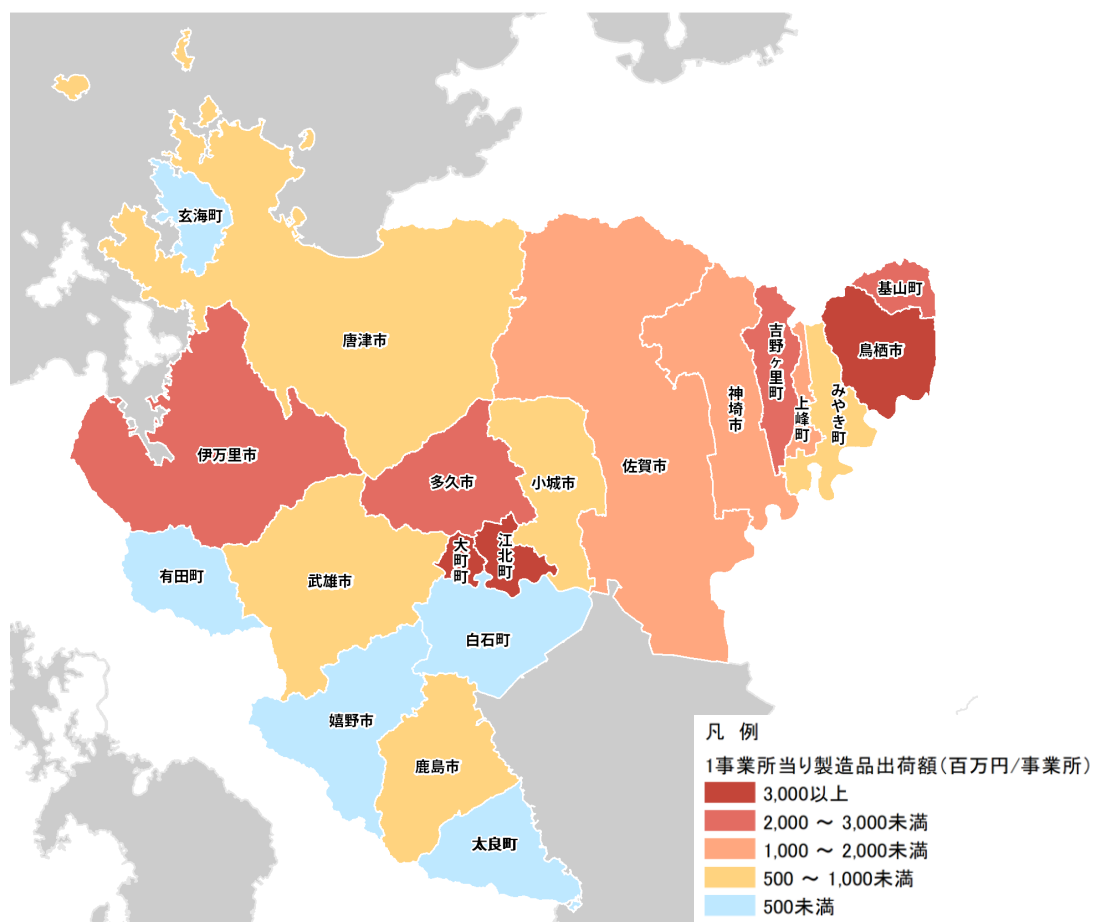


図 市町村別事業所あたり製造品出荷額 (平成28年)

出典：工業統計調査

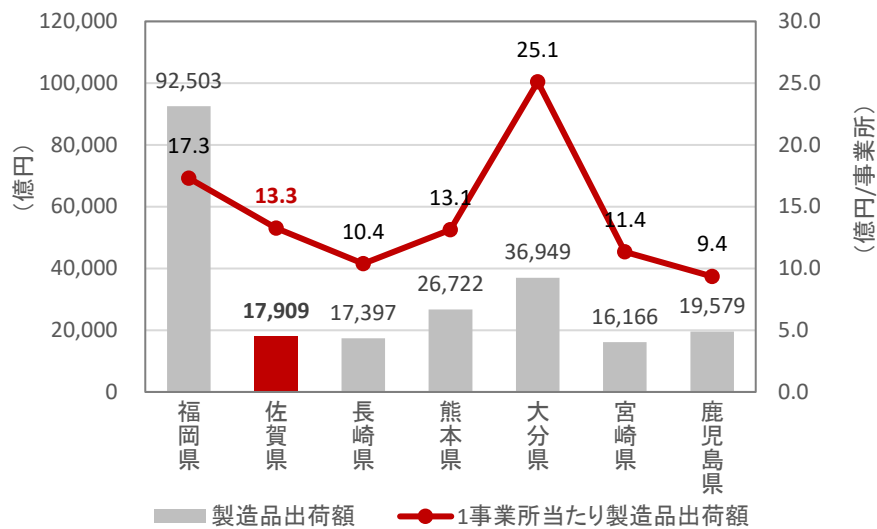


図 県別事業所あたり製造品出荷額（平成 28 年）

出典：工業統計調査

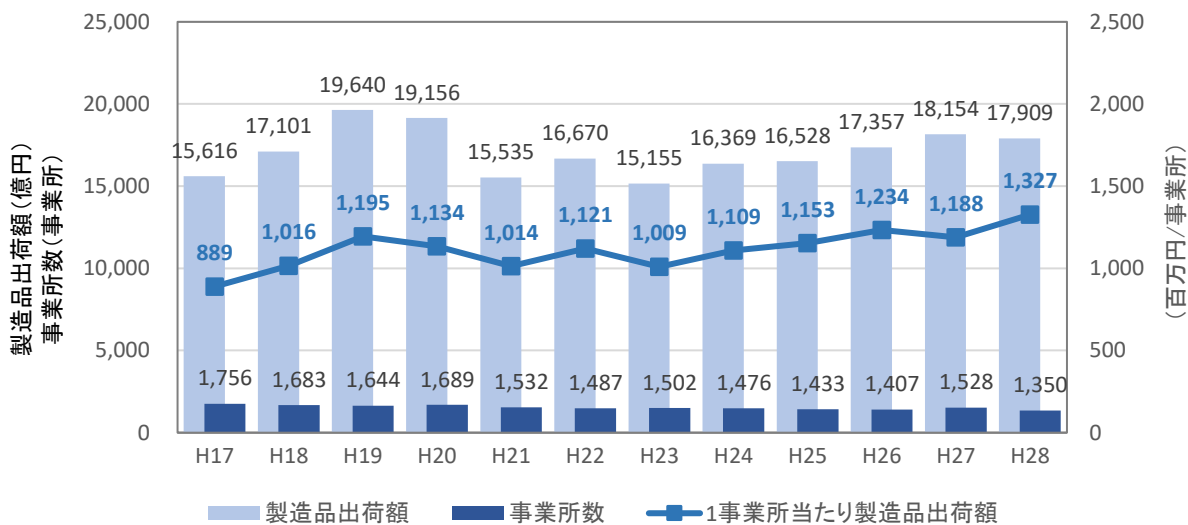


図 小城市の生産性の推移

出典：工業統計調査、経済センサス-活動調査

3-4 商業

佐賀県の年間商品販売額は減少傾向にあり、平成 26 年は平成 9 年から 7,390 億円減の 14,654 億円となっています。小城市の年間商品販売額をみると、平成 9 年から平成 26 年にかけて減少傾向にあります。対県シェアは近年増加傾向にあり、平成 26 年では佐賀県 14,654 億円に対し小城市 579 億円と佐賀県の 4.0%を占めています。

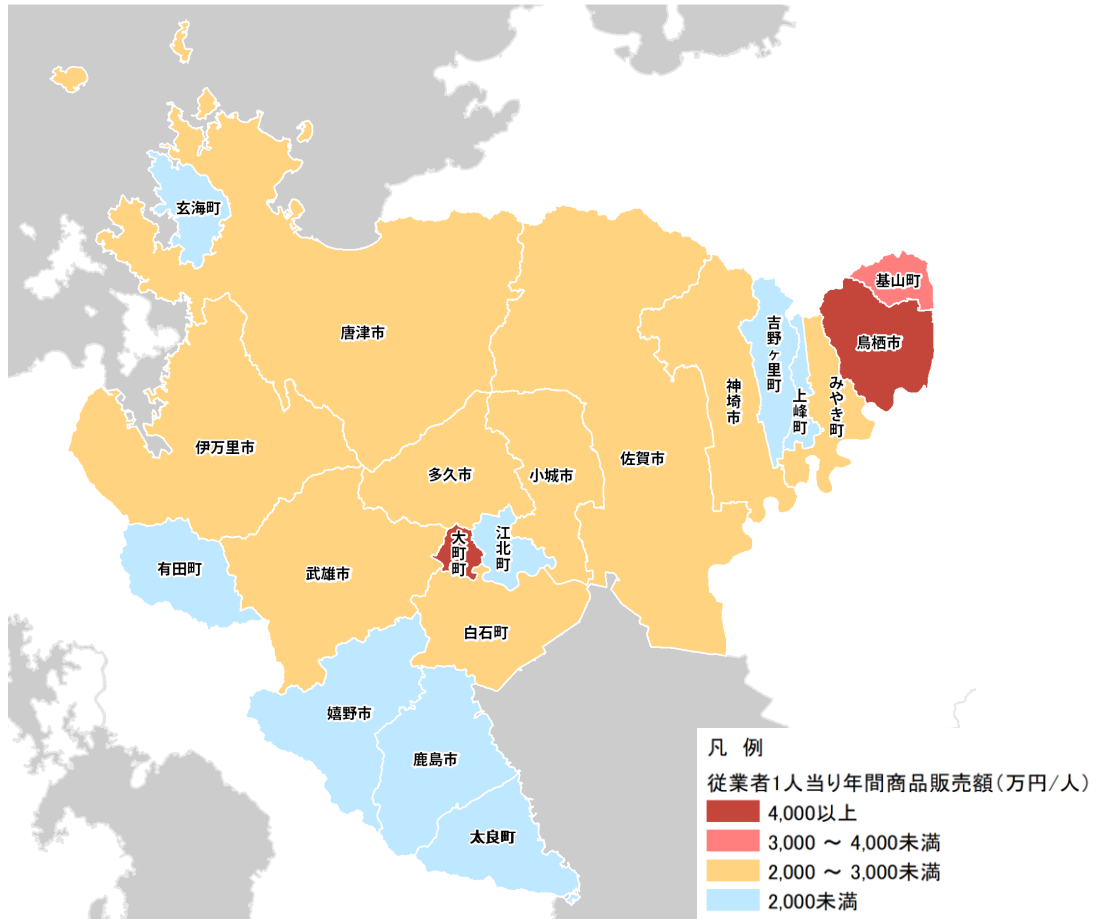


図 市町村別1人従業員当り年間商品販売額(平成26年)

出典：商業統計調査

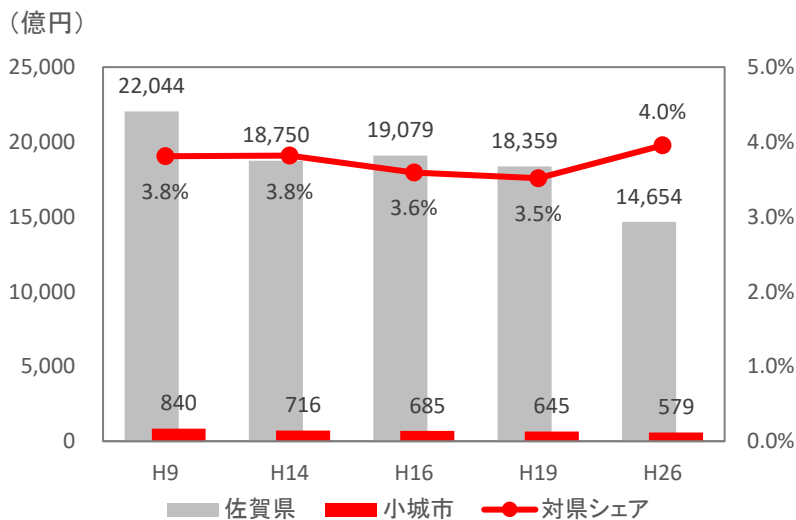


図 年間商品販売額の推移

出典：商業統計調査

3-5 観光

佐賀県の観光客数は、平成22年から平成25年にかけてほぼ横ばいの状態が続いていましたが、平成26年には35,367千人と増加し、平成26年から平成28年は増加傾向にあります。

地区別観光客数の推移をみると、平成28年の小城市を含む中部地区は、西北地区を除く他2地区とほぼ同水準の値となっており、小城市の観光客数は佐賀県全体の約1.4%を占めています。

小城市の観光客数をみると、県外からの観光客が半数以上を占めています。また、9割以上を日帰り客が占めています。

(※平成23年以降は、観光庁が定めた全国共通基準を用いて入込客数等を推計しているため、平成22年以前のデータと比較出来ません。)

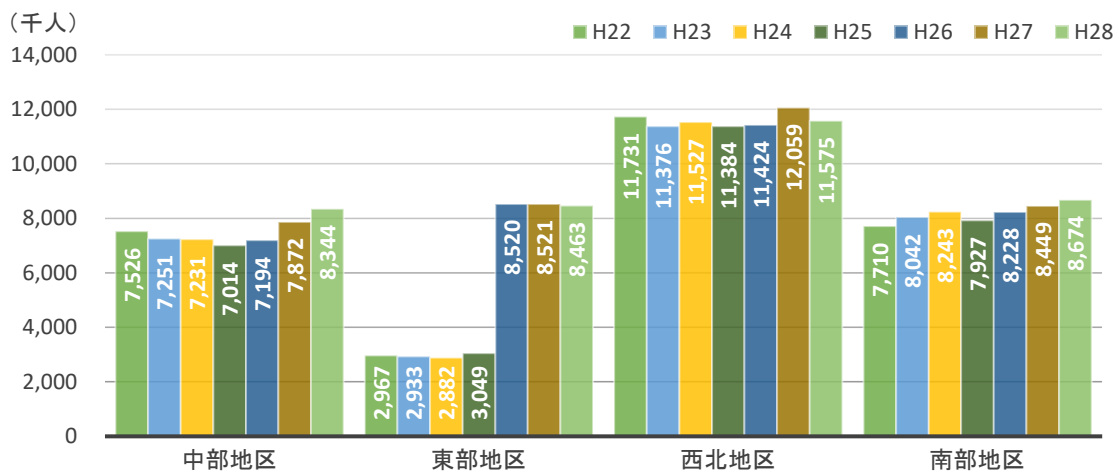


図 地区別観光客数の推移

出典：佐賀県観光客動態調査

※中部地区：佐賀市、多久市、小城市、神埼市

※東部地区：鳥栖市、吉野ヶ里町、基山町、上峰町、みやき町

※西北地区：唐津市、伊万里市、玄海町、有田町

※南部地区：武雄市、鹿島市、嬉野市、大町町、江北町、白石町、太良町

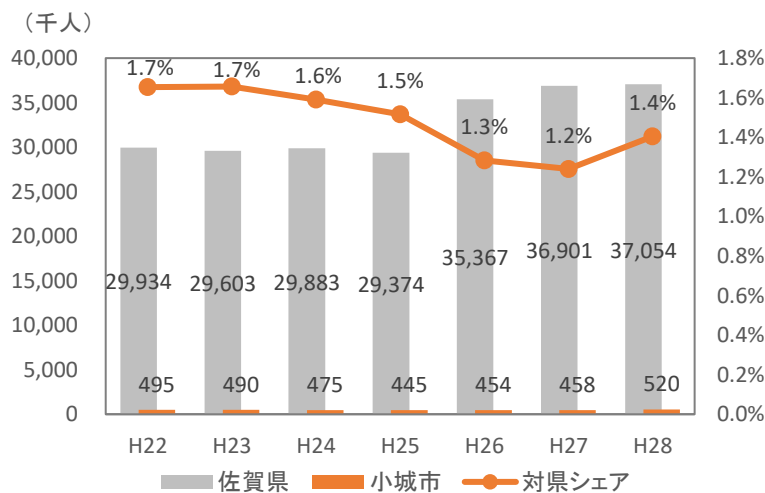


図 観光客数の推移

出典：佐賀県観光客動態調査

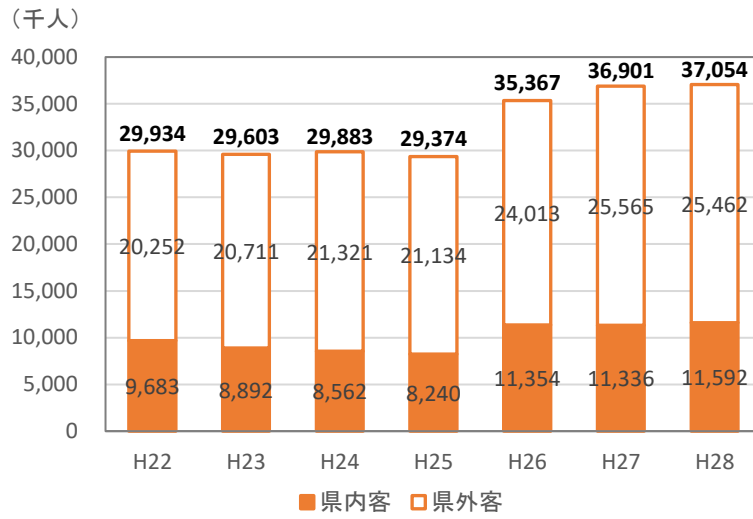


図 発地別日帰り観光客数の推移

出典：佐賀県観光客動態調査

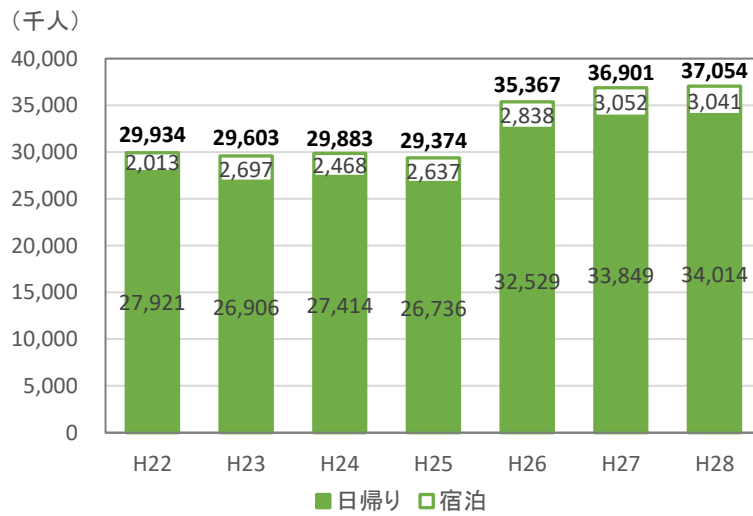


図 日帰り・宿泊別観光客数の推移

出典：佐賀県観光客動態調査

4 交通流動

4-1 旅客流動

九州内の県間旅客流動は各県とも共通しており、福岡県との繋がりが最も強くなっています。

佐賀県は福岡県への旅客流動が17,892千人と最も多く、次いで長崎県1,098千人となっており、隣接する県との繋がりが強い傾向にあります。

流動に用いられる交通手段は、自動車が54.8%と最も多くなっており、次いで鉄道の43.9%となっています。

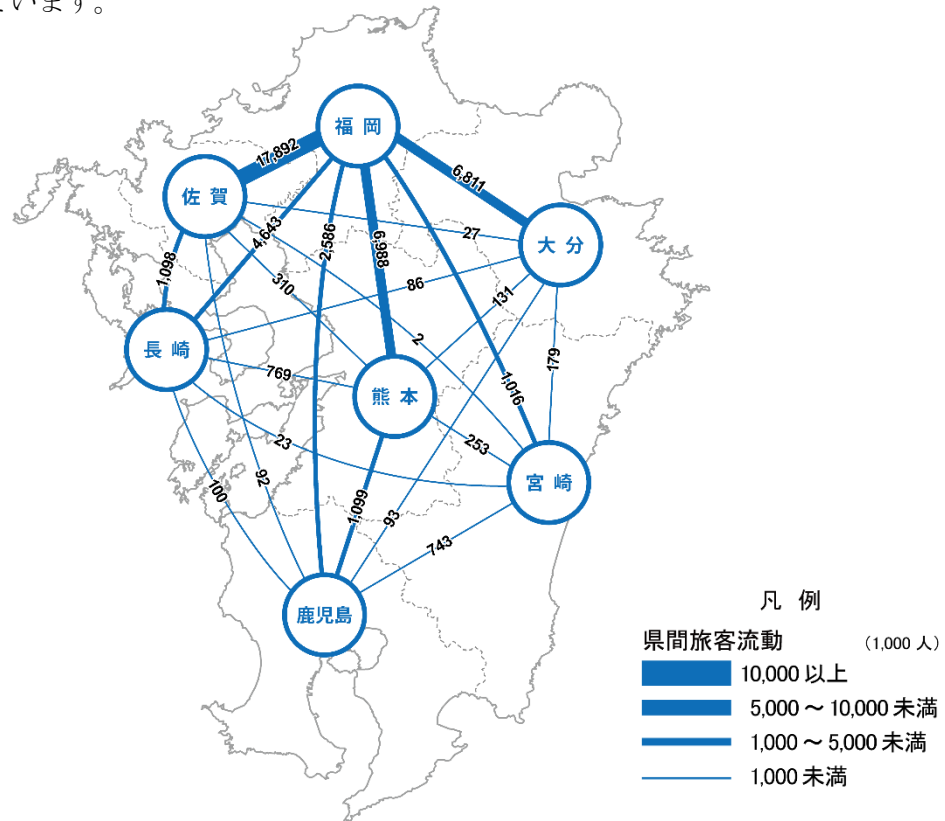


図 県間旅客流動 (平成29年度)

出典：旅客地域流動調査

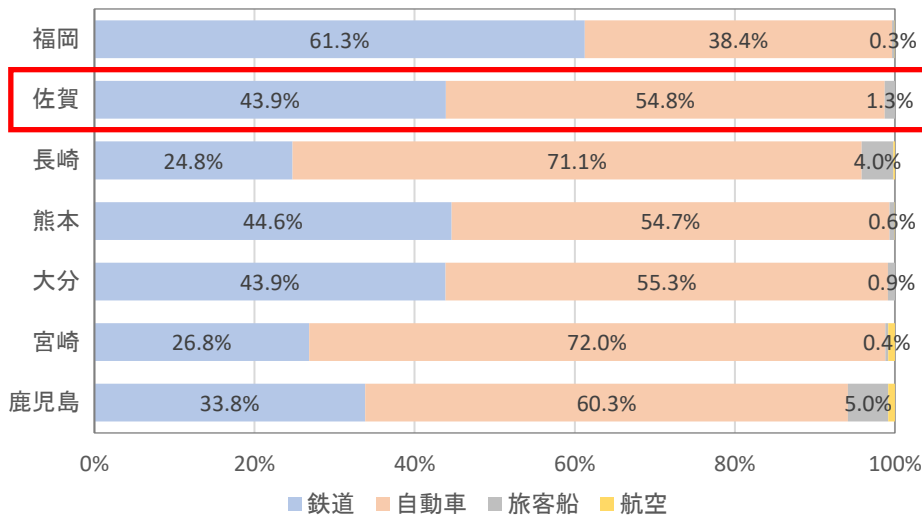


図 県別利用旅客機関の分担率 (平成29年度)

出典：旅客地域流動調査

4-2 貨物流動

九州内の県間貨物流動は、鹿児島県－宮崎県間を除き、福岡県との繋がりが最も強くなっています。

佐賀県は旅客流動と同様に、福岡県への貨物流動が 20,265 千 t と最も多く、次いで長崎県 5,004 千 t と隣接する県との繋がりが強い傾向にあります。流動に用いられる交通手段は、自動車 が 98.2% と大半を占めています。

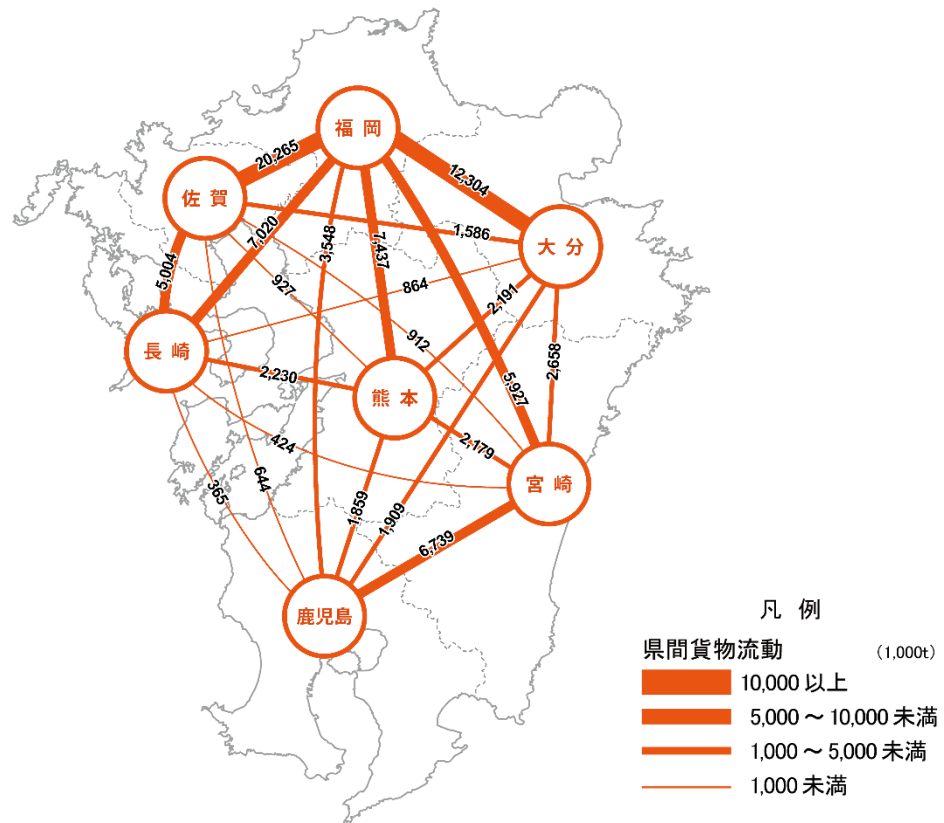


図 県間貨物流動 (平成 29 年度)

出典：貨物地域流動調査

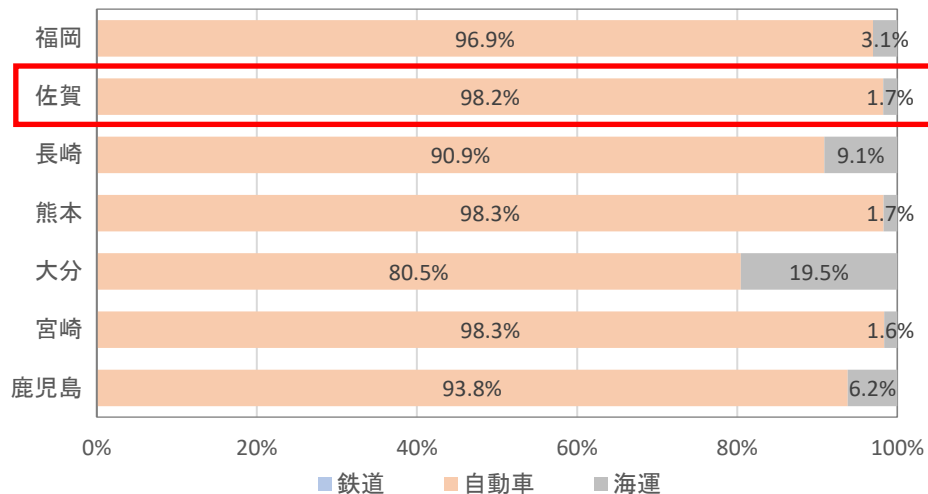


図 県別利用貨物機関の分担率 (平成 29 年度)

出典：貨物地域流動調査

第2章 小城市の現況

1 地勢・歴史

小城市は、佐賀県中部に位置し、北東部は佐賀市、西部は多久市と江北町、南部は白石町にそれぞれ接しています。また南部は、農業用クリークが縦横に広がっており、日本一の干潟である有明海に繋がっています。

地勢は、北部に天山山系の山々が連なっており、中央部には、肥沃な佐賀平野が広がっています。小城市内を流れる祇園川、晴気川、牛津川は、嘉瀬川及び六角川に合流しており、扇状地を形成し、佐賀平野を潤して有明海へと注いでいます。

小城市は、2005年3月に小城町、牛津町、三日月町、芦刈町の4町が合併し、誕生しました。小城鍋島藩の城下町として栄えた小城町、長崎街道の宿場町として賑わいをみせていた牛津町、弥生時代から大陸との交流が盛んな米どころの三日月町、農漁業のまちとして周辺の食文化を支えた芦刈町の伝統を受け継ぐ小城市は、緑豊かな自然とともに、古い歴史、伝統、文化を誇る都市です。

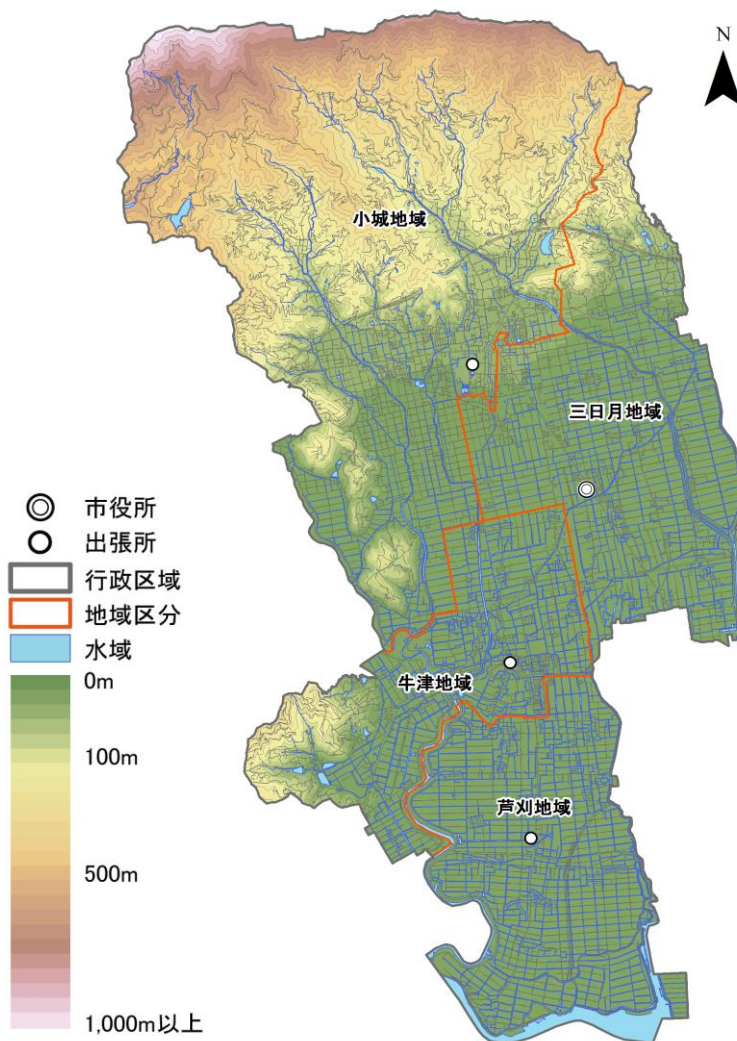


図 地形及び水系

出典：基盤地図情報

2 人口特性

2-1 現況人口

2-1-1 総人口・世帯数・世帯人員の推移

本市の人口は、平成17年まで増加傾向でしたが、その後、減少傾向で推移しており、平成27年には44,259人となっています。一方で、世帯数は年々増加しており、平成27年の世帯数は14,769世帯、世帯人員は3.00人/世帯となっています。

地域別にみると、世帯数は、平成27年時点で4地域とも増加傾向にありますが、人口は、三日月地域のみが増加しており、小城地域、牛津地域、芦刈地域は減少傾向となっています。

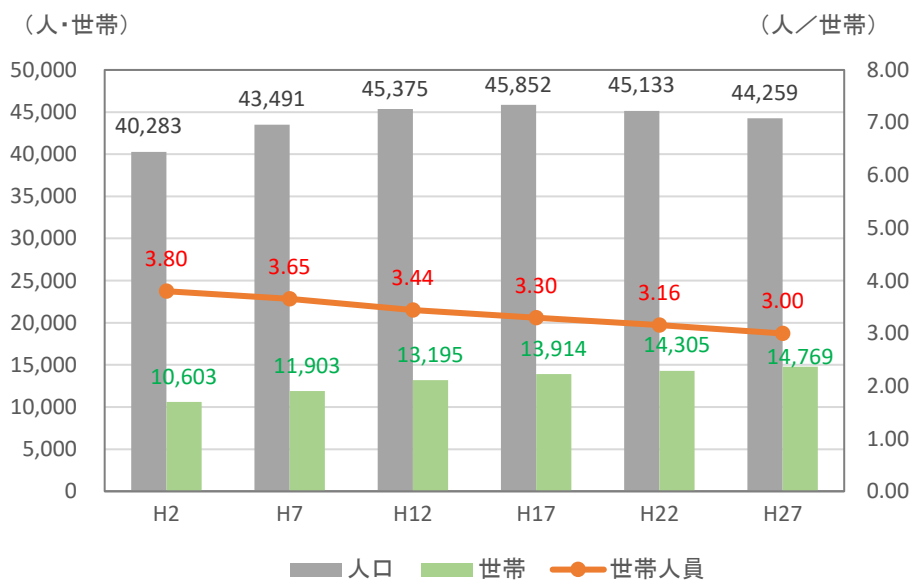


図 人口・世帯数の推移

出典：国勢調査

(人)

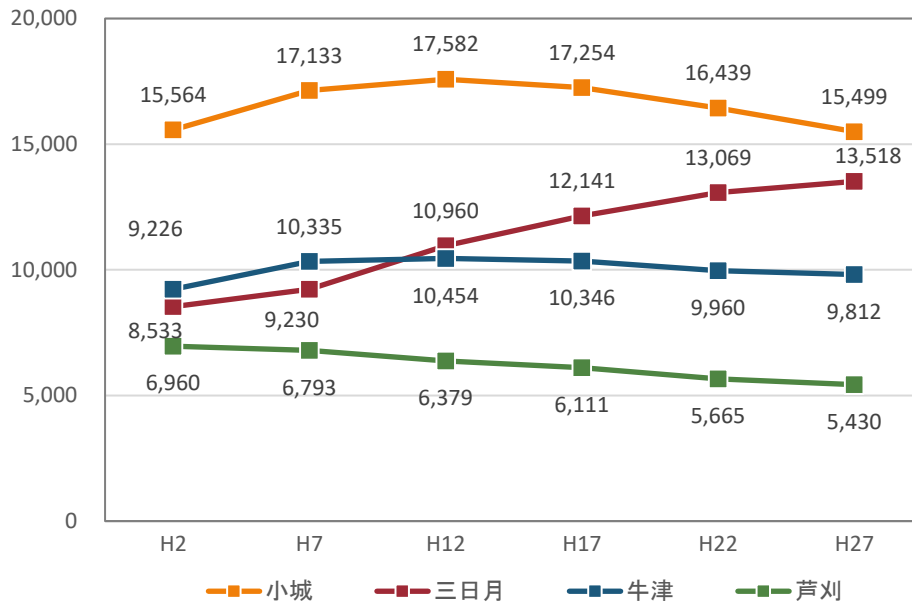


図 人口の推移

出典：国勢調査

表 地域別人口の推移

	小城	三日月	牛津	芦刈
H2	15,564	8,533	9,226	6,960
H7	17,133	9,230	10,335	6,793
H12	17,582	10,960	10,454	6,379
H17	17,254	12,141	10,346	6,111
H22	16,439	13,069	9,960	5,665
H27	15,499	13,518	9,812	5,430
H17/H12	-1.9%	10.8%	-1.0%	-4.2%
H22/H17	-4.7%	7.6%	-3.7%	-7.3%
H27/H22	-5.7%	3.4%	-1.5%	-4.1%

出典：国勢調査

表 地域別世帯数の推移

	小城	三日月	牛津	芦刈
H2	4,217	2,182	2,553	1,651
H7	4,791	2,456	2,979	1,677
H12	5,181	3,162	3,159	1,693
H17	5,338	3,614	3,284	1,678
H22	5,269	4,081	3,310	1,645
H27	5,309	4,368	3,396	1,696
H17/H12	3.0%	14.3%	4.0%	-0.9%
H22/H17	-1.3%	12.9%	0.8%	-2.0%
H27/H22	0.8%	7.0%	2.6%	3.1%

出典：国勢調査

2-1-2 年齢別人口の推移

①年齢3区分別人口

15歳未満人口は、平成7（1995）年まで増加していましたが、平成12（2000）年に65歳以上人口を下回ると、以降は減少傾向に転じています。

65歳以上人口は、平成2（1990）年から現在まで増加傾向にあり、今後も緩やかに推移し続け、令和22（2040）年には12,811人と推計されており、平成2（1990）年から約2倍となっています。

15～64歳人口は、平成17（2005）年まで増加傾向にあったものの、その後は減少に転じ、平成27（2015）年現在では26,194人となっています。

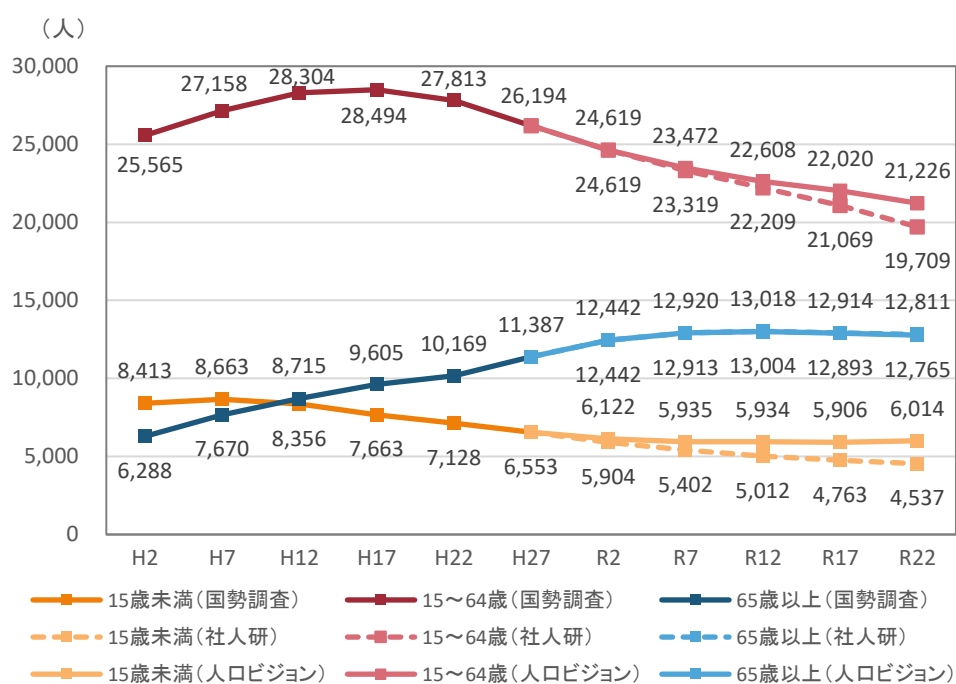


図 年齢別人口の推移

出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所、小城市人口ビジョン

②5 歳階級別人口

20 歳以下の若年層及び 45 歳～49 歳人口が大きく減少しています。一方、60 歳以上は増加傾向にあります。以上のことから、本市では人口の少子高齢化が進行していくと考えられます。

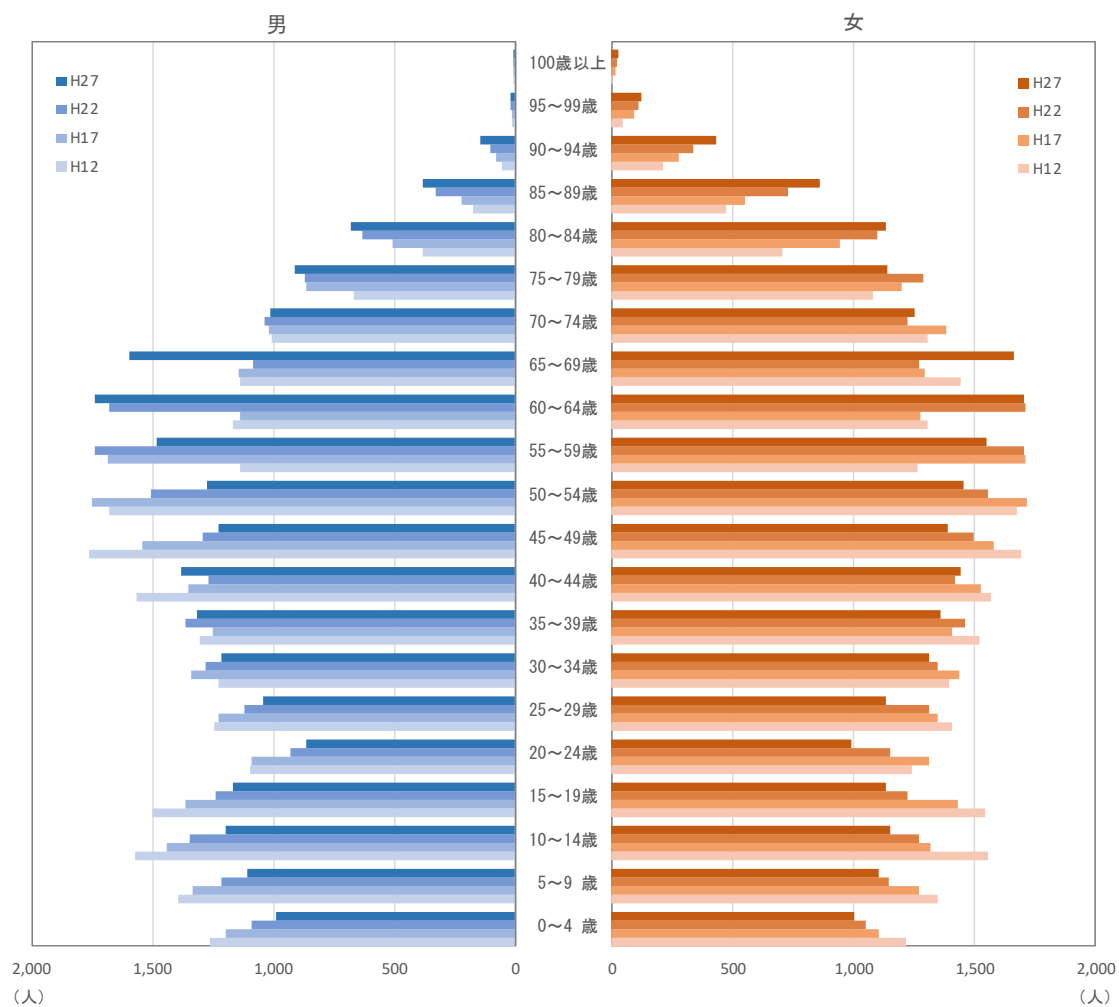


図 男女別 5 歳階級別人口

出典：国勢調査

2-1-3 人口分布

(1) 500m メッシュ人口 (総人口)

①人口密度 (平成 27 年)

市役所、及び出張所周辺に人口が集中しており、山間部である北部は、人口の少ないエリアとなっています。また、鉄道や主要道路から外れた地域にもメッシュがみられ、市全体に人口が分布しています。

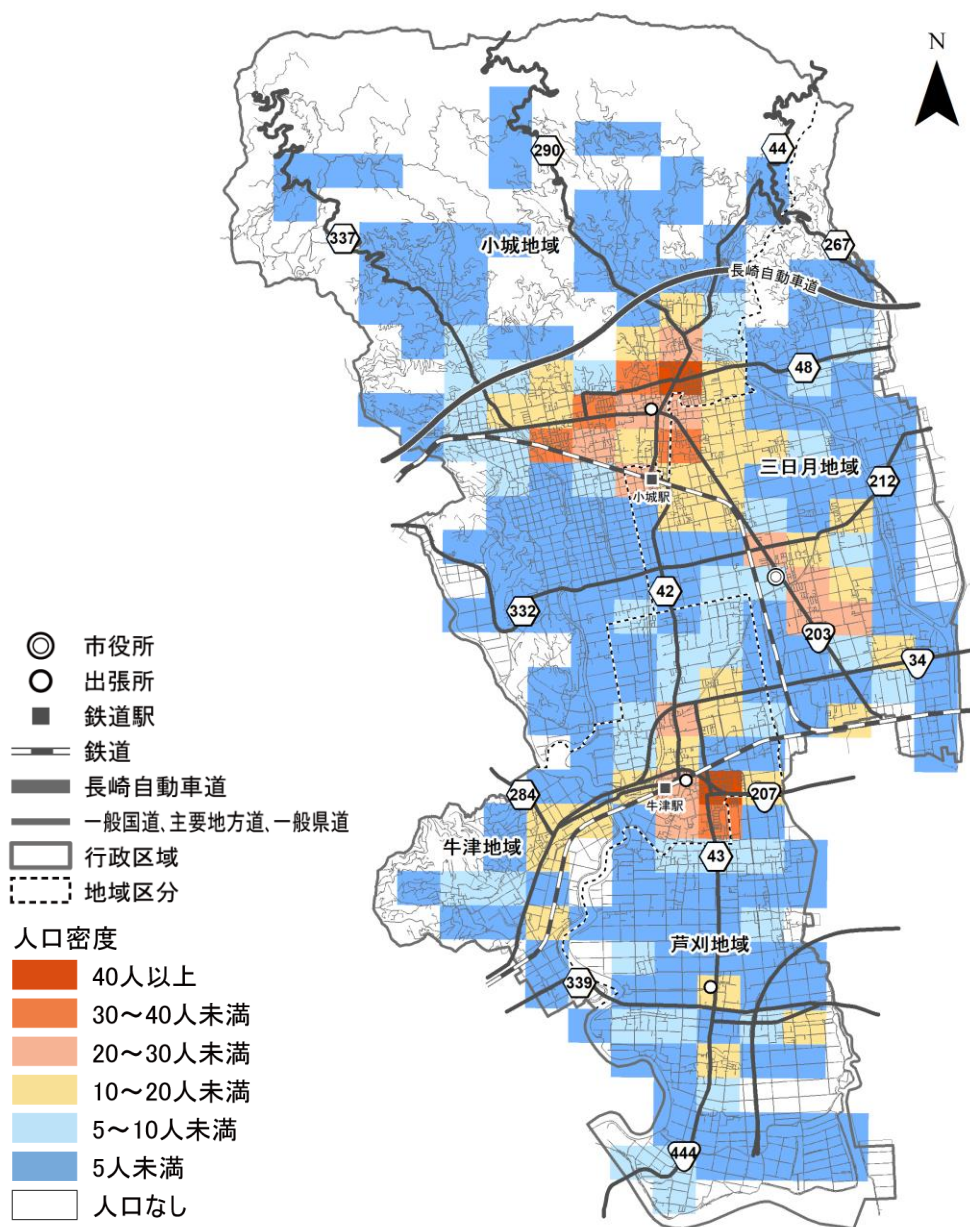


図 人口密度 (平成 27 年)

出典：国勢調査

②人口増減（平成12年～17年、平成17年～22年、平成22年～27年）

平成12年～17年は人口増減の大きい箇所がみられますが、平成17年以降は大幅な人口増減は少なくなり、人口増減の平準化傾向がみられます。

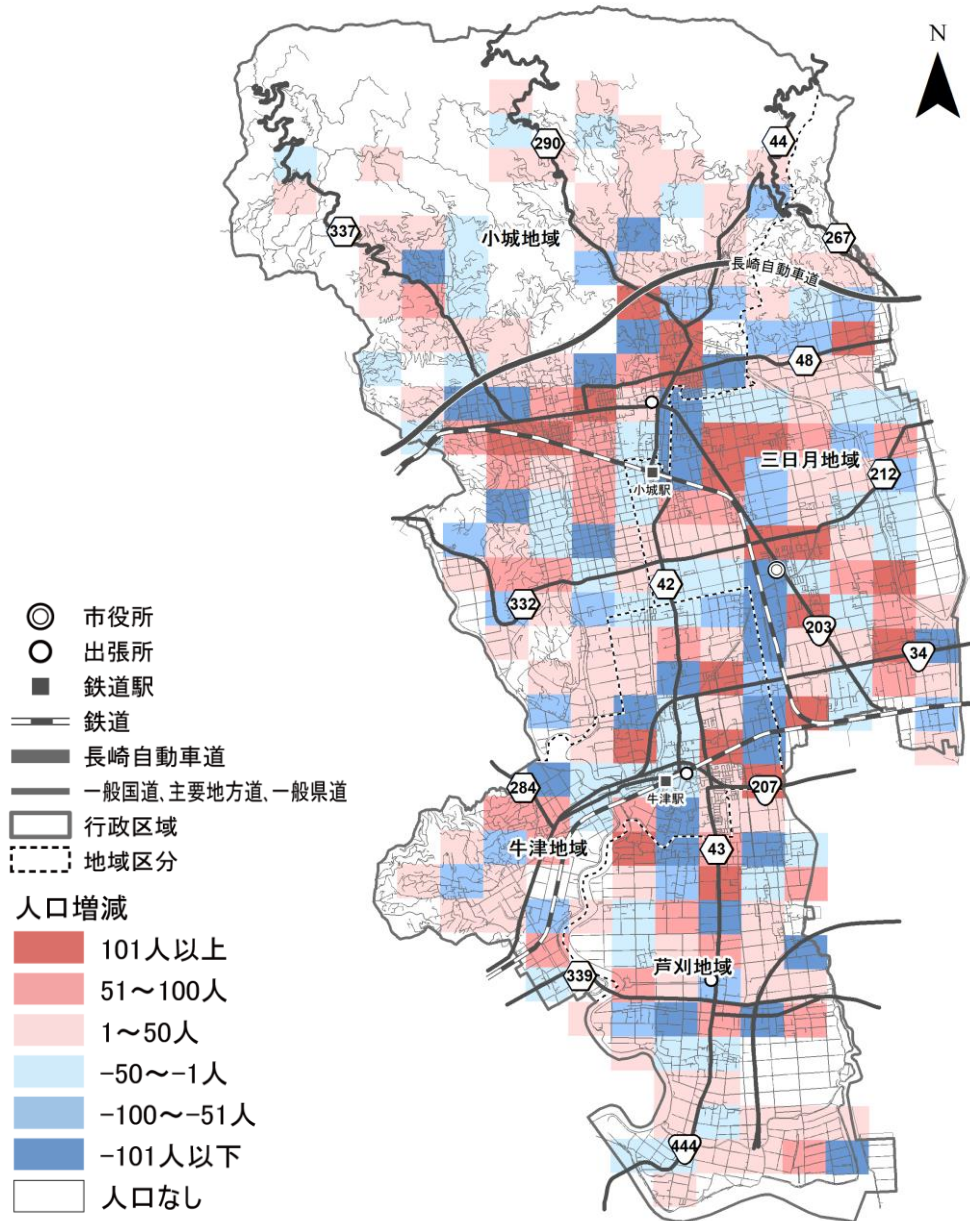


図 人口増減数（平成12年～17年）

出典：国勢調査

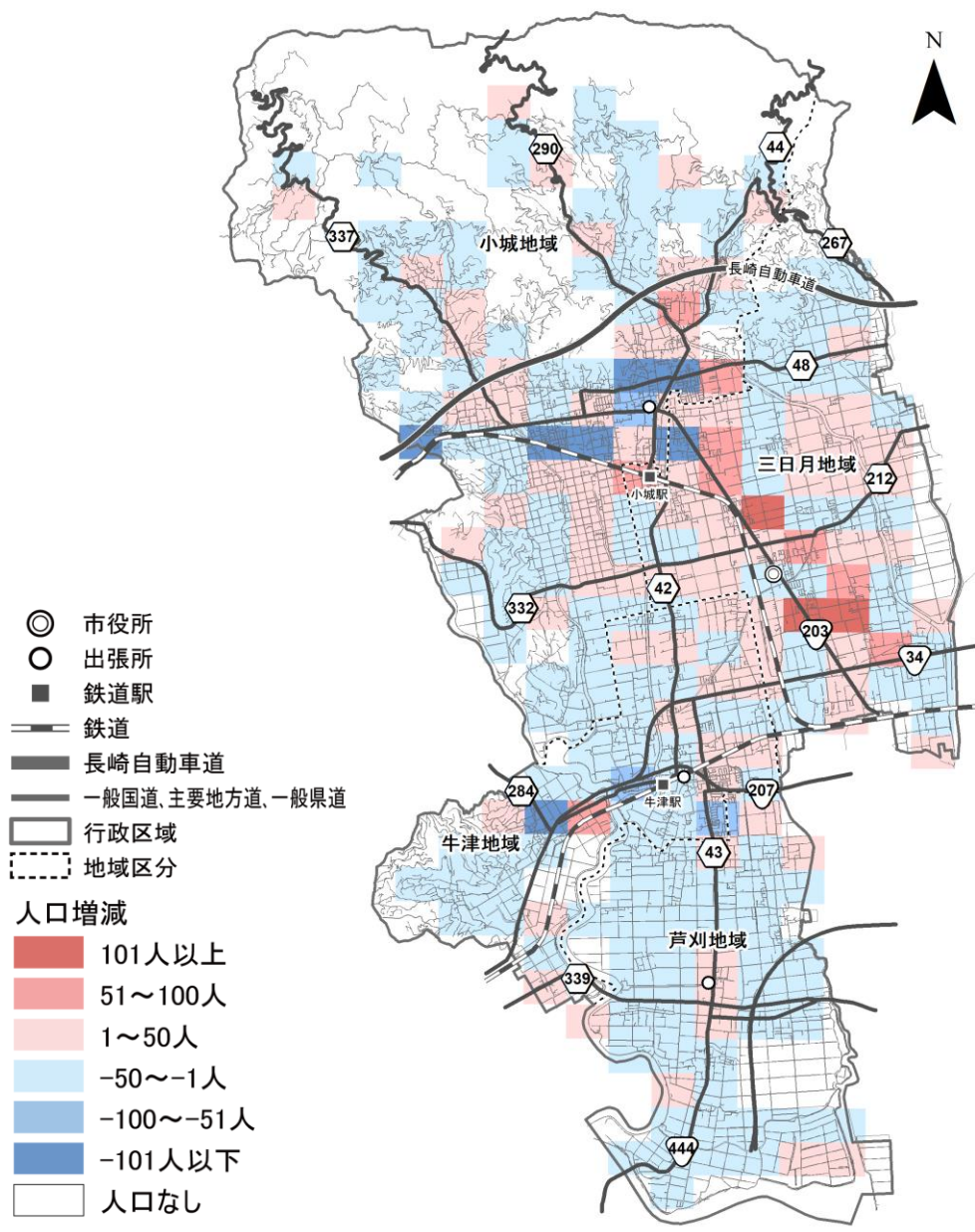


図 人口増減数（平成17年～22年）

出典：国勢調査

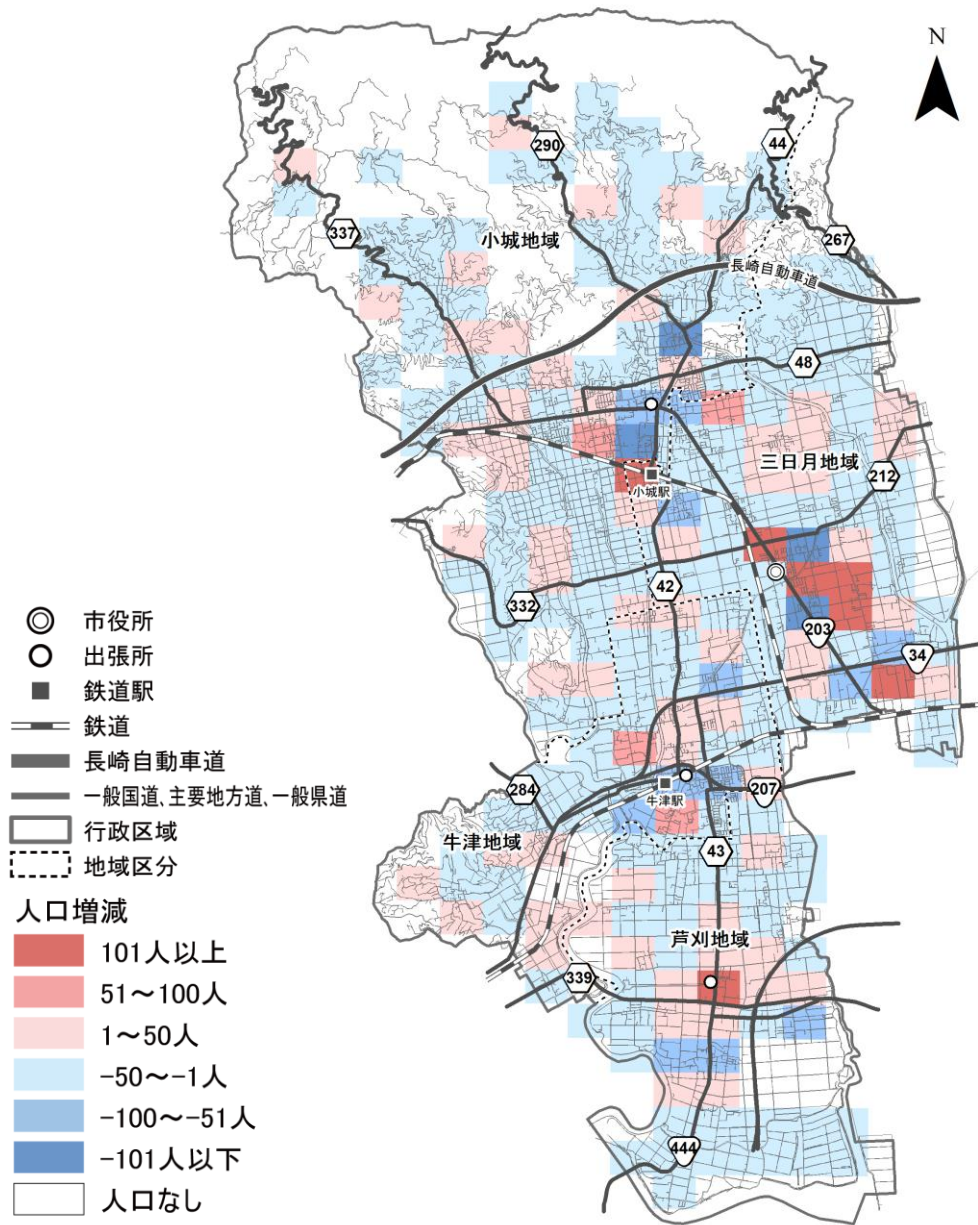


図 人口増減数（平成 22 年～27 年）

出典：国勢調査

(2) 地区別人口（年齢3区分別人口）

①年少人口割合（15歳未満人口）

郊外部や小城地域の山間部で年少人口割合が低くなっています。一方、鉄道駅周辺や三日月地域で比較的高い地区がみられます。

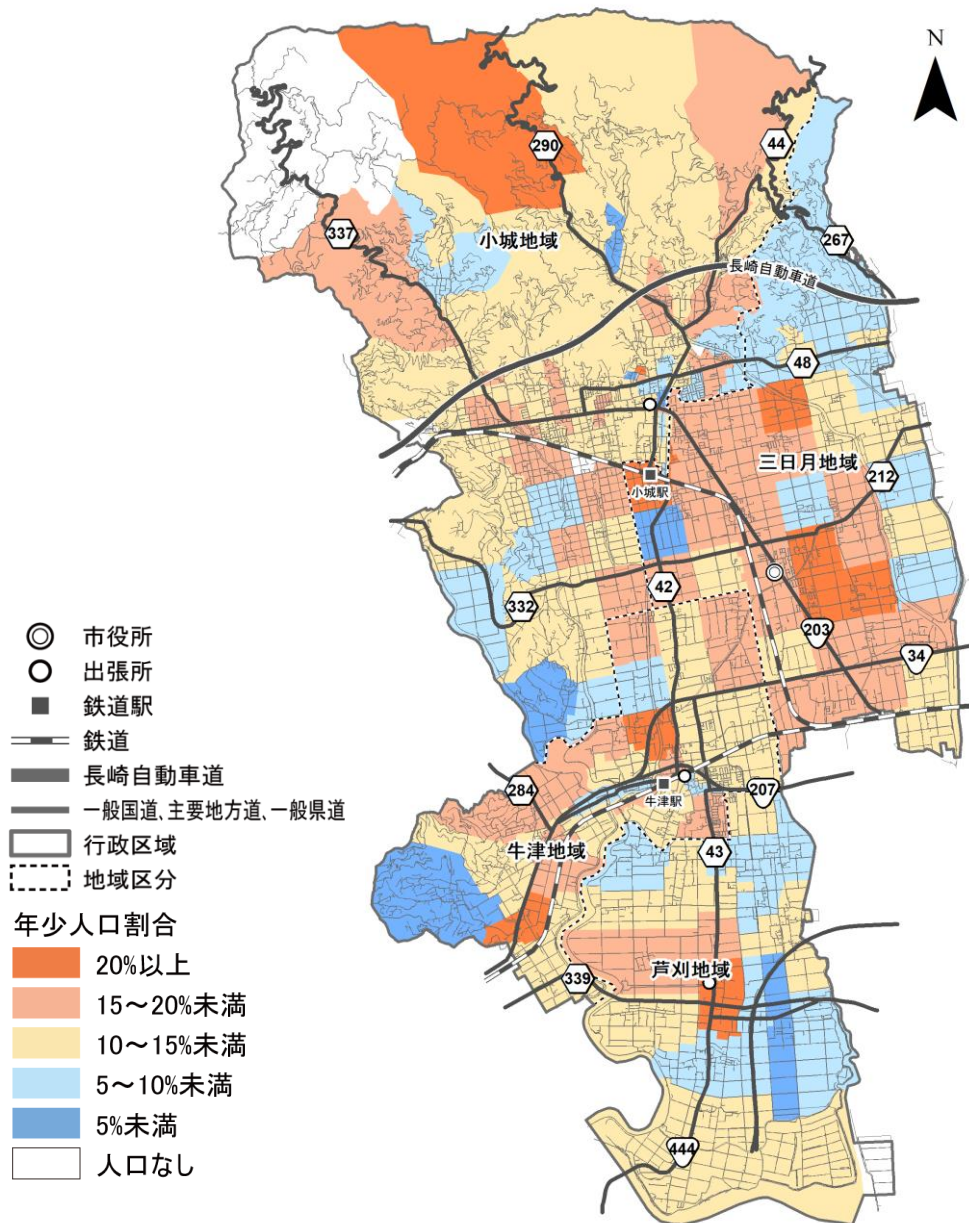


図 年少人口割合（平成 27 年）

出典：国勢調査

②生産年齢人口割合（15～65歳未満人口）

三日月地域や小城地域の一部が比較的高くなっています。

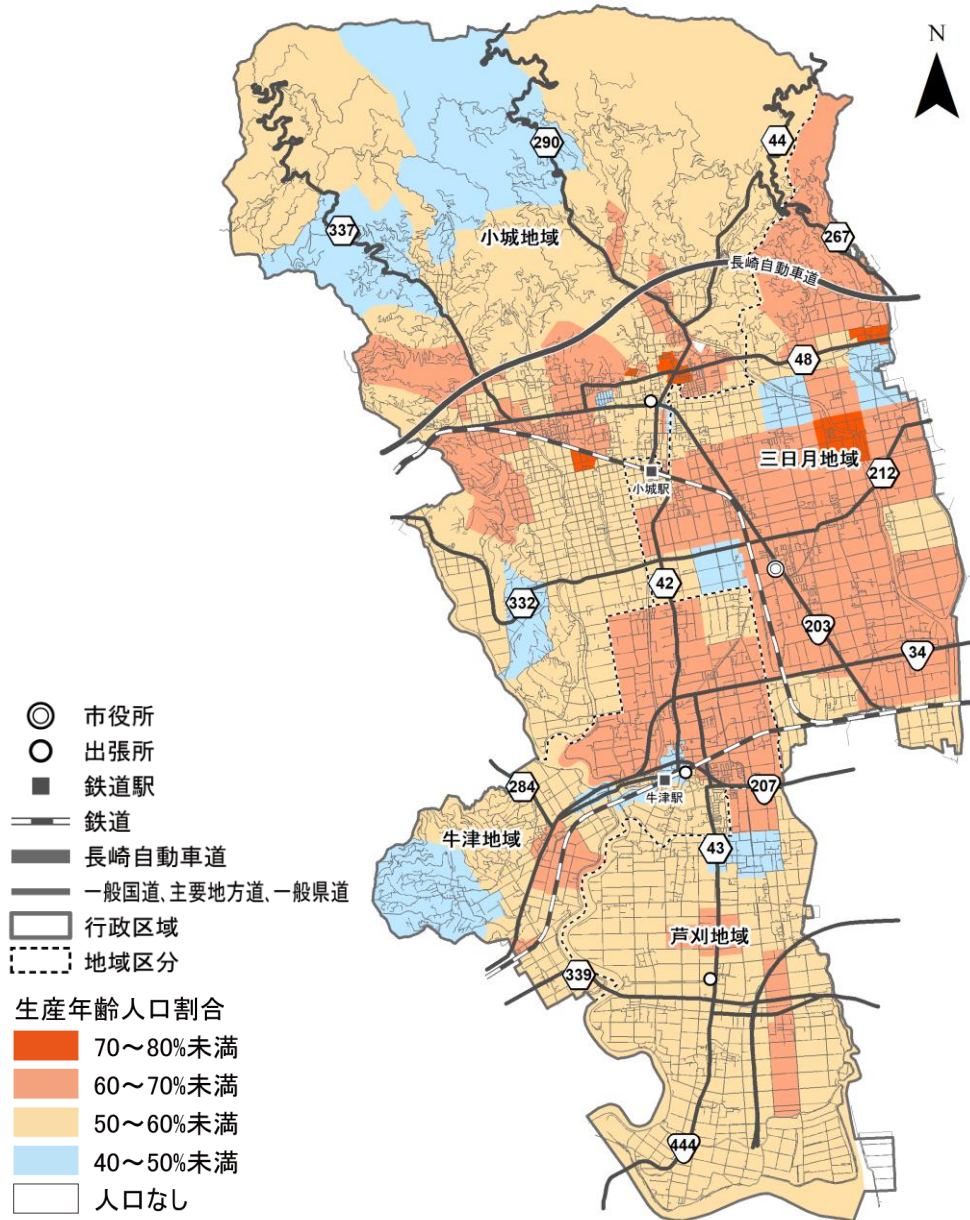


図 生産年齢人口割合（平成27年）

出典：国勢調査

③老年人口割合（65歳以上人口）

山間部で老年人口割合が高い傾向にありますが、人口が集中する三日月地域の中心部などは、低い傾向にあります。芦刈地域は全域で割合が高い傾向にあります。

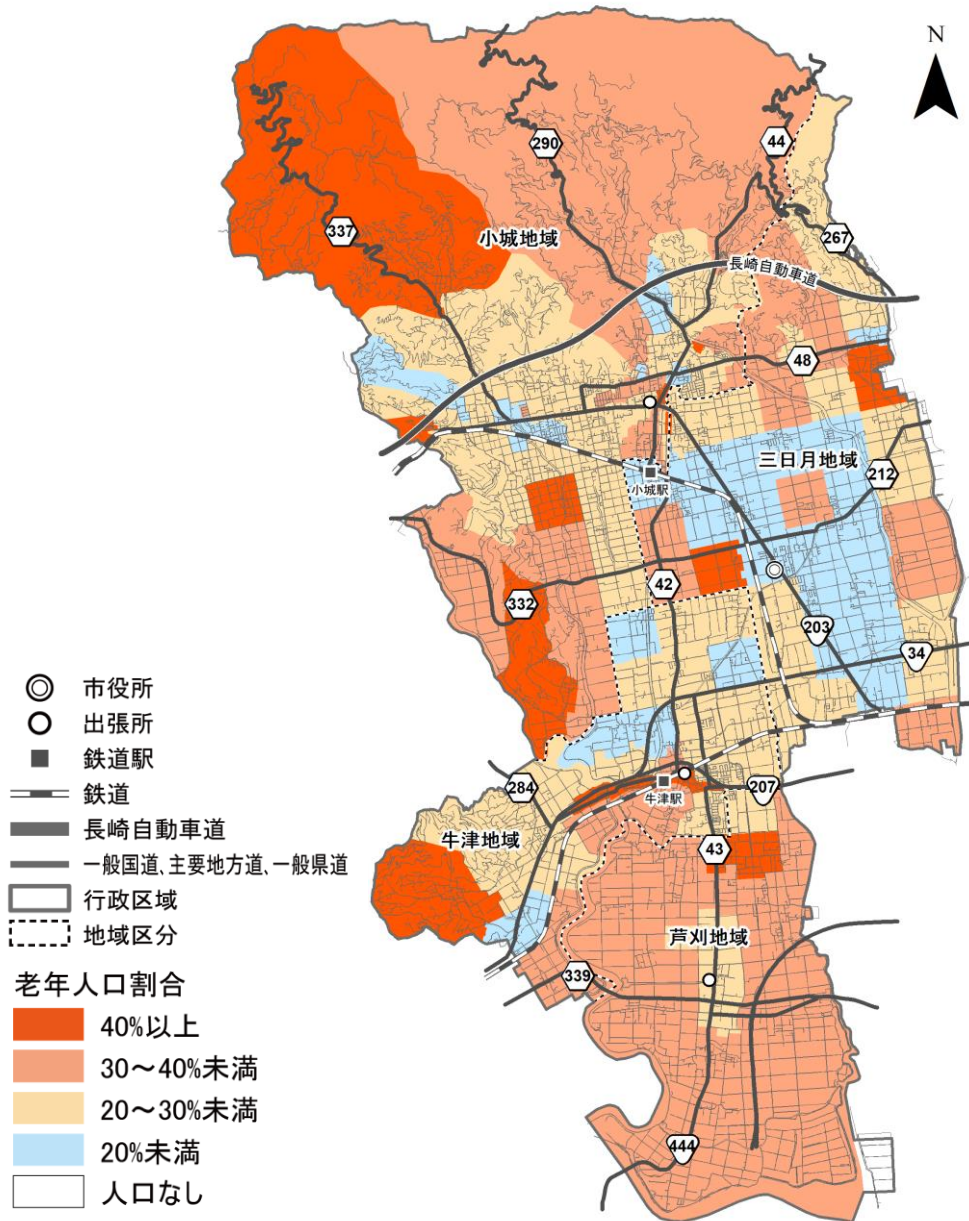


図 老年人口割合（平成 27 年）

出典：国勢調査

2-2 人口の将来見通し

2-2-1 総人口の将来予測

小城市人口ビジョンでは、令和 27 (2045) 年の将来目標人口を 40,005 人と設定しています。国立社会保障人口問題研究所 (以降、社人研という) の予測に基づく小城市の将来人口についてみると、令和 27 (2045) 年は 35,377 人で、平成 27 (2015) 年の 44,259 人に対し、8,882 人 (約 20%) の減少と予測されています。これは、小城市人口ビジョンの推計値より約 4,600 人少なく予測されています。

4 地域別に将来人口を予測すると、小城地域が 3,621 人減と最も人口減少が大きく、続いて牛津地域 (2,097 人減)、三日月地域 (1,637 人減)、芦刈地域 (1,527 人減) となります。三日月地域は平成 27 (2015) 年までは人口増加がみられますが、令和 2 (2020) 年からは人口減少が予測されます。

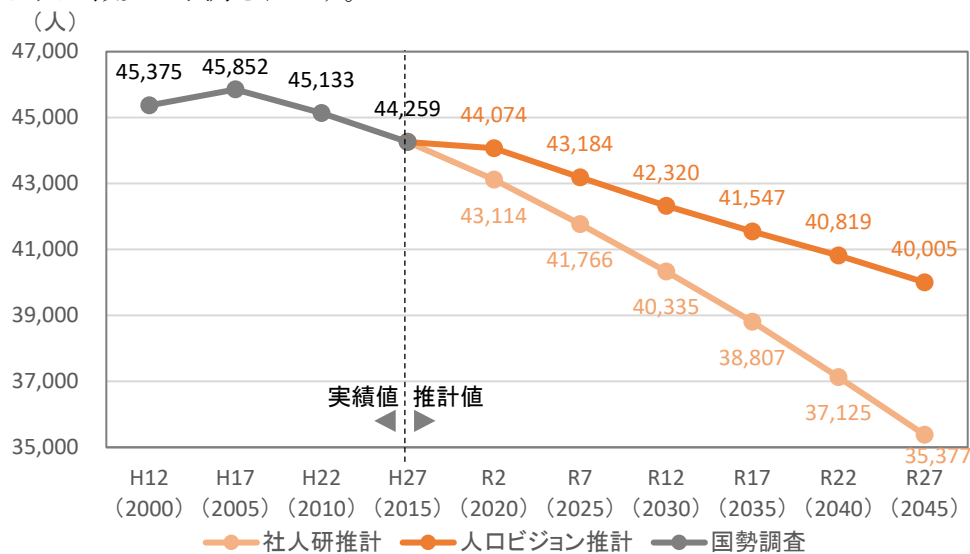


図 将来人口の予測

出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所、小城市人口ビジョン

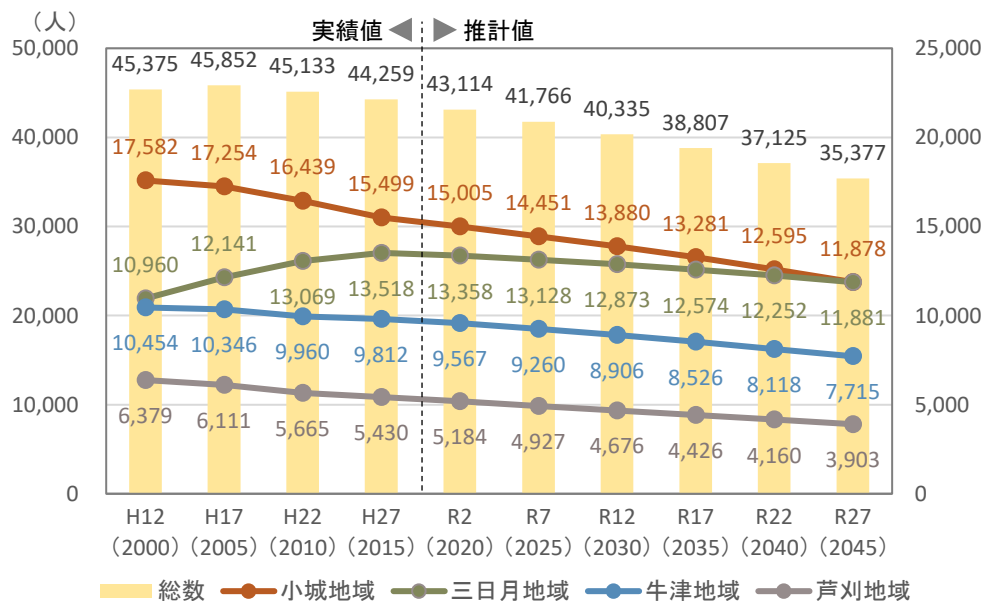


図 将来人口の予測 (地域別)

出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所、小城市人口ビジョン

2-2-2 年齢3区分別人口の将来予測

地域別に将来人口をみると、全地域で人口減少がみられ、市全体では平成12（2000）年から令和27（2045）年にかけて、約1万人の減少が推計されています。

また15歳未満人口は、全地域で平成12（2000）年から令和27（2045）年にかけて約半数に減少すると推計されています。

令和2（2020）年以降の15～64歳人口は、5年ごとに約1千人ずつ減少すると推計されていますが、65歳以上人口には大きな増減はみられません。しかし、構成別にみると、65歳以上人口の割合が緩やかに高くなり、高齢化が進行していくと予想されます。

表 年齢別地域別将来人口の予測

		小城地域				三日月地域				牛津地域				芦刈地域				(人)
		15歳未満	15～64歳	65歳以上	計	15歳未満	15～64歳	65歳以上	計	15歳未満	15～64歳	65歳以上	計	15歳未満	15～64歳	65歳以上	計	
実績値	H12 (2000)	3,341	10,784	3,457	17,582	2,160	6,873	1,927	10,960	1,844	6,749	1,861	10,454	1,011	3,898	1,470	6,379	
	H17 (2005)	2,794	10,651	3,779	17,224	2,352	7,596	2,174	12,122	1,692	6,574	2,047	10,313	825	3,673	1,605	6,103	
	H22 (2010)	2,387	10,169	3,878	16,434	2,508	8,127	2,422	13,057	1,528	6,152	2,274	9,954	705	3,365	1,595	5,665	
	H27 (2015)	2,065	9,110	4,317	15,492	2,426	8,357	2,737	13,520	1,438	5,749	2,617	9,804	642	3,038	1,752	5,432	
推計値	R2 (2020)	1,938	8,300	4,767	15,005	2,234	8,059	3,065	13,358	1,364	5,273	2,937	9,574	605	2,779	1,808	5,192	
	R7 (2025)	1,825	7,660	4,997	14,482	2,054	7,773	3,306	13,133	1,259	4,978	3,034	9,271	600	2,542	1,793	4,935	
	R12 (2030)	1,793	7,072	5,074	13,939	1,855	7,562	3,478	12,895	1,168	4,771	2,974	8,913	583	2,326	1,778	4,687	
	R17 (2035)	1,699	6,757	4,855	13,311	1,737	7,139	3,700	12,576	1,101	4,487	2,943	8,531	545	2,199	1,682	4,426	
	R22 (2040)	1,607	6,313	4,712	12,632	1,653	6,613	3,990	12,256	1,033	4,233	2,861	8,127	509	2,099	1,559	4,167	
	R27 (2045)	1,505	5,932	4,467	11,904	1,568	6,180	4,132	11,880	983	3,955	2,782	7,720	474	1,975	1,448	3,897	

出典：国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツール

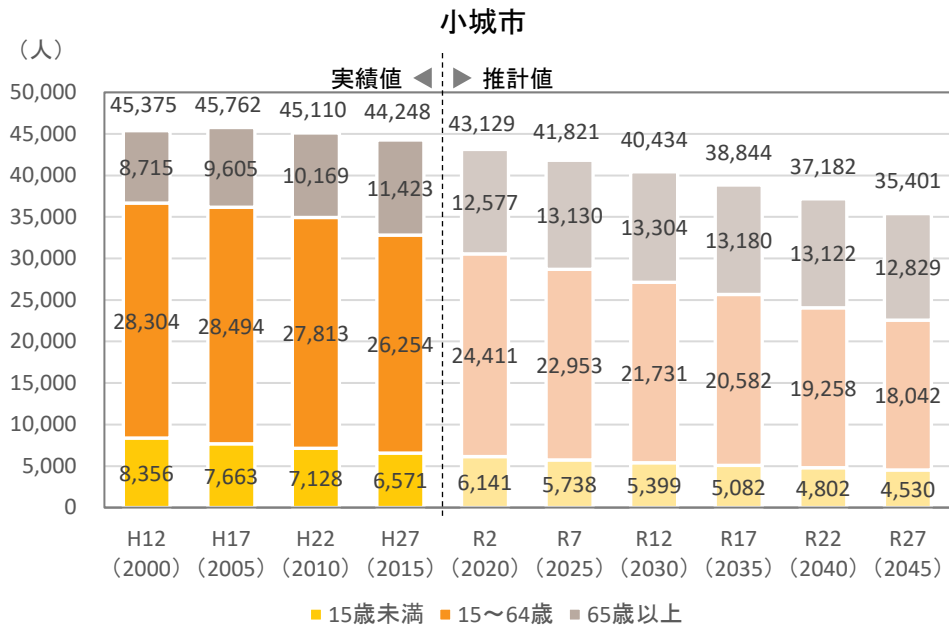


図 年齢3区分別人口の予測（小城市）

出典：国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツール

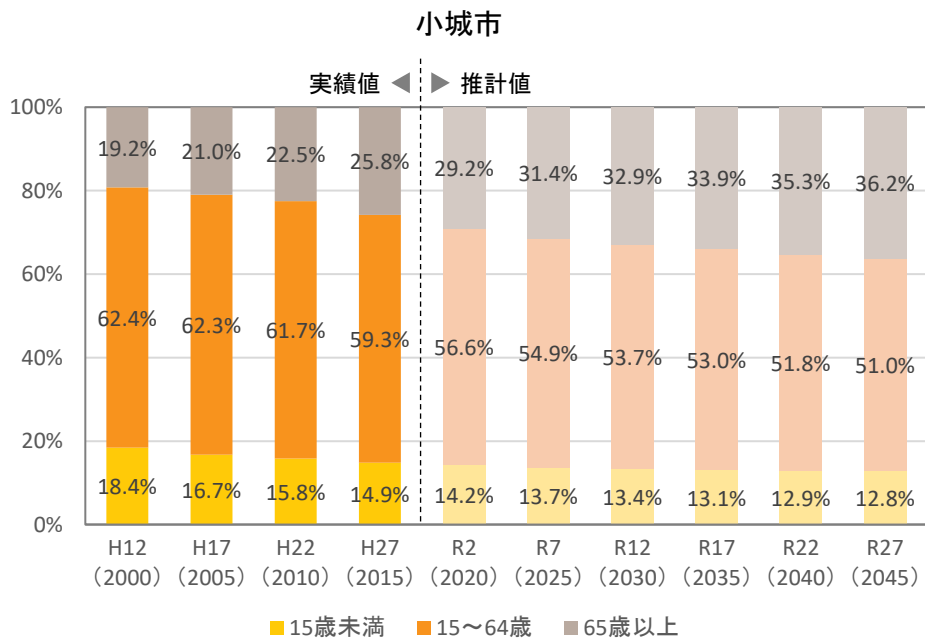


図 年齢3区分別人口の予測（構成比）（小城市）

出典：国土技術政策総合研究所人口 将来人口・世帯予測ツール

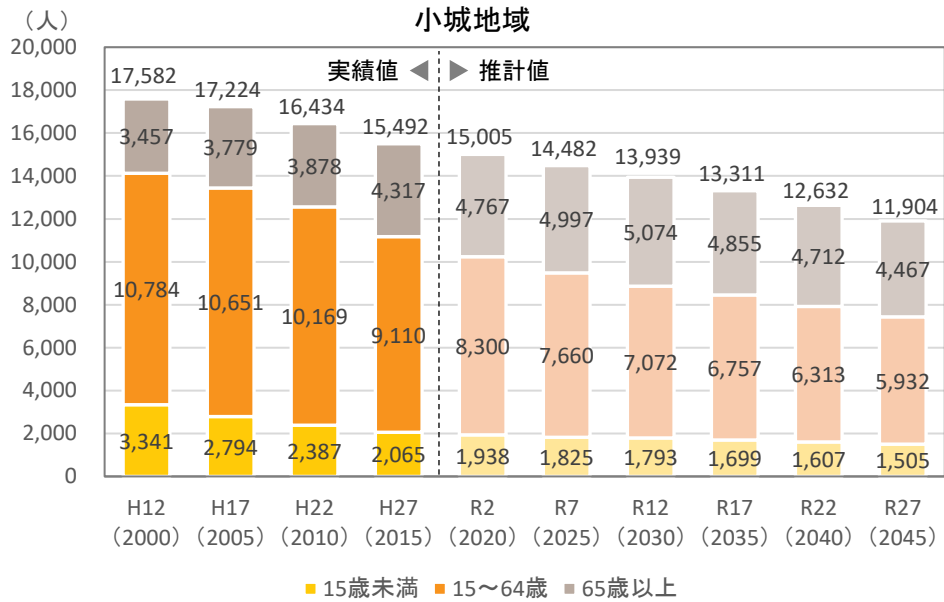


図 年齢3区分別人口の予測（小城地域）

出典：国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツール

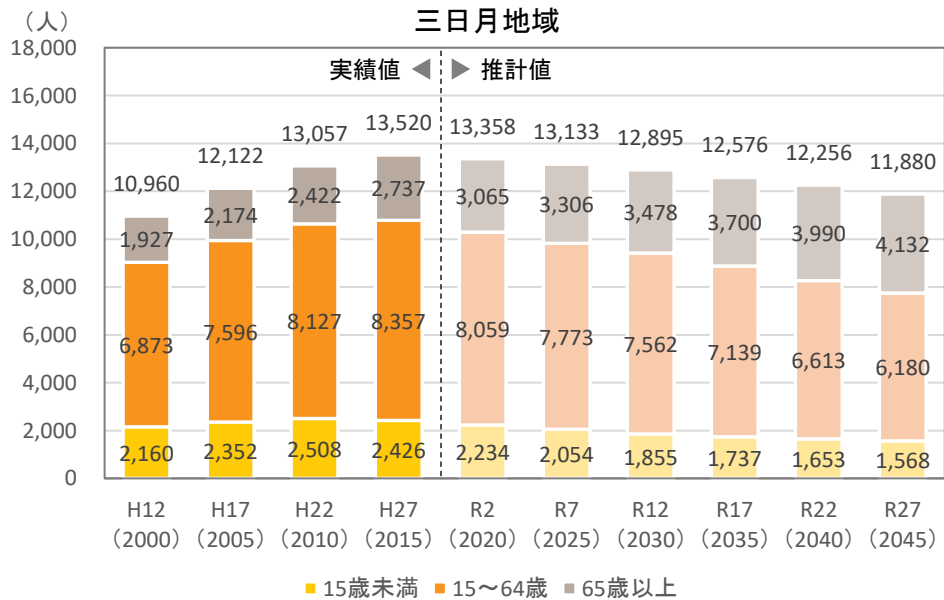


図 年齢3区分別人口の予測（三日月地域）

出典：国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツール

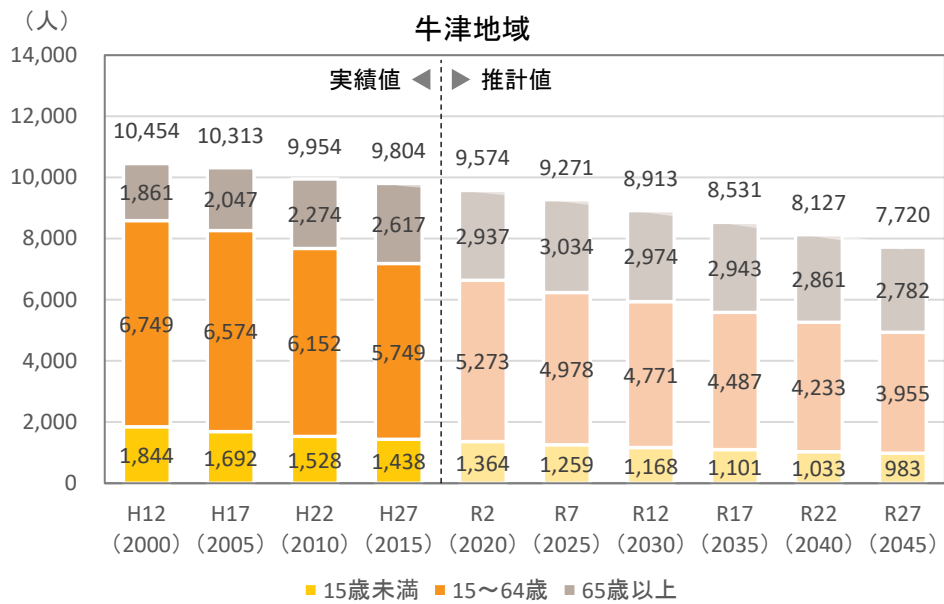


図 年齢3区分別人口の予測（牛津地域）

出典：国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツール

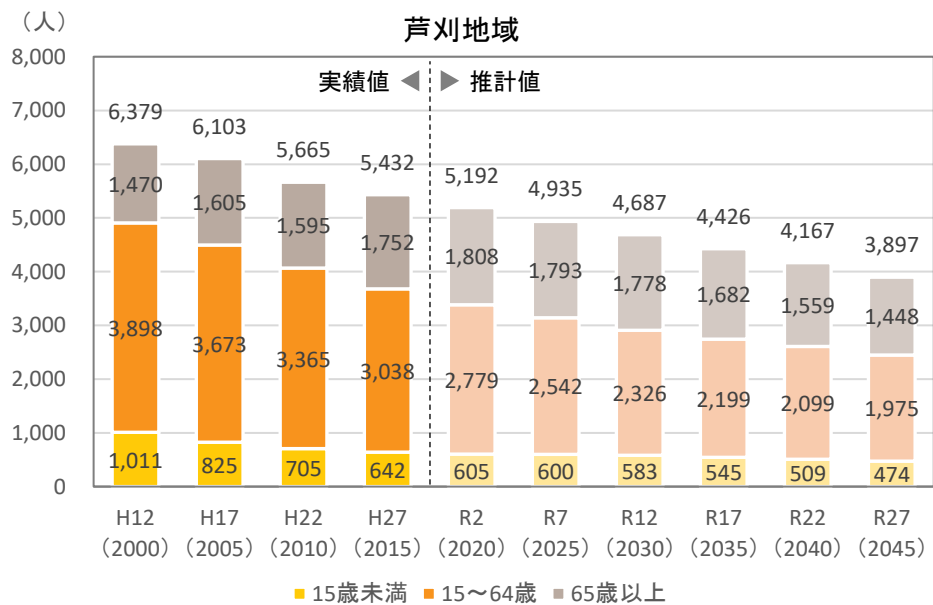


図 年齢3区分別人口の予測（芦刈地域）

出典：国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツール

2-2-3 メッシュ別将来人口密度

①総人口密度（100mメッシュ）

総人口密度は、市中心部で60人/haを超えるメッシュがみられ、その周辺では40人/haを超えるメッシュが多くなっています。

また、三日月地域の市役所周辺、牛津地域の牛津駅周辺は平成27年、令和27年ともに40人/haを超えるメッシュがみられます。

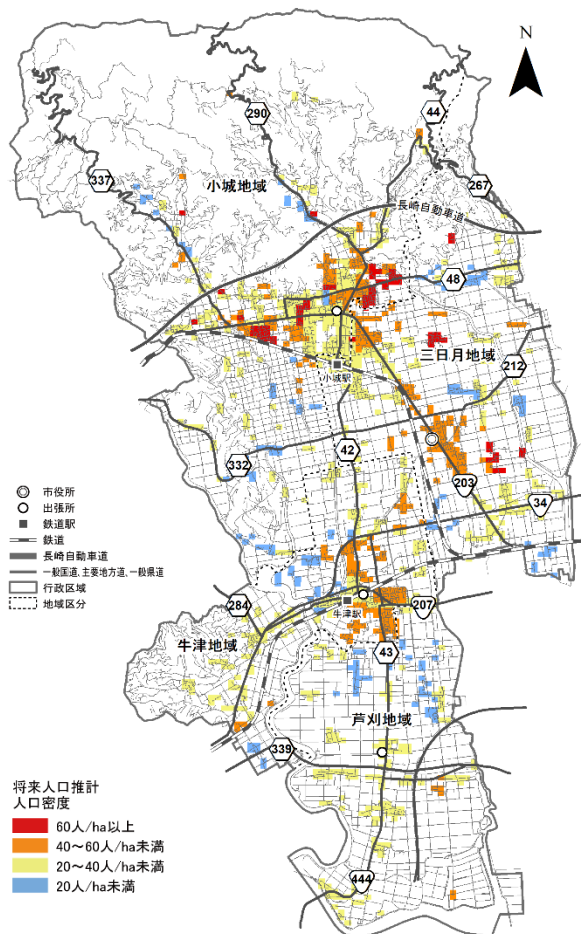


図 グロス人口密度（平成27年）

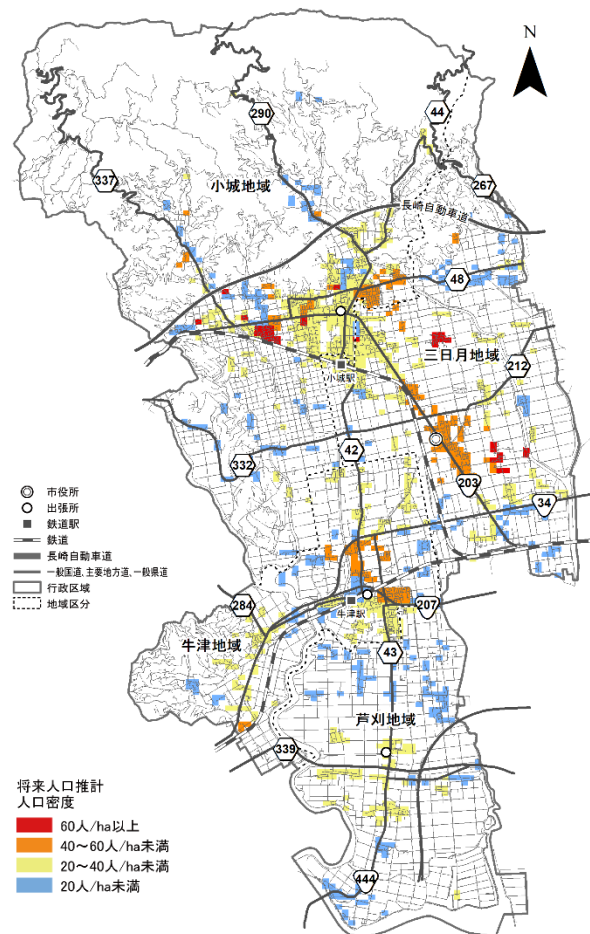


図 グロス人口密度（令和27年）

出典：国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツール

②年齢3区分別人口増減（100m メッシュ）

【年少人口増減率（15歳未満人口）】

年少人口増減率をみると、小城駅、牛津駅を中心に40%以上減少していますが、小城地域の中部と山間部、牛津地域の南西部で40%以上増加しています。

三日月地域は比較的若い年齢層が集まっている地域ですが、年少人口の大幅な増加はみられません。

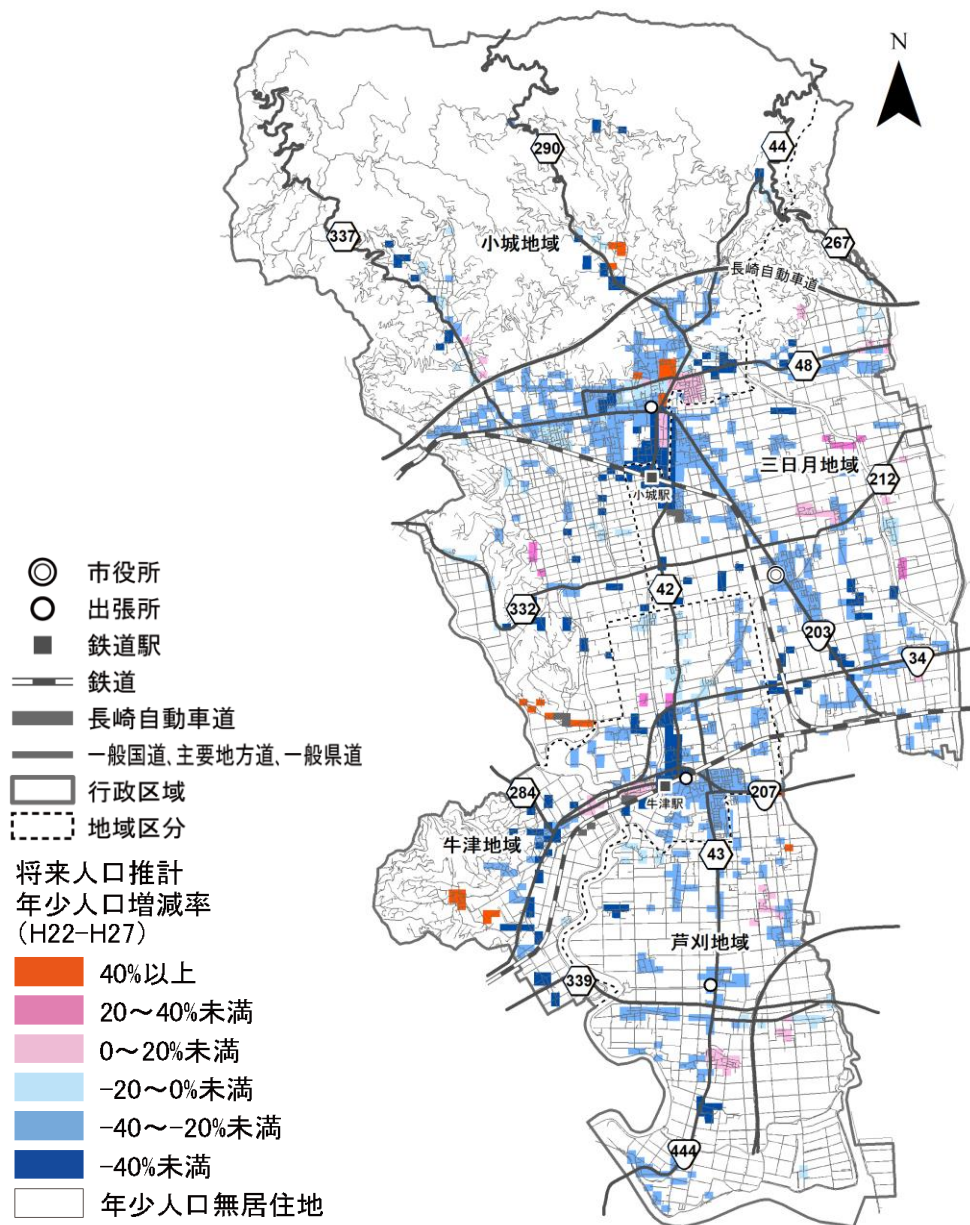


図 年少人口増減率（平成22年～27年）

出典：国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツール

【生産年齢人口増減率（15～65歳人口）】

生産年齢人口も年少人口と同様、小城駅、牛津駅を中心に40%以上の減少がみられます。全体的に減少傾向ですが、牛津地域と芦刈地域の一部には増加がみられます。

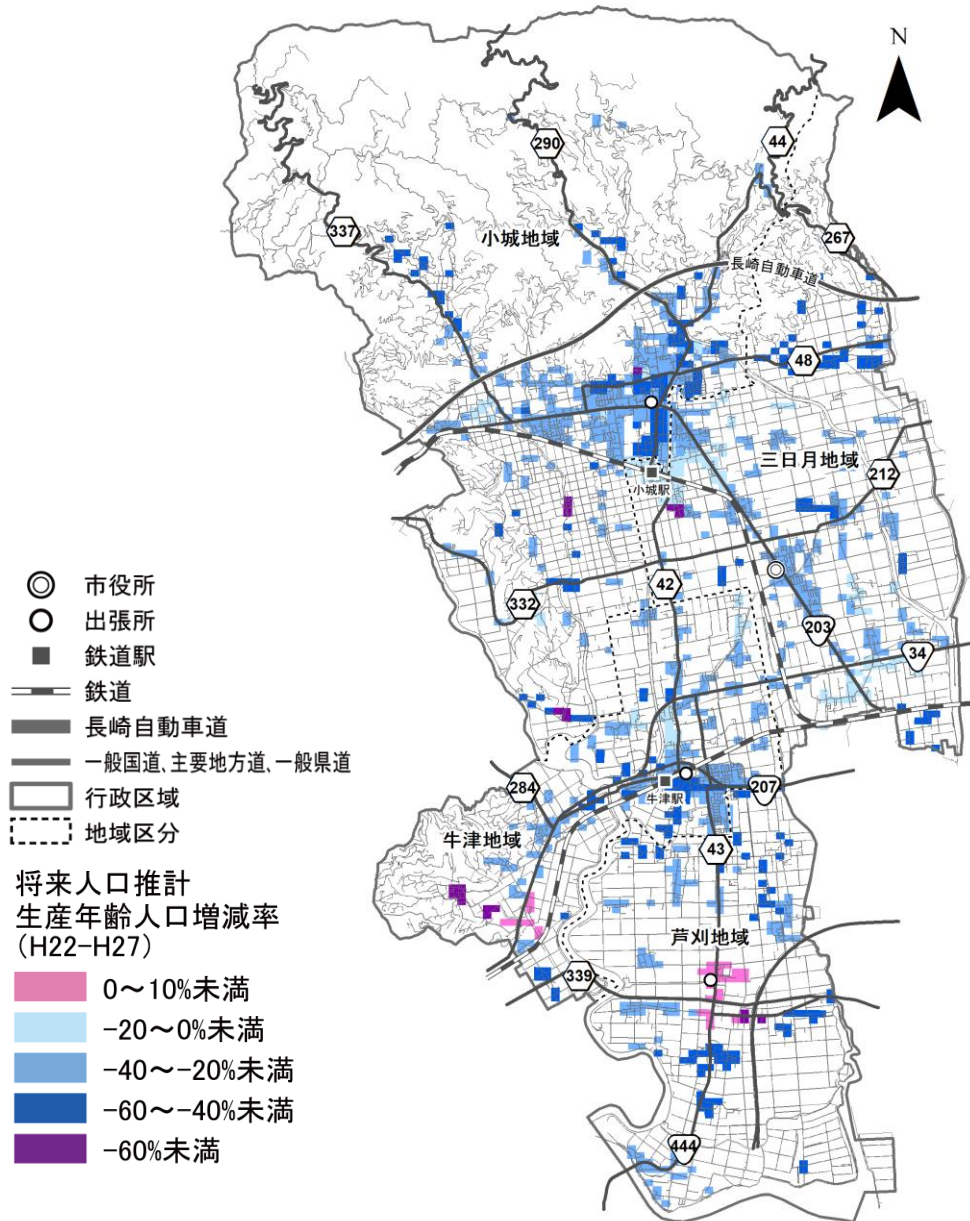


図 生産年齢人口増減率（平成22年～27年）

出典：国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツール

【老年人口増減率（65歳以上人口）】

老年人口増減率をみると、小城駅周辺から三日月地域にかけて大幅な増加がみられます。

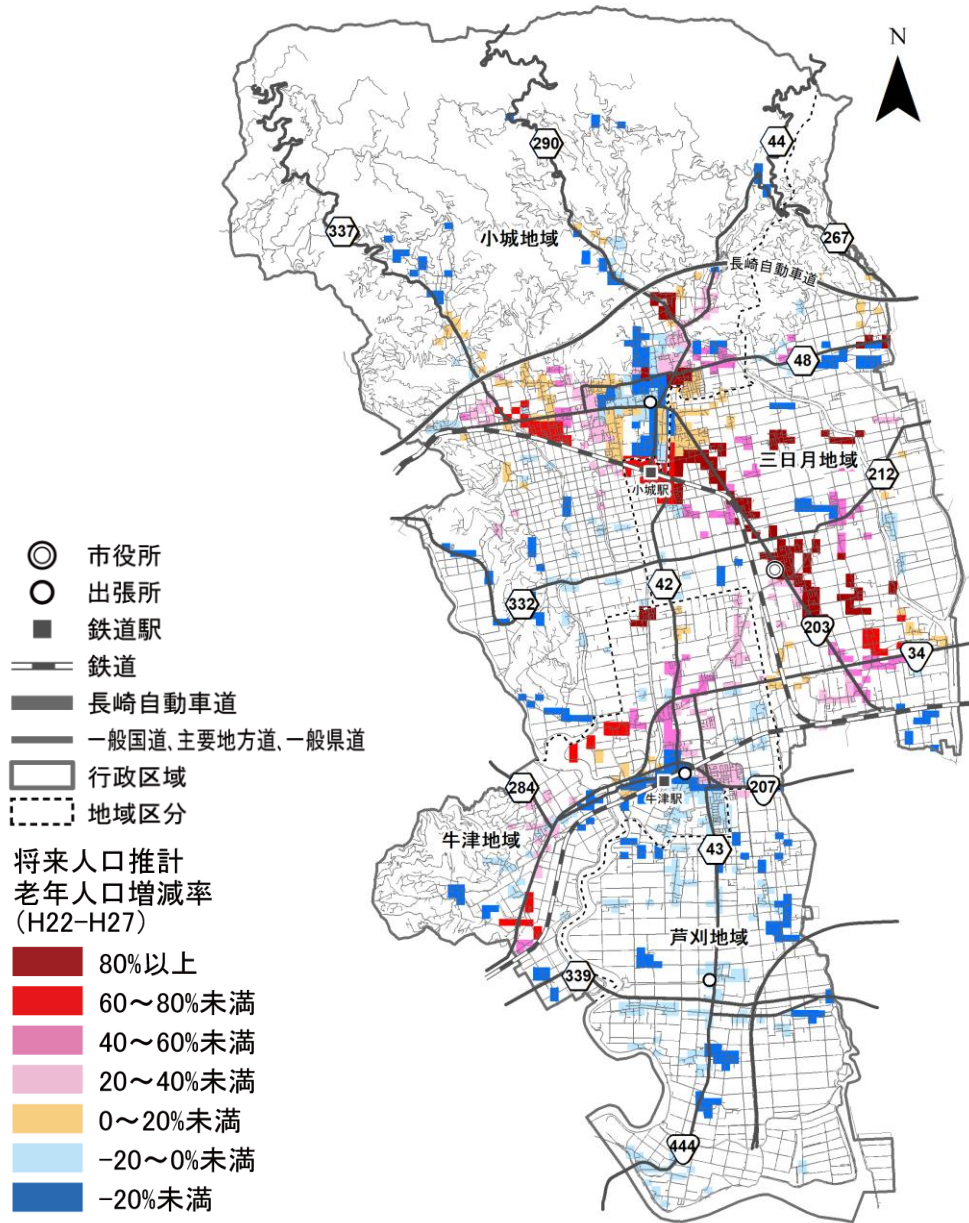


図 老年人口増減率（平成22年～27年）

出典：国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツール

【75歳以上人口増減率】

人口の集中する地域で高齢化がさらに進んでいることが分かります。
市全体の高齢化が顕著となっています。

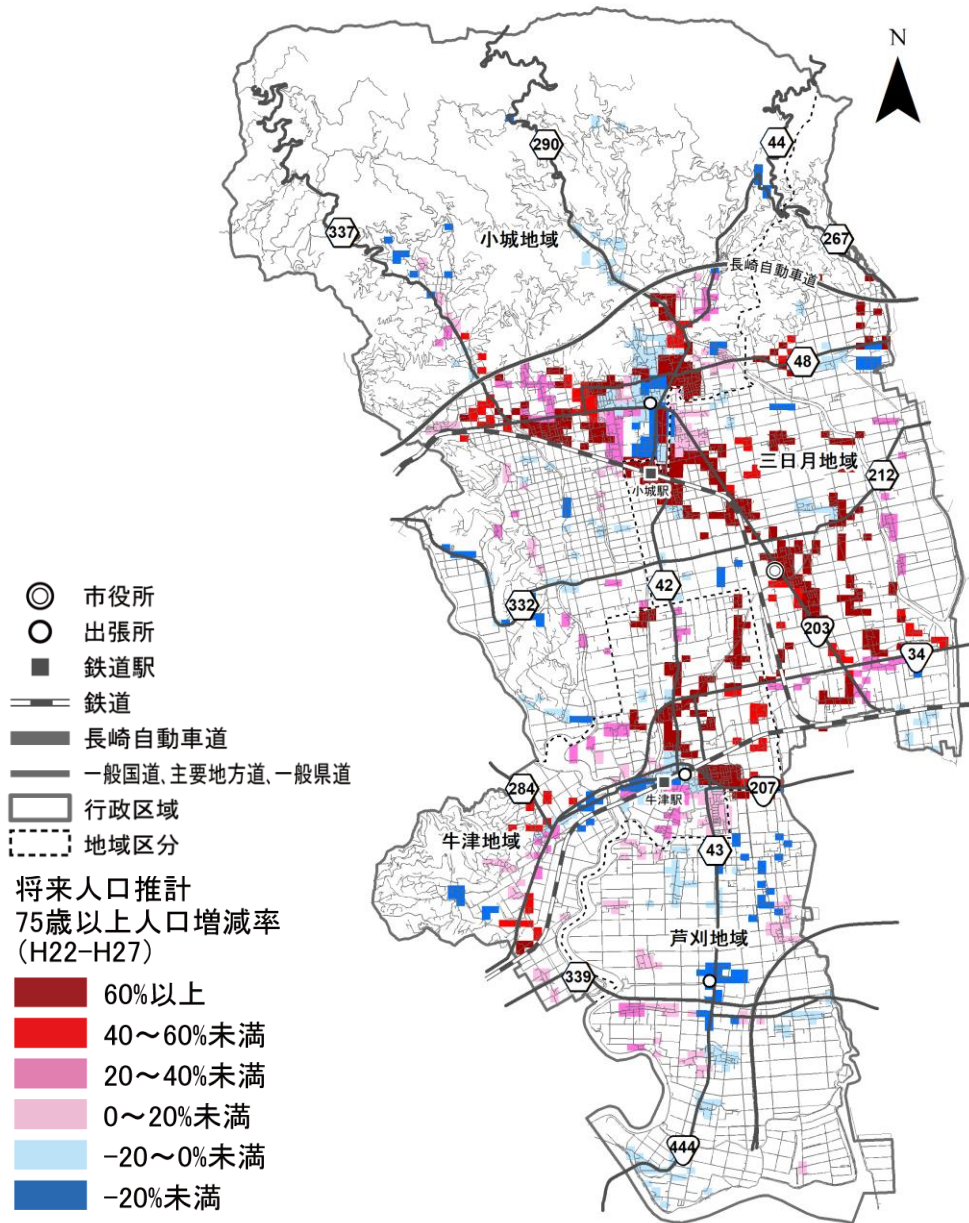


図 75歳以上人口増減率（平成22年～27年）

出典：国土技術政策総合研究所 将来人口・世帯予測ツール

3 産業

3-1 就業人口

平成 27 年の産業別就業人口についてみると、第 3 次産業が 68.0%と最も多く、続いて第 2 次産業 23.8%、第 1 次産業 8.2%となっています。

第 3 次産業の就業人口は増加傾向にあります。第 1 次産業、第 2 次産業の就業人口は減少しています。

地域別にみると、第 3 次産業は、小城地域が 70.3%、三日月地域が 70.0%、牛津地域は 68.3%と高くなっています。芦刈地域は、第 1 次産業が 21.0%と他地域と比較して高い点の特徴となっています。

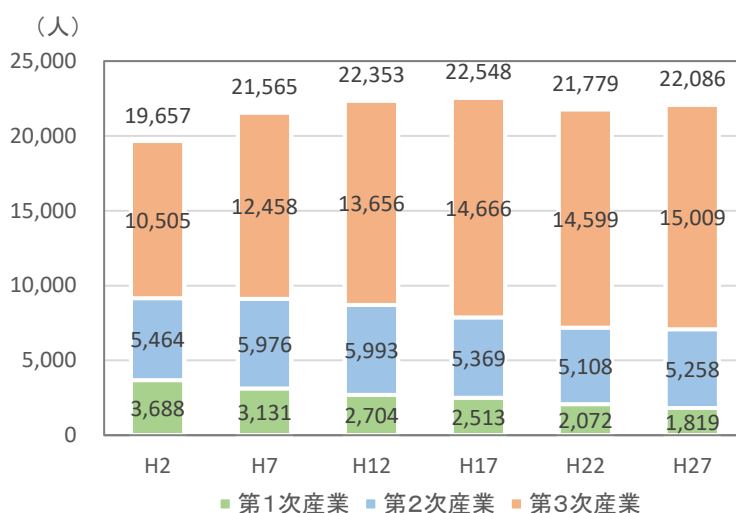


図 産業別就業人口の推移

出典：国勢調査

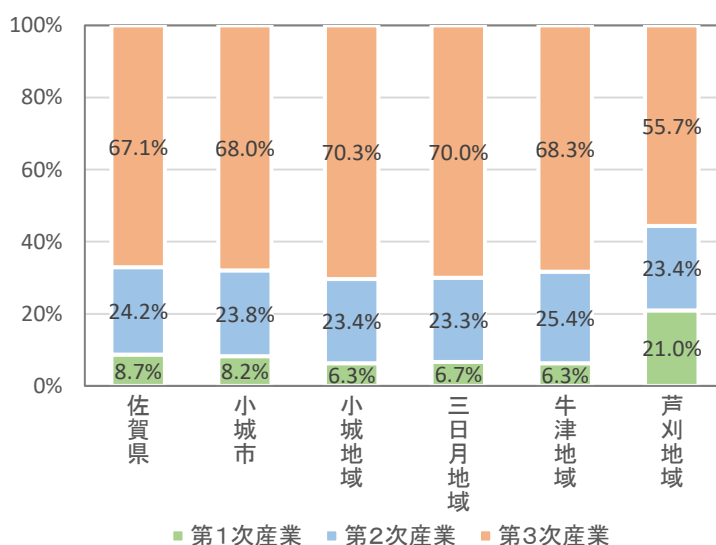


図 地域別産業別就業人口の割合（平成 27 年）

出典：国勢調査

【地域別の第1次産業就業者の分布】

第1次産業就業者の割合をみると、芦刈地域が全体的に高くなっています。

都市の定義の一つとして、都市計画区域の指定要件があり、第1次産業就業者が50%以下という指標がありますが、本市では50%を越える地域はわずかしかなかった。また、第1次産業就業者数も少なくなっています。

都市計画法施行例（一部抜粋）

（都市計画区域に係る町村の要件）

第二条

- 一 当該町村の人口が一万以上であり、かつ、商工業その他の都市的業態に従事する者の数が全就業者数の五十パーセント以上であること。

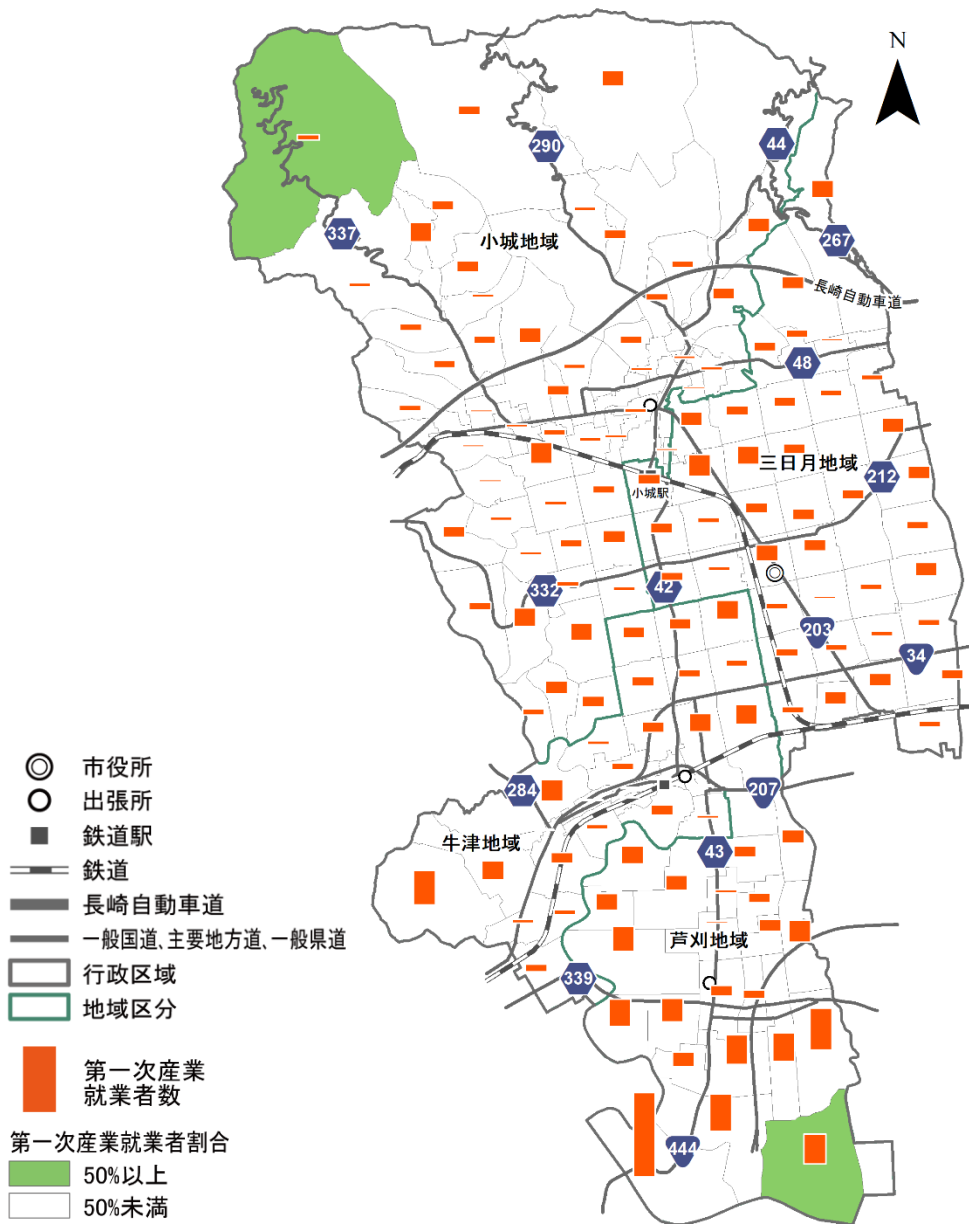


図 第1次産業就業者率（平成27年）

出典：国勢調査

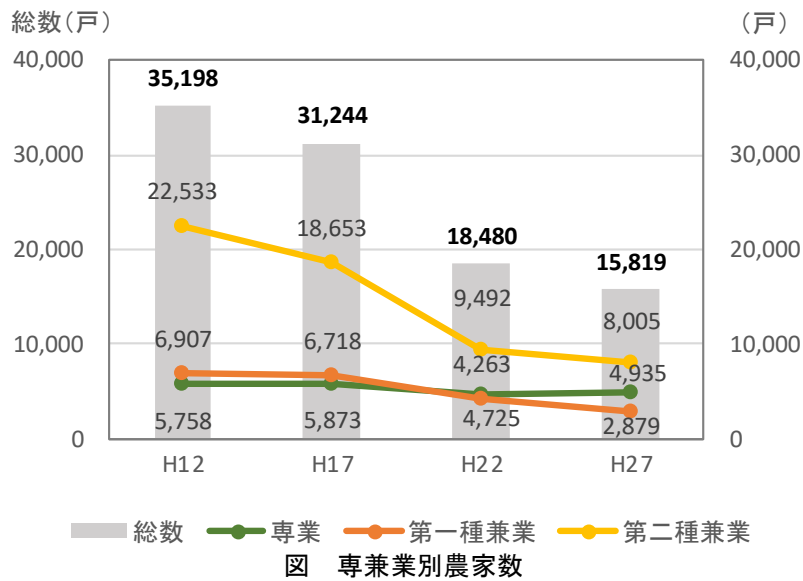
3-2 農業

3-2-1 農家数

農家総数についてみると、平成12年以降減少傾向で、平成27年は15,819戸となっています。

専業別農家数についてみると、平成12年から平成27年にかけて専業農家はほぼ横ばいですが、第二種兼業農家が22,533戸から8,005戸へと大きく減少しています。また第一種兼業農家も約4,000戸減少しています。

地域別専業農家数割合をみると、牛津地域の第一種兼業農家の割合が他3地域より高くなっています。



出典：農林業センサス

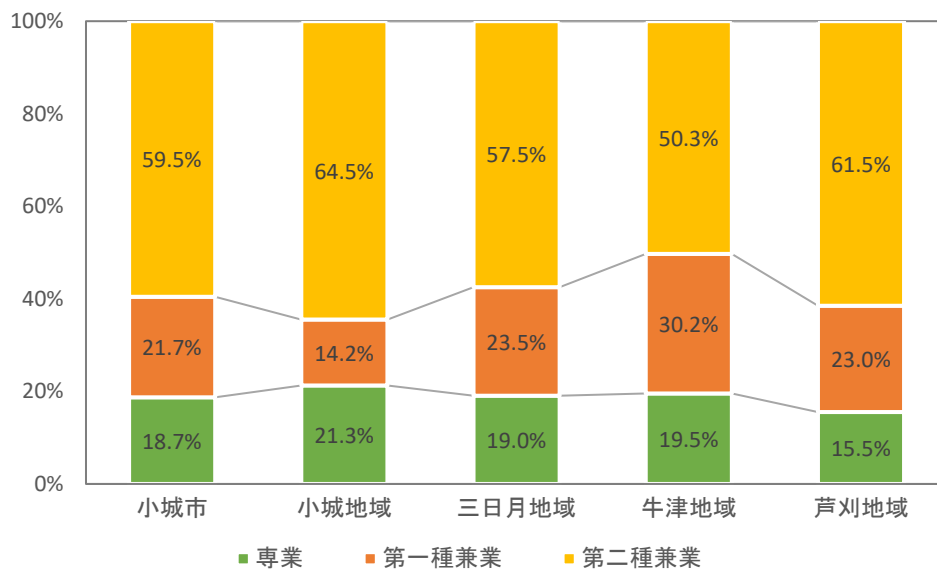


図 地域別専業農家数割合 (平成27年)

出典：農林業センサス

表 農家数・農家人口・経営耕地面積の推移（平成 27 年）

	農家数(戸)				農家人口 (人)	経営農地面積(ha)			
	総数	専業	第一種兼業	第二種兼業		総面積	田	畑	樹園地
H12	2,121	397	461	1,263	10,088	3,612	3,149	57	406
H17	1,814	367	406	1,041	8,321	3,415	3,088	36	291
H22	699	163	233	303	3,038	1,483	1,234	34	215
H27	538	177	148	213	2,143	3,187	2,974	37	176
H27/H12	25.4%	44.6%	32.1%	16.9%	21.2%	88.2%	94.4%	64.9%	43.3%

出典：農林業センサス

表 地域別農家数・農家人口・経営耕地面積の推移（平成 27 年）

	農家数(戸)				農家人口 (人)	経営農地面積(ha)			
	総数	専業	第一種兼業	第二種兼業		総面積	田	畑	樹園地
小城地域	209	68	51	90	793	720	596	10	114
三日月地域	111	45	30	36	448	1,035	1,003	8	24
牛津地域	87	25	20	42	343	530	491	2	37
芦刈地域	131	39	47	45	559	902	884	17	1

出典：農林業センサス

3-2-2 農業関連施設等

本市には、農業関連施設が12施設あります。

小城駅周辺に集中的な立地がみられますが、基本的には分散的に立地しています。

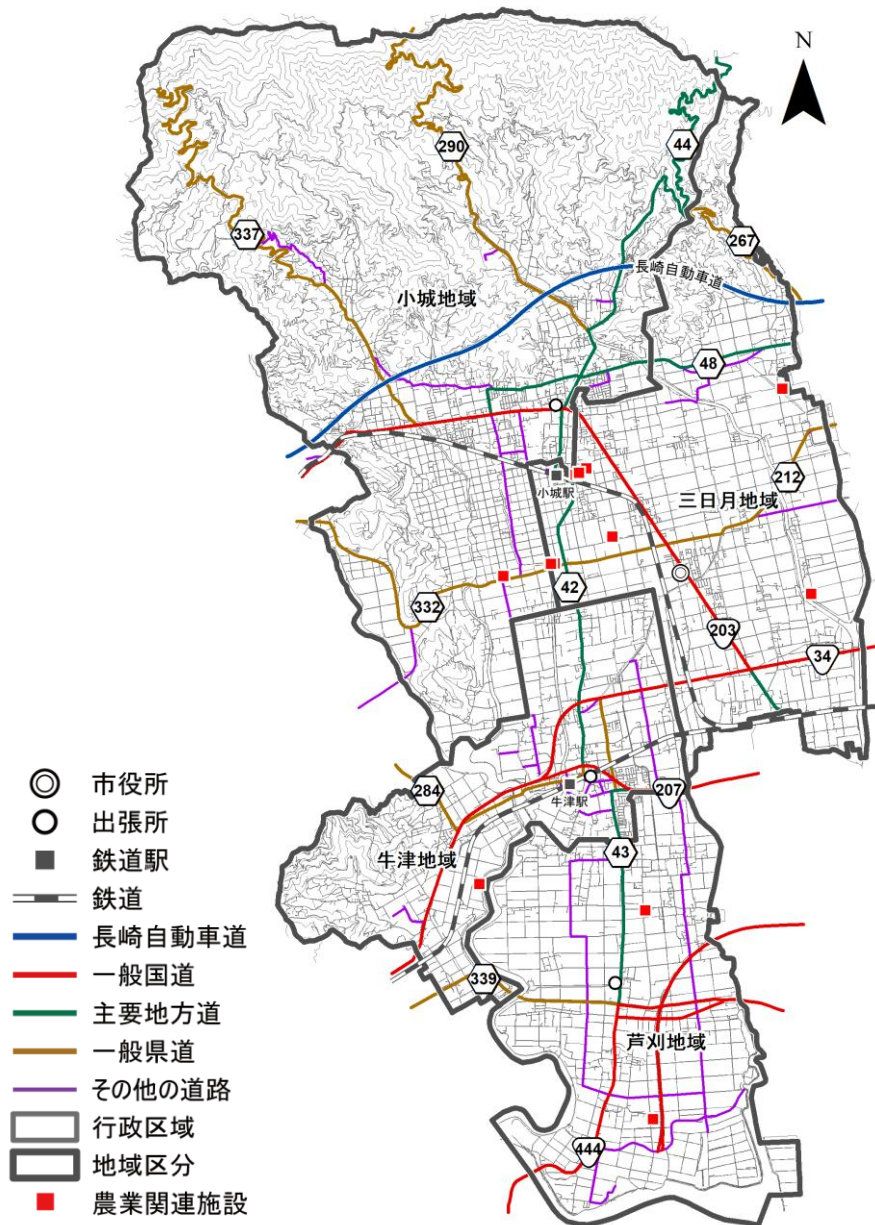


図 農業関連施設

出典：J A さが HP・google map・goo 地図
小城市農業集落排水処理施設条例

3-3 工業

3-3-1 事業所数・従業者数・製造品出荷額

本市の事業所数をみると、平成 28 年は 56 事業所で平成 17 年以降は減少傾向にあります。

従業者数は、平成 28 年は 1,517 人で平成 19 年以降ほぼ横ばいの状態が続いています。

製造品出荷額は、平成 23 年に前年より 52 億円の減少となりましたが、近年は増加傾向にあり、平成 28 年の製造品出荷額は、334 億円となっています。

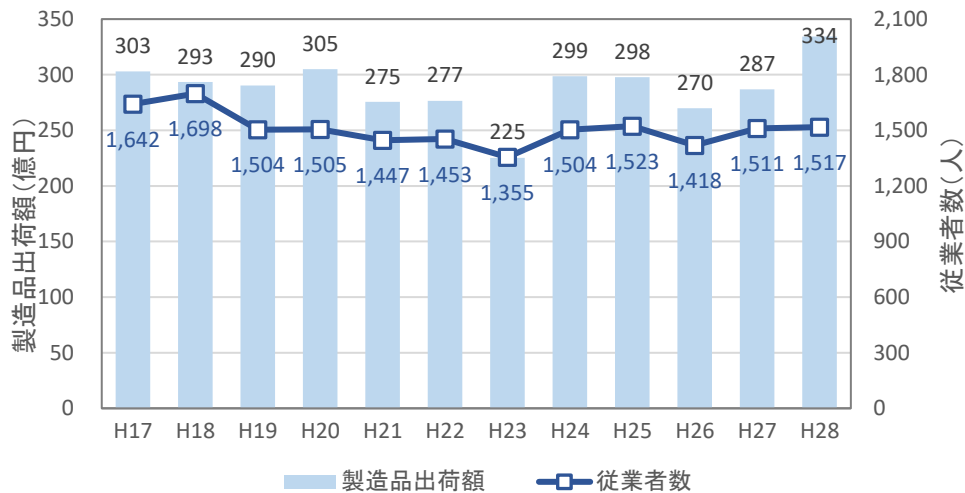


図 従業者数・製造品出荷額の推移

出典：工業統計、経済センサス-活動調査

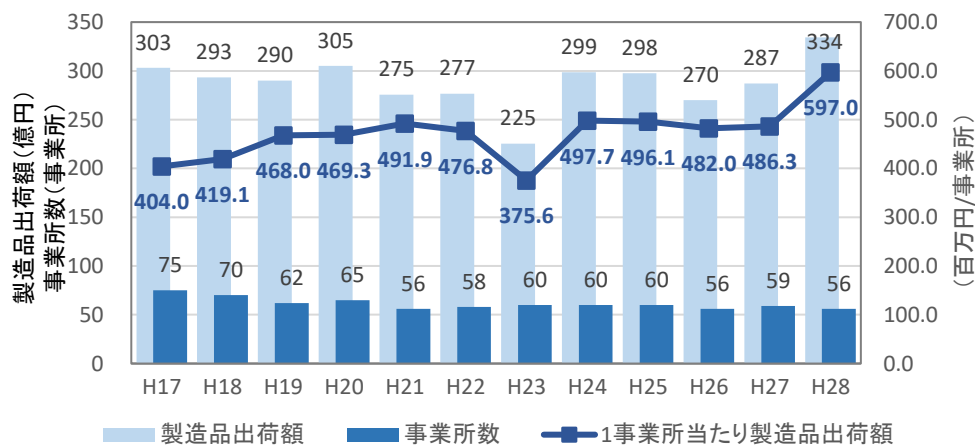


図 事業所数・1事業所当り製造品出荷額の推移

出典：工業統計、経済センサス-活動調査

3-3-2 大規模工場、工業団地

本市には、小城地域、牛津地域に工業団地がそれぞれ1箇所あります。

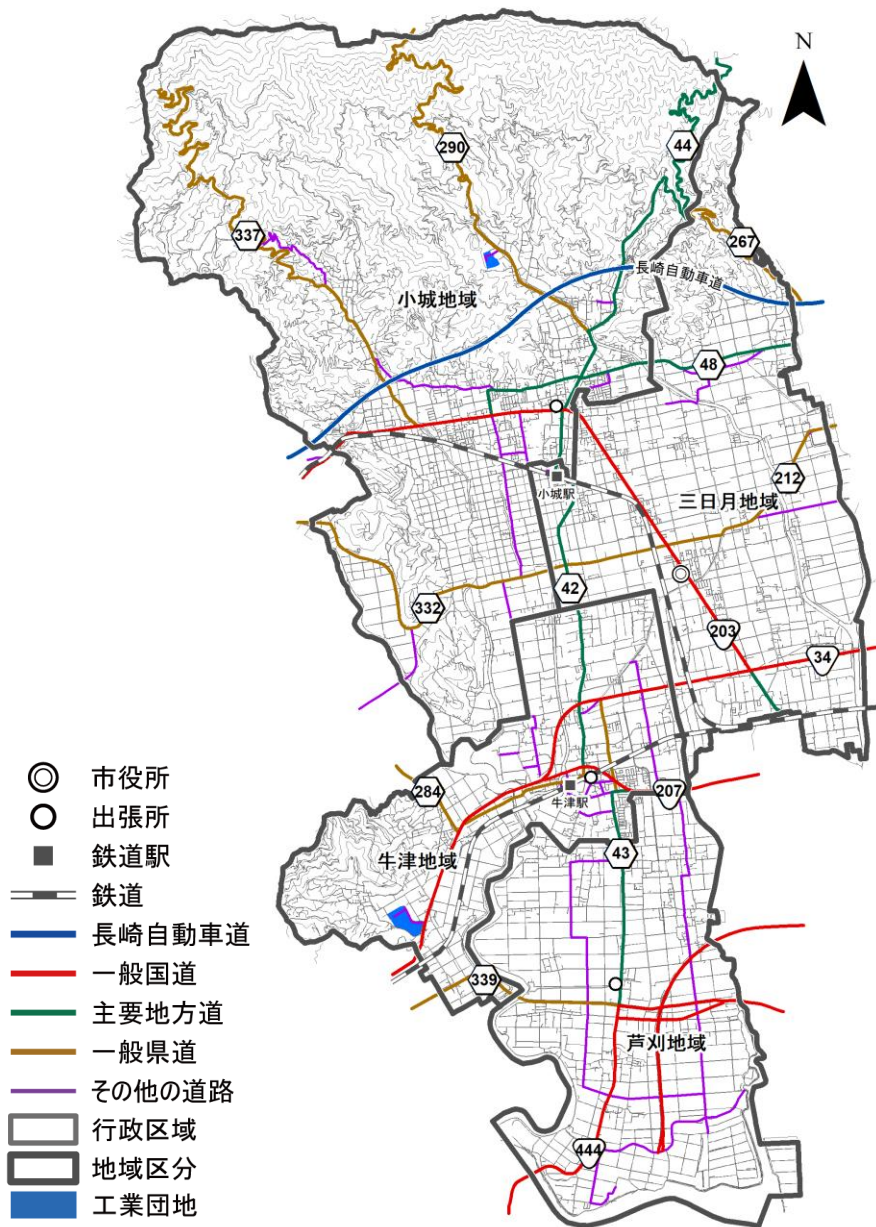


図 工業団地位置図

出典：小城市 HP（市内の工業団地）

3-4 商業

3-4-1 小売業

①小売事業所数

- ・本市の小売事業所数は減少傾向にあります。
- ・平成 16 年時点で、旧小城町が全体の約 35% を占めていますが減少傾向にあります。

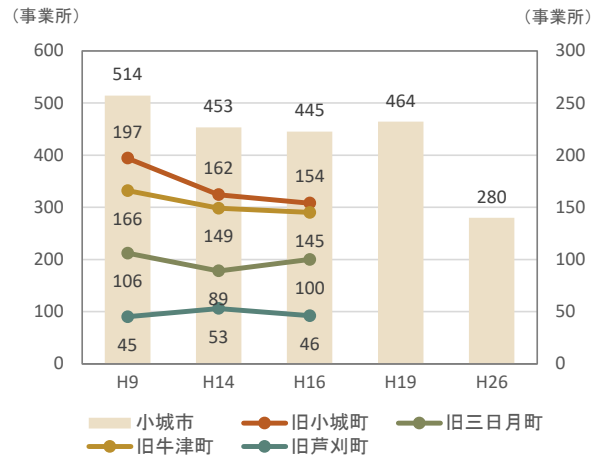


図 小売事業所数の推移

出典：商業統計

②小売従業者数

- ・本市の小売従業者数は平成 16 年まで増加傾向にありましたが、平成 19 年に減少に転じています。
- ・平成 16 年時点で、旧小城町、旧牛津町及び旧芦刈町は減少傾向にあります。

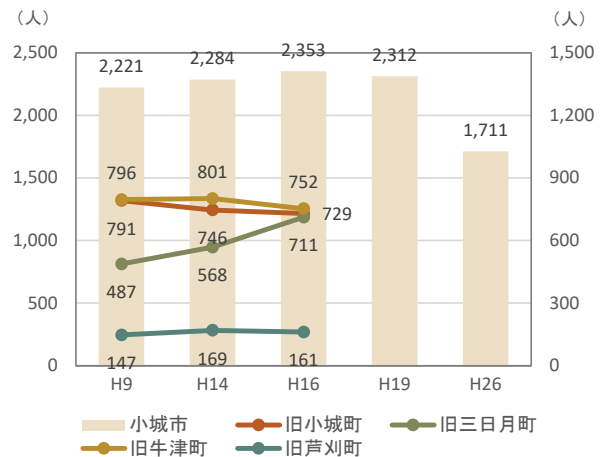


図 小売従業者数の推移

出典：商業統計

③年間小売販売額

- ・本市の年間小売販売額は事業所数と同様、減少傾向にあります。
- ・平成 16 年時点で、旧三日月町が平成 14 年の 872 千円から 1,094 千円に増加し、他旧 3 町を上回っています。

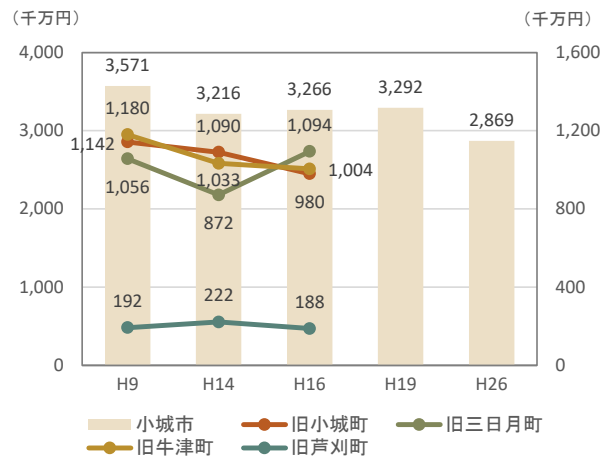


図 年間小売販売額の推移

出典：商業統計

表 小売業の推移

	事業所数 (事業所)	従業者数 (人)	年間小売販売額 (千万円)
H9	514	2,221	35,708
H14	453	2,284	32,161
H16	445	2,353	32,657
H19	464	2,312	32,915
H26	280	1,711	28,694

出典：商業統計

3-4-2 卸売業

①卸売事業所数

- ・本市の卸売事業所数は平成 26 年に大きく減少しています。
- ・平成 16 年時点で、すべての旧町の事業所数はほぼ横ばいの状態にあります。

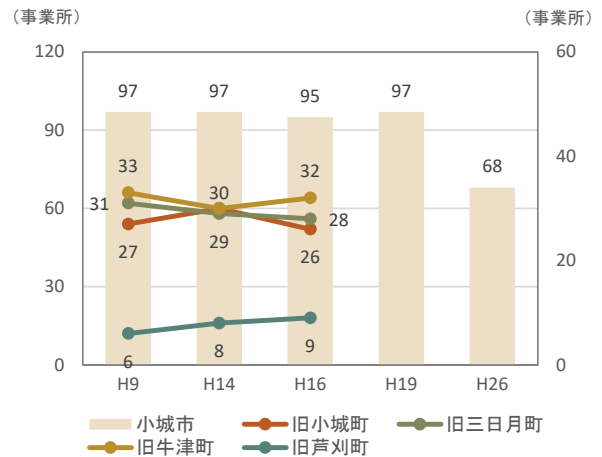


図 卸売事業所数の推移

出典：商業統計

②卸売従業者数

- ・本市の卸売従業者数は減少傾向にあります。
- ・旧三日月町の変動が目立ち、旧牛津町は減少傾向にあります。

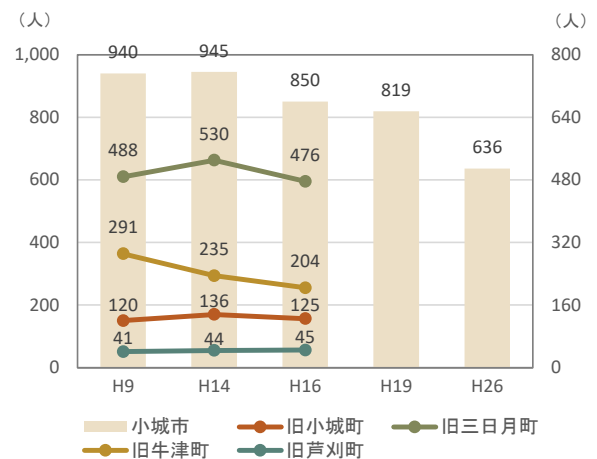


図 卸売従業者数の推移

出典：商業統計

③年間卸売販売額

- ・本市の年間卸売販売額は減少傾向にあります。
- ・平成 16 年時点で、旧三日月町が全体の約 70%を占めていますが、経年でみると減少傾向にあります。

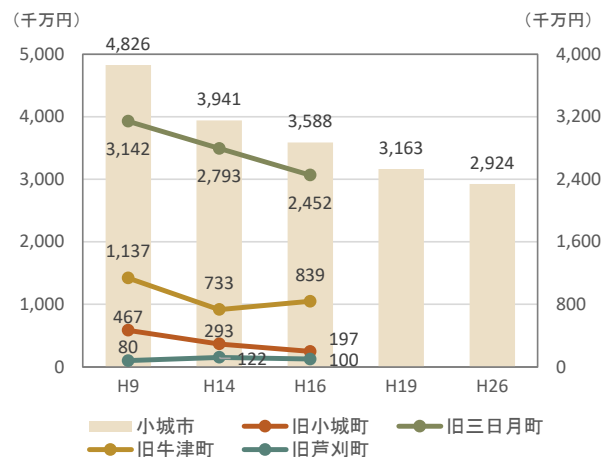


図 年間卸売販売額の推移

出典：商業統計

表 卸売業の推移

	事業所数 (事業所)	従業者数 (人)	年間卸売販売額 (千万円)
H9	97	940	48,256
H14	97	945	39,414
H16	95	850	35,881
H19	97	819	31,625
H26	68	636	29,242

出典：商業統計

3-4-3 大規模小売店舗

本市には、大規模小売店舗が 22 店舗あり、国道沿いに店舗が多く分布しています。

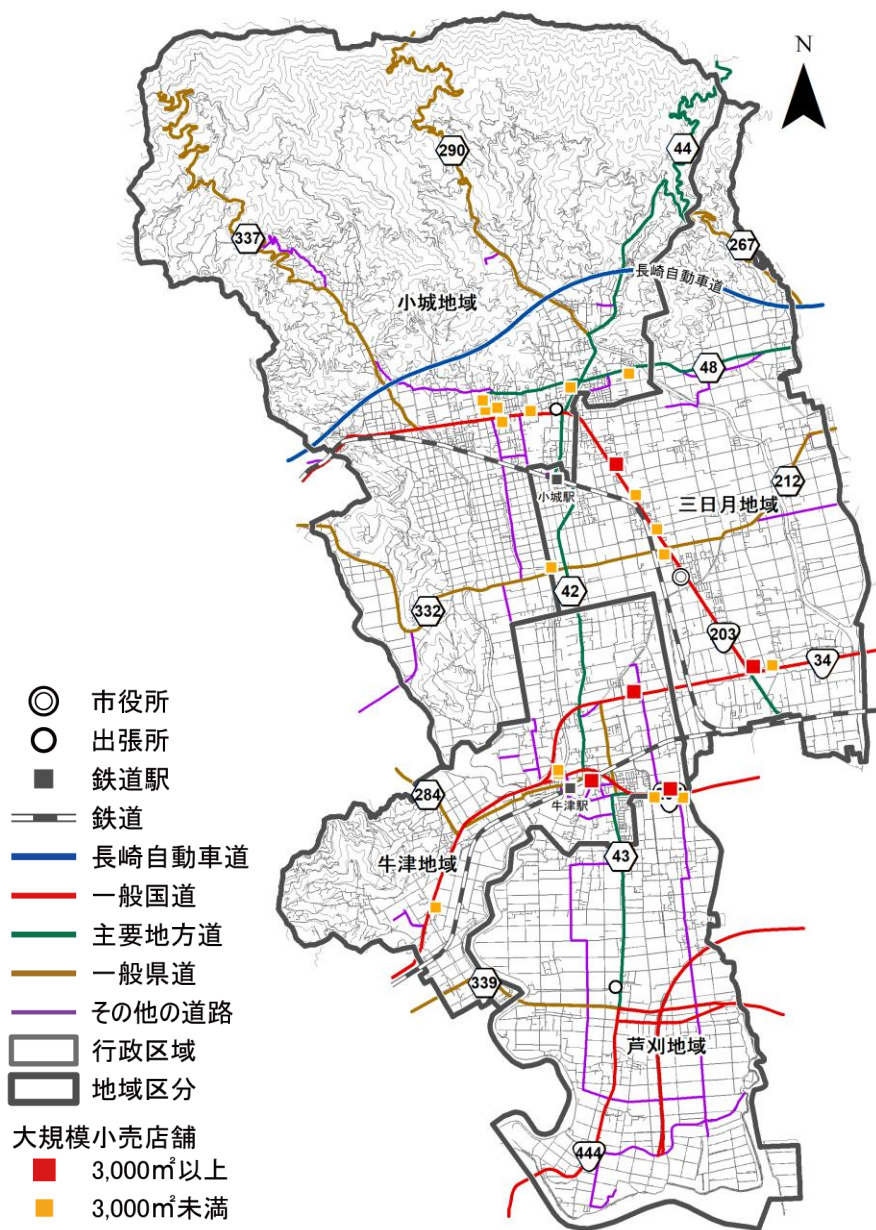


図 大規模小売店舗

出典：H29 年度小城市都市計画基礎調査

4 観光

4-1 観光客数

平成 28 年の本市への観光客数は 497.5 千人で、県外客数が約 7 割あり県内客数を大きく上回っています。日帰り・宿泊観光客数についてみると、日帰り客数が 9 割を超えています。

(※平成 23 年以降は、観光庁が定めた全国共通基準を用いて入込客数等を推計しているため、平成 22 年以前のデータと比較出来ません。)

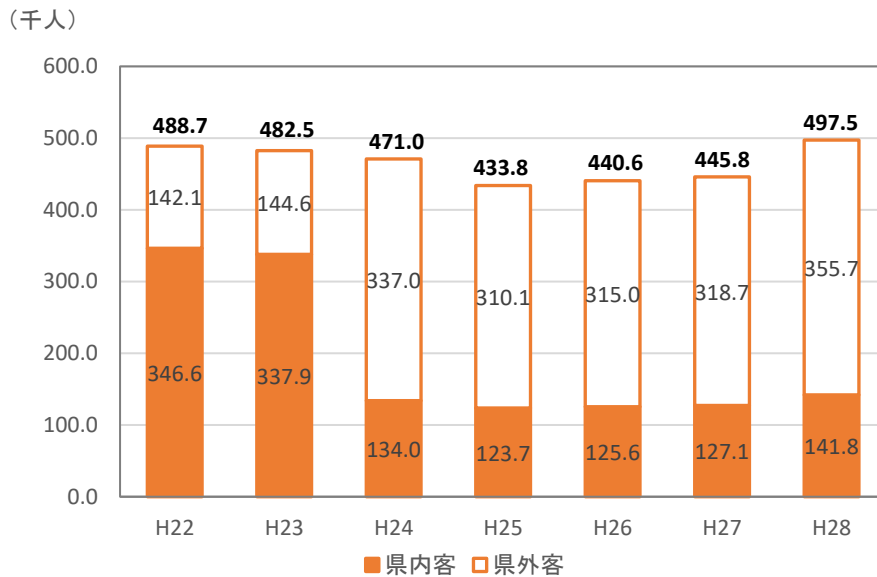


図 県内外観光客数の推移

出典：佐賀県観光客動態調査

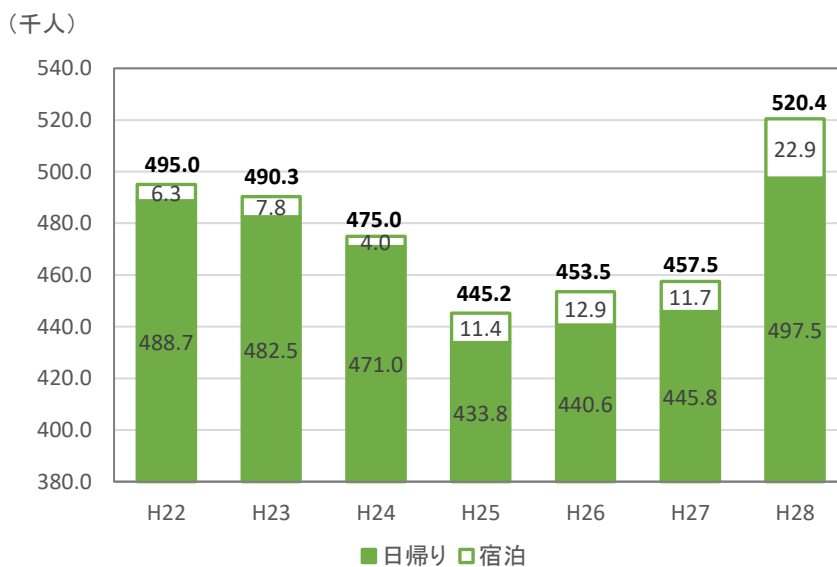


図 日帰り・宿泊観光客数の推移

出典：佐賀県観光客動態調査

4-2 観光施設及び宿泊施設

本市には、観光施設が20施設、宿泊施設が5施設あります。

観光施設の分布をみると、小城地域に集中した施設の分布がみられます。

宿泊施設の分布をみると、芦刈地域に宿泊施設はなく、小城地域、三日月地域、牛津地域に施設の分布がみられます。

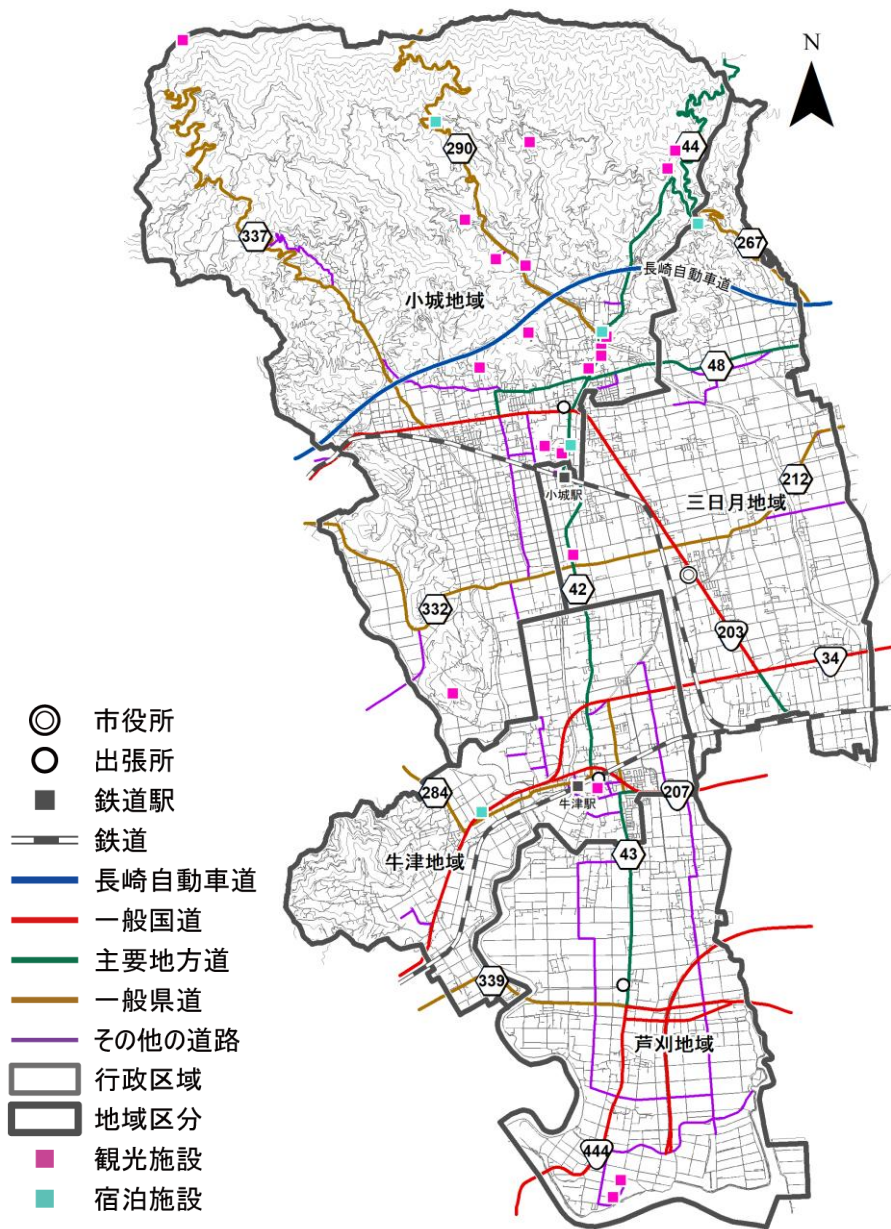


図 観光施設及び宿泊施設の分布

出典：小城市観光協会 HP

5 市街化の動向

5-1 土地利用現況

本市は用途地域の指定が無く、都市計画区域と行政区画が一致しています。

最も割合の多い土地利用は、田で全体の 34.2%を占めています。次点で山林 26.5%、畑 9.6%と続き、田、山林、畑で全体の約 7割を占めています。住宅用地は全体の 7%です。駅周辺に住宅用地や商業用地が集まっており、市街地が形成されています。

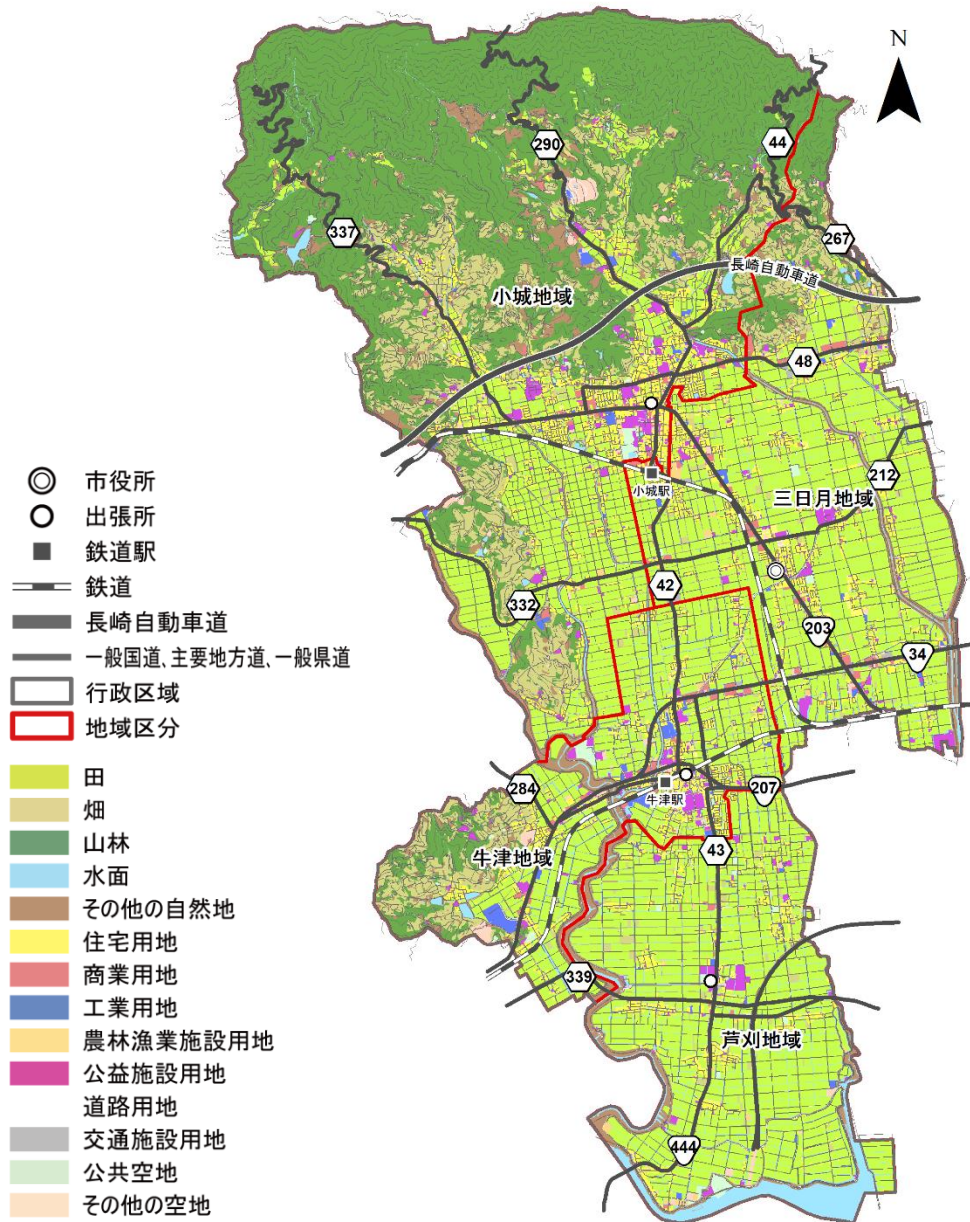


図 土地利用現況

出典：平成 29 年度小城市都市計画基礎調査

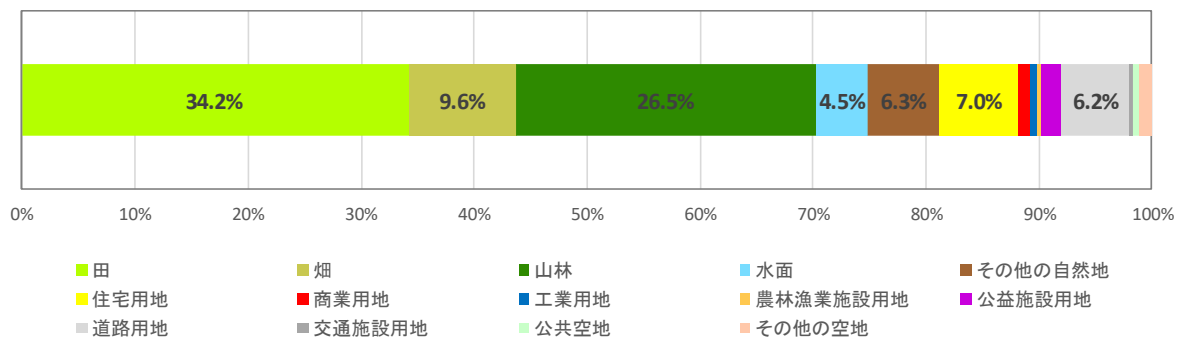


図 土地利用別面積の割合

出典：平成 29 年度小城市都市計画基礎調査

5-2 DID 地区の変遷

5-2-1 人口集中地区（DID）面積、人口密度

本市の DID 地区（人口集中地区）は、小城出張所を中心とした市中心部のみ指定されています。DID 面積は昭和 45 年～50 年にかけて大きく減少しましたが、その後は緩やかな増加傾向にあり、平成 27 年で 157.0ha の面積となっています。

DID 人口密度は、地区面積は増加していますが地区内人口は減少しており、低密度な市街地となっています。

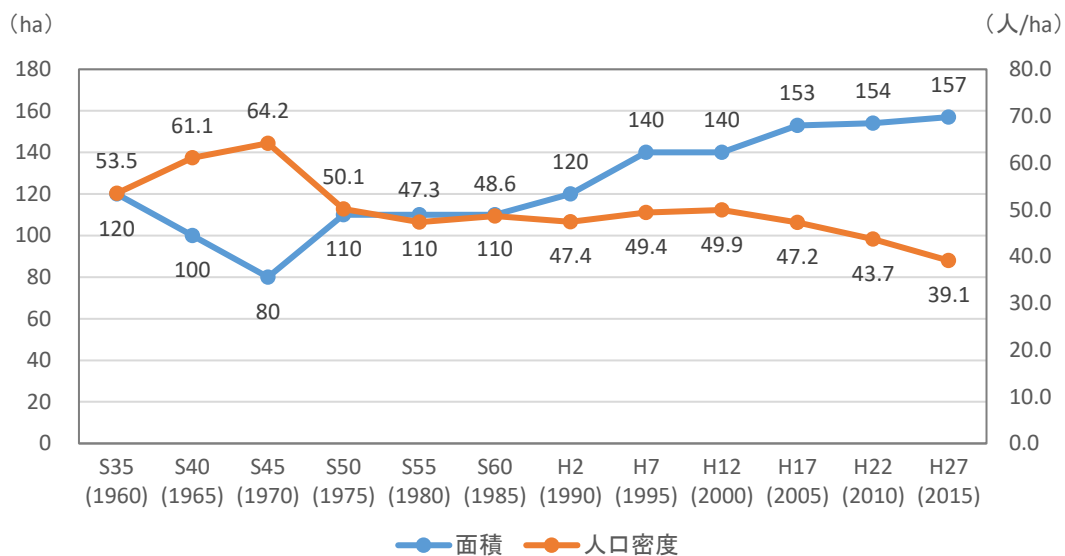


図 DID 面積と DID 人口密度の推移

出典：平成 29 年度小城市都市計画基礎調査

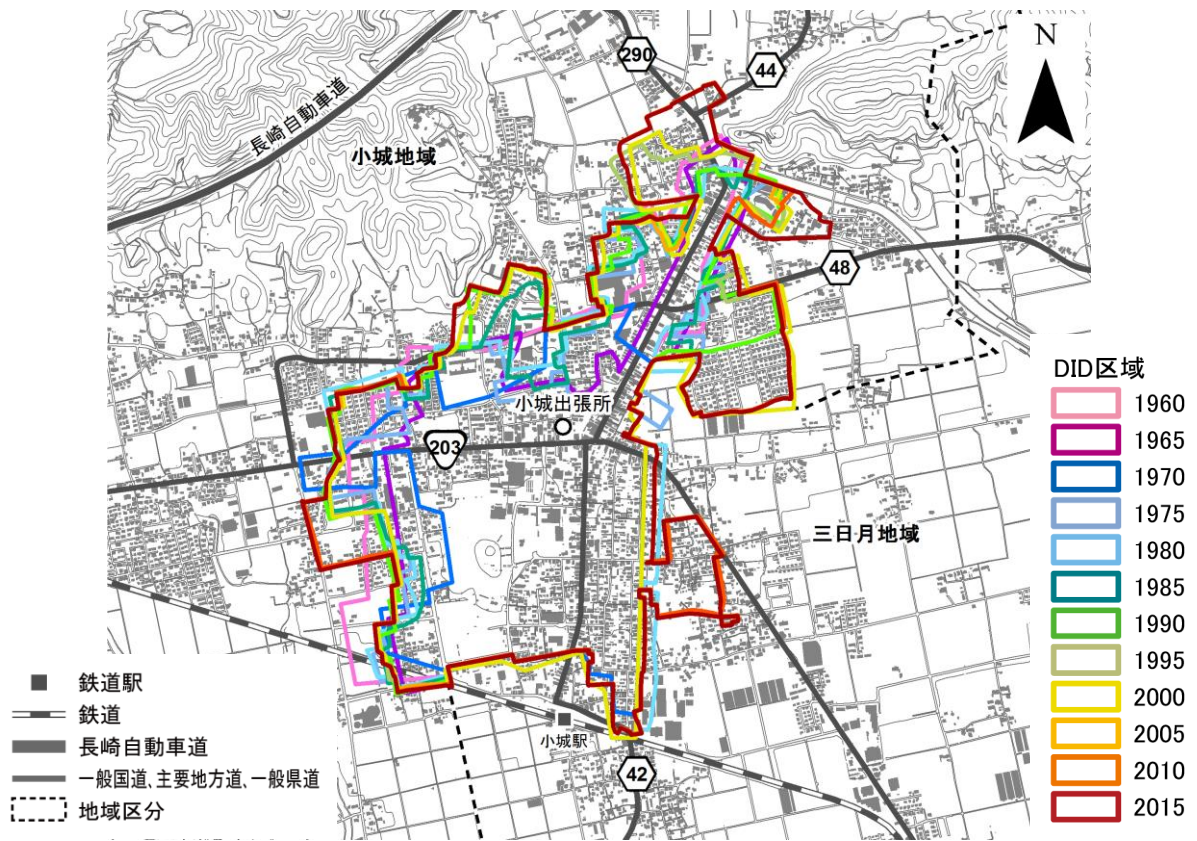


図 DID 変遷図

出典：平成 29 年度小城市都市計画基礎調査

6 都市計画

6-1 用途地域

該当なし

6-2 都市公園等

小城市の都市計画道路は、平成 28 年時点で 18 路線、延長 21,802m が計画決定されています。その内、整備済み路線は 13 路線、未整備路線は 5 路線で、都市計画道路の整備率は、約 87%となっています。

都市公園は、小城公園の 1 カ所のみであり、整備済みとなっています。

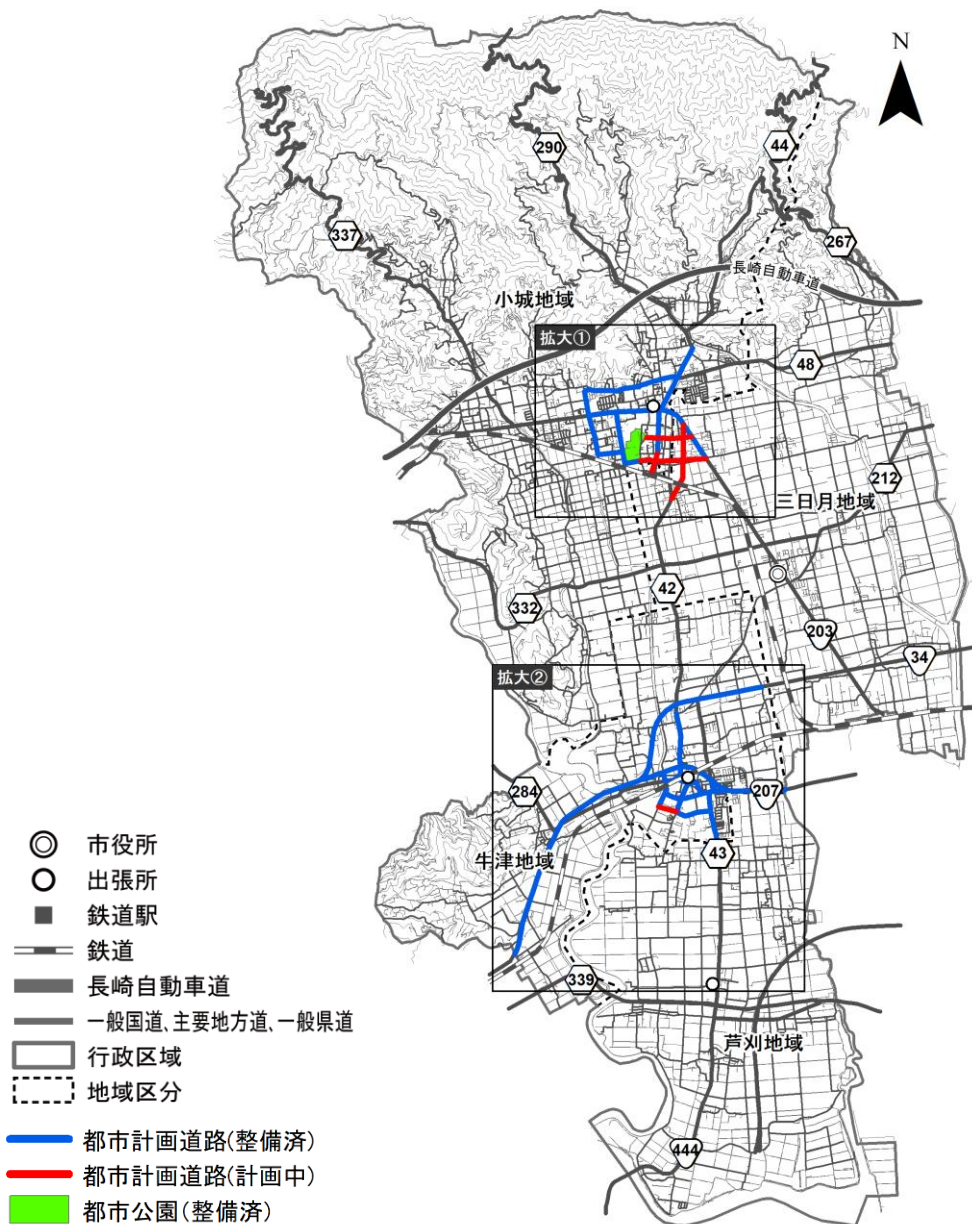


図 都市施設整備状況

出典：平成 29 年度小城市都市計画基礎調査

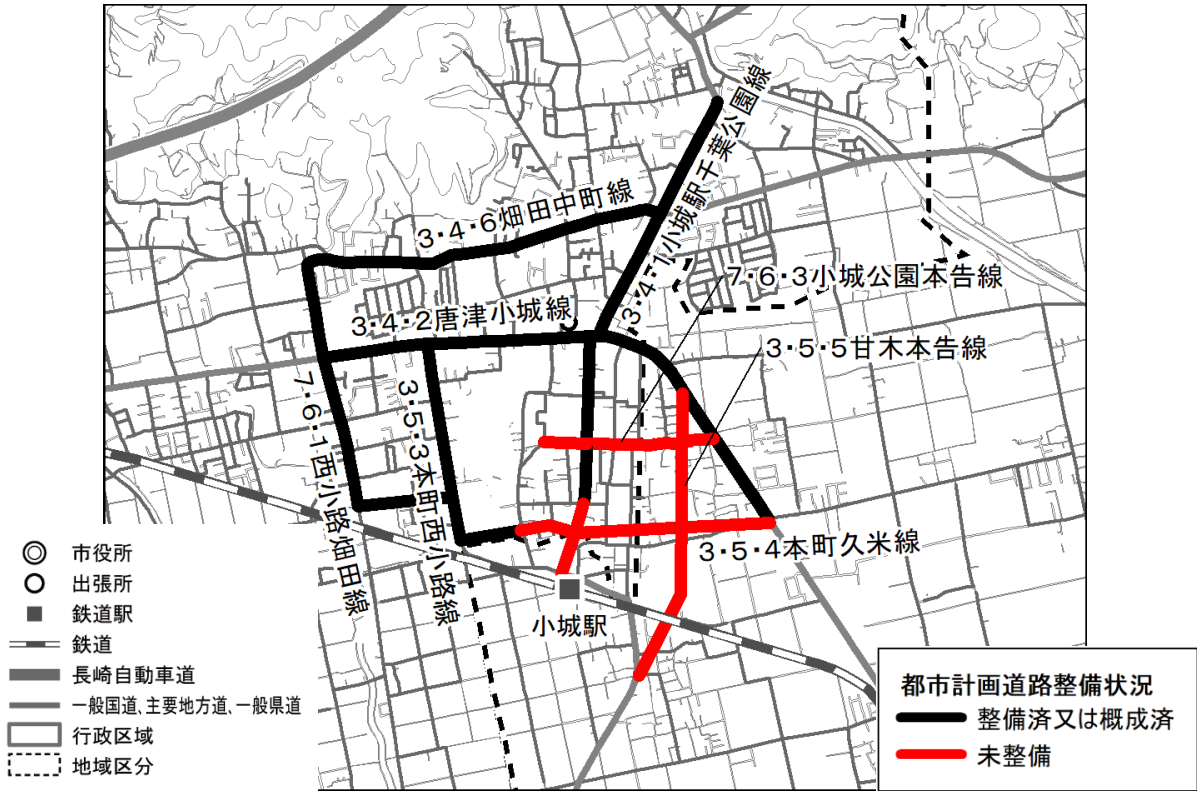


図 都市計画道路 拡大図①

出典：平成 29 年度小城市都市計画基礎調査

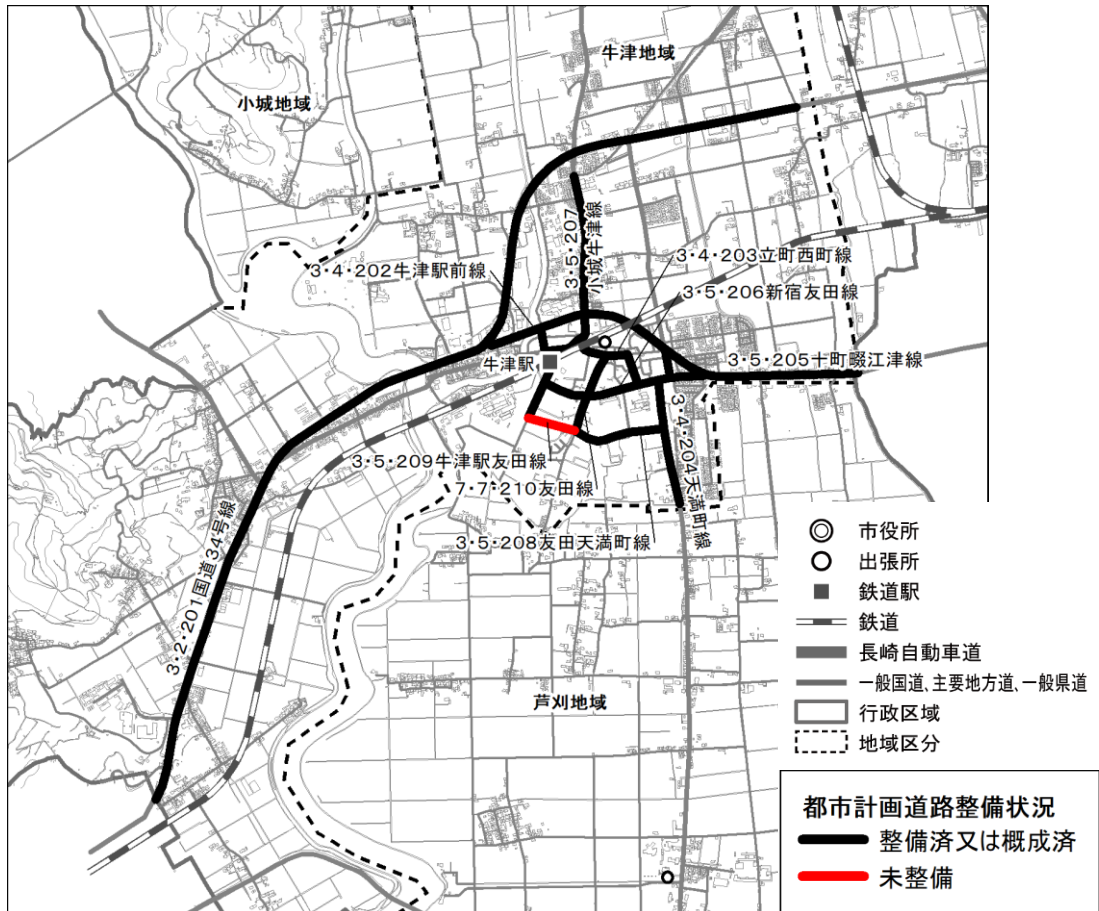


図 都市計画道路 拡大図②

出典：平成 29 年度小城市都市計画基礎調査

7 施設分布

7-1 公共施設・文化施設・集会施設

本市には、市役所1カ所、市役所出張所3カ所、公民館9カ所、図書館4カ所、文化施設2カ所、集会施設9カ所があります。

分布についてみると、鉄道駅を中心にした施設分布がみられます。

公民館や集会施設は、各地域に分布していますが、図書館や文化施設は人口の多い地域に分布しています。

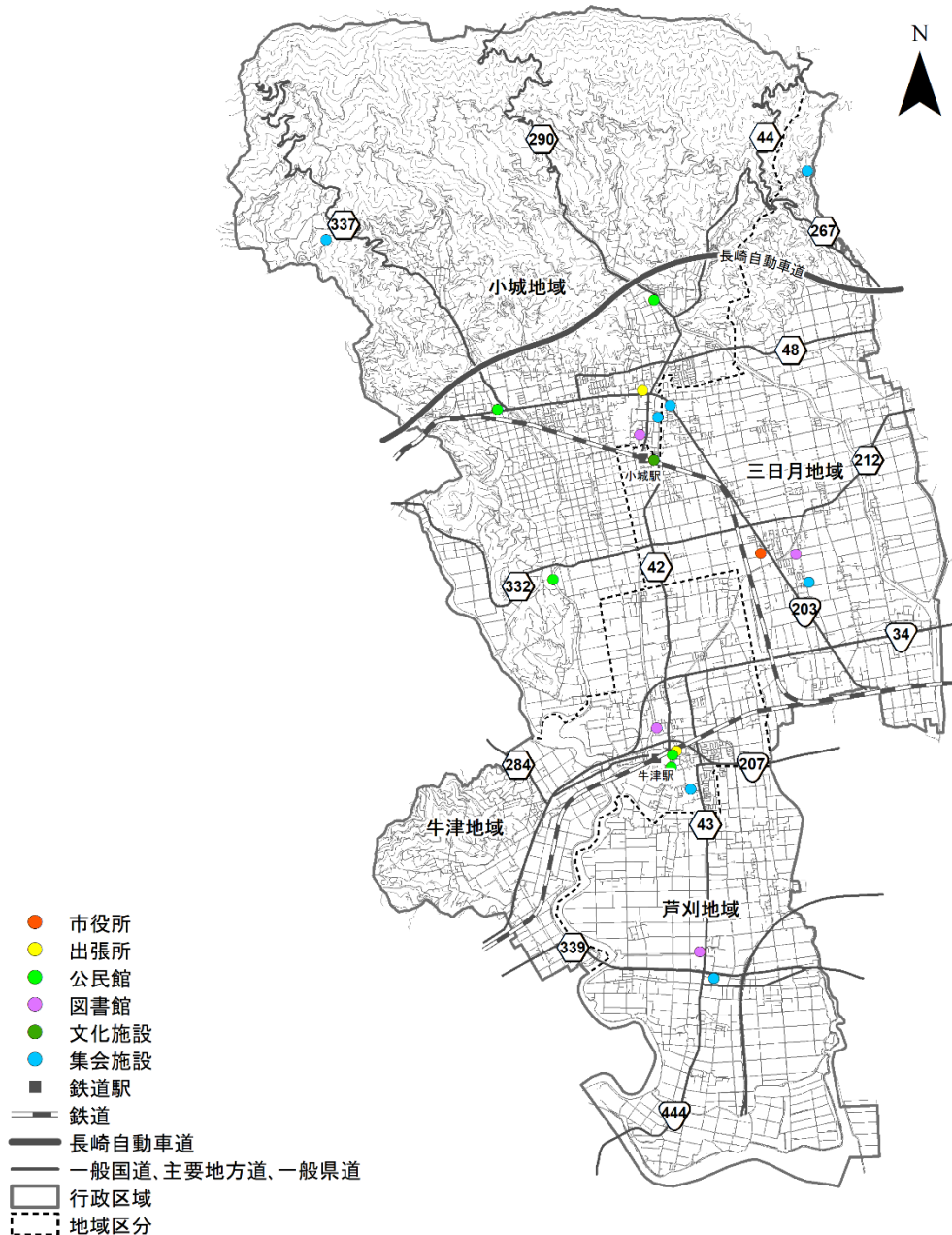


図 公共・文化・集会施設

出典：庁内資料（平成27年度小城市立地適正化計画）

7-2 スポーツ施設

本市には、スポーツ施設が15カ所あります。

分布についてみると、鉄道駅及び国道周辺に施設の分布がみられます。

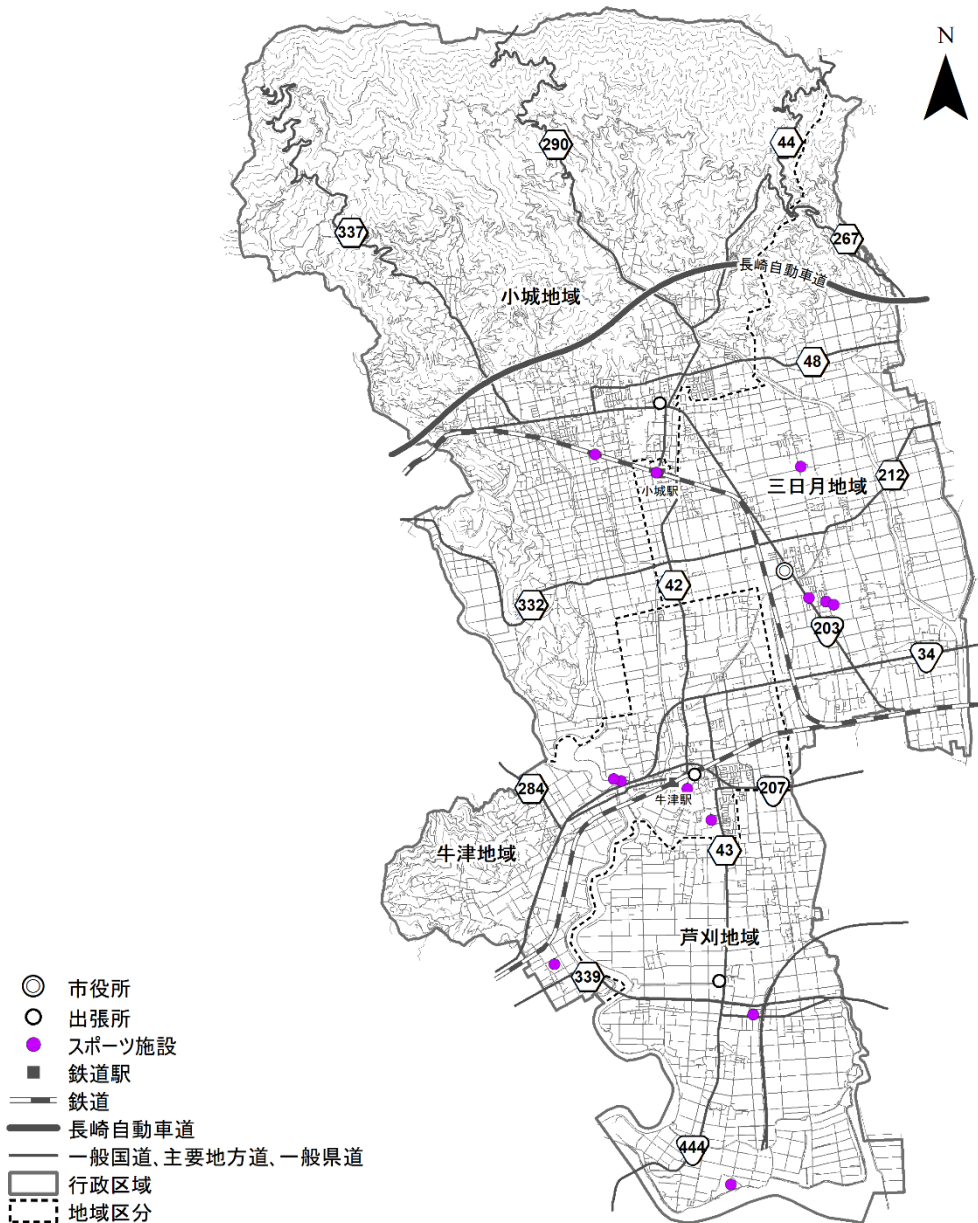


図 スポーツ施設

出典：小城市 HP（公共施設案内 スポーツ施設）

7-3 医療機関

本市には、病院3カ所、診療所25カ所があります。

分布についてみると、市役所、出張所周辺に施設が集中しており、また、国道203号沿道にも施設の分布がみられます。

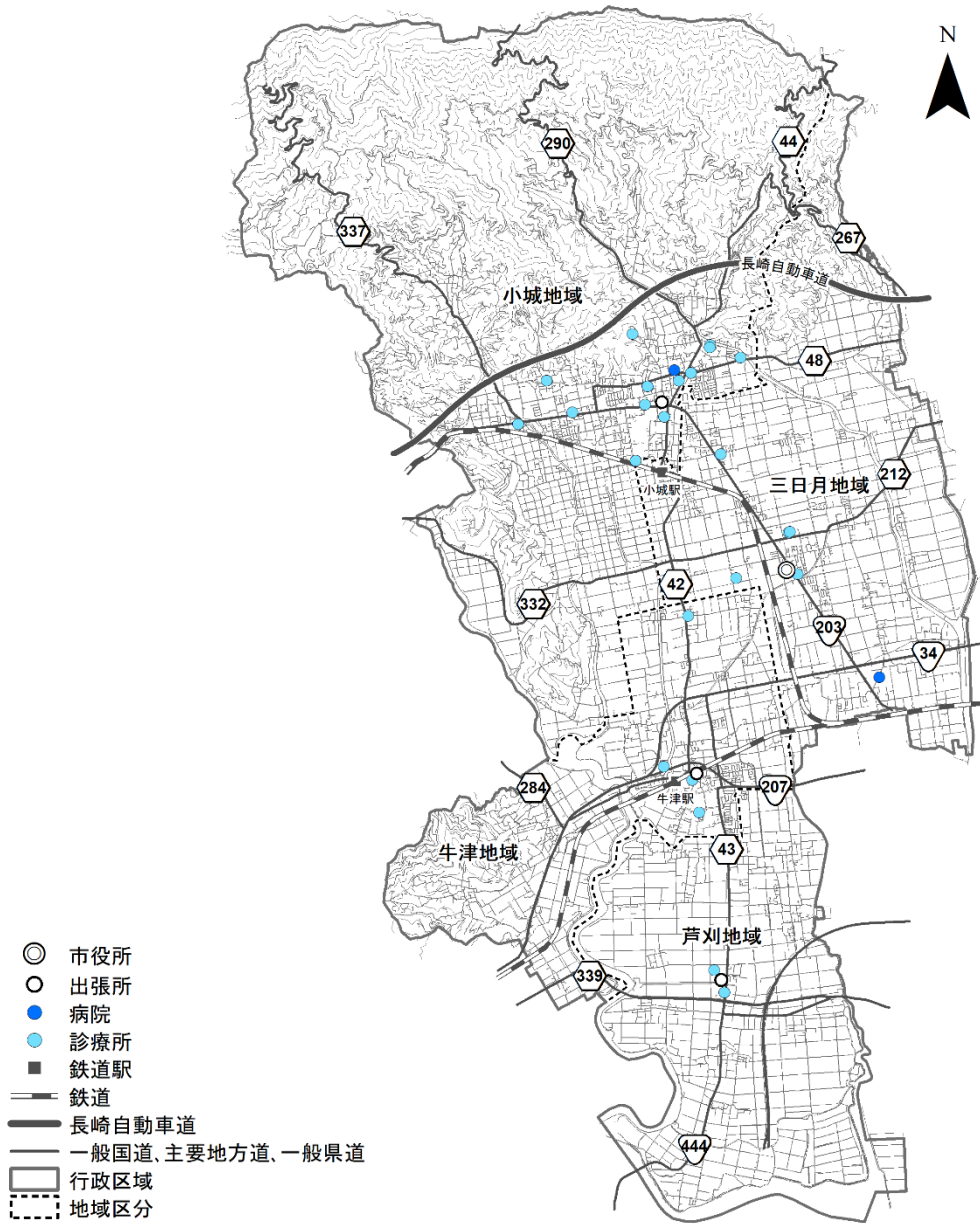


図 医療機関

出典：庁内資料（平成27年度小城市立地適正化計画）

7-4 福祉施設

本市には、高齢者福祉施設が76カ所あります。
 分布についてみると、各地域に施設の分布がみられますが、牛津地域は他3地域と比較して少なくなっています。

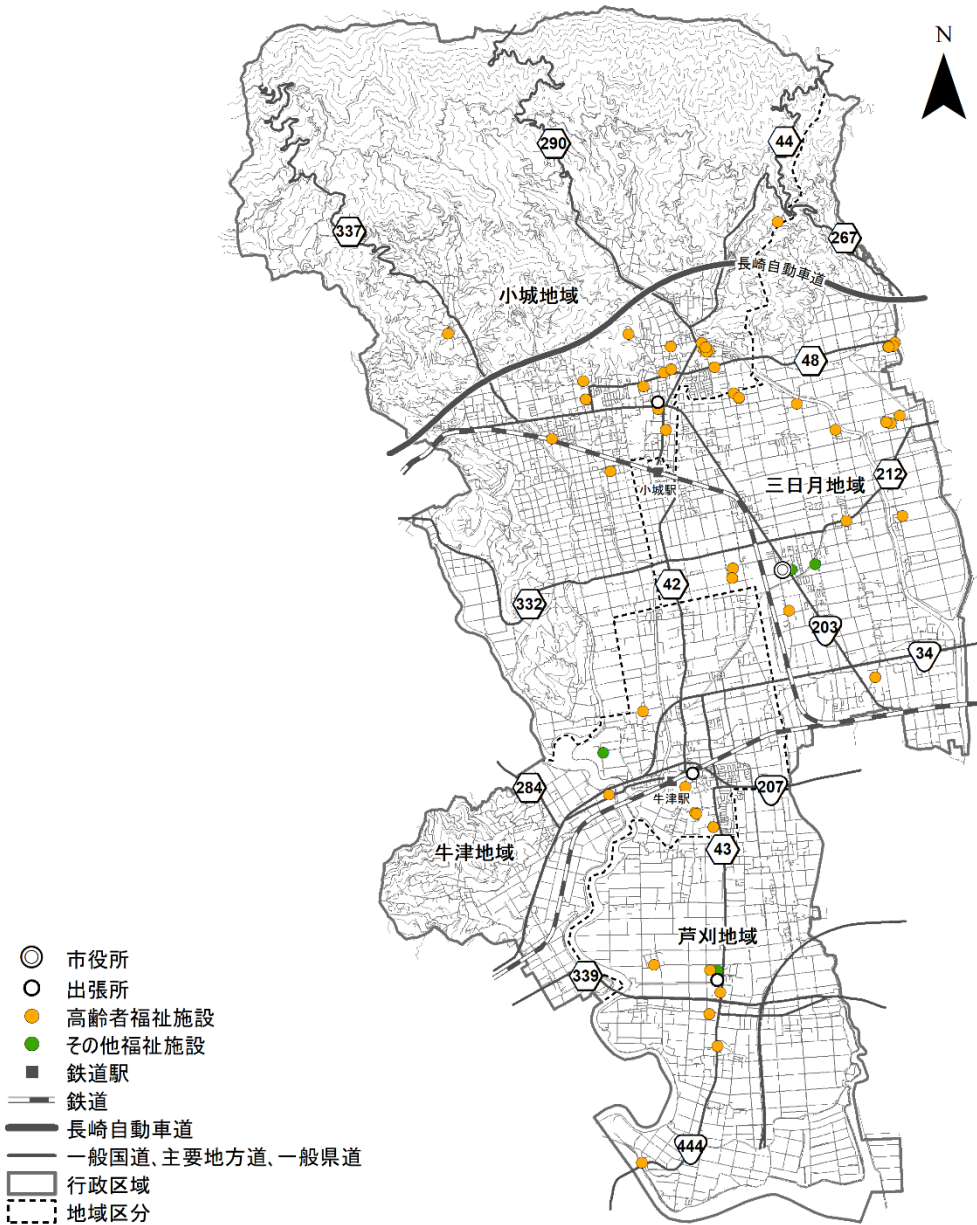


図 福祉施設

出典：庁内資料（平成27年度小城市立地適正化計画）

7-5 保育施設・教育施設

幼稚園、保育所の分布状況についてみると、医療機関ほどの集中的な立地傾向はみられず、分散的な立地となっています。

小学校は、人口に応じた分散傾向がみられます。

中学校は、小城地域1校、三日月地域1校、牛津地域1校の計3校があり、芦刈地域には、小中一貫校が1校あります。

高校は、小城地域1校、牛津地域1校の計2校があります。

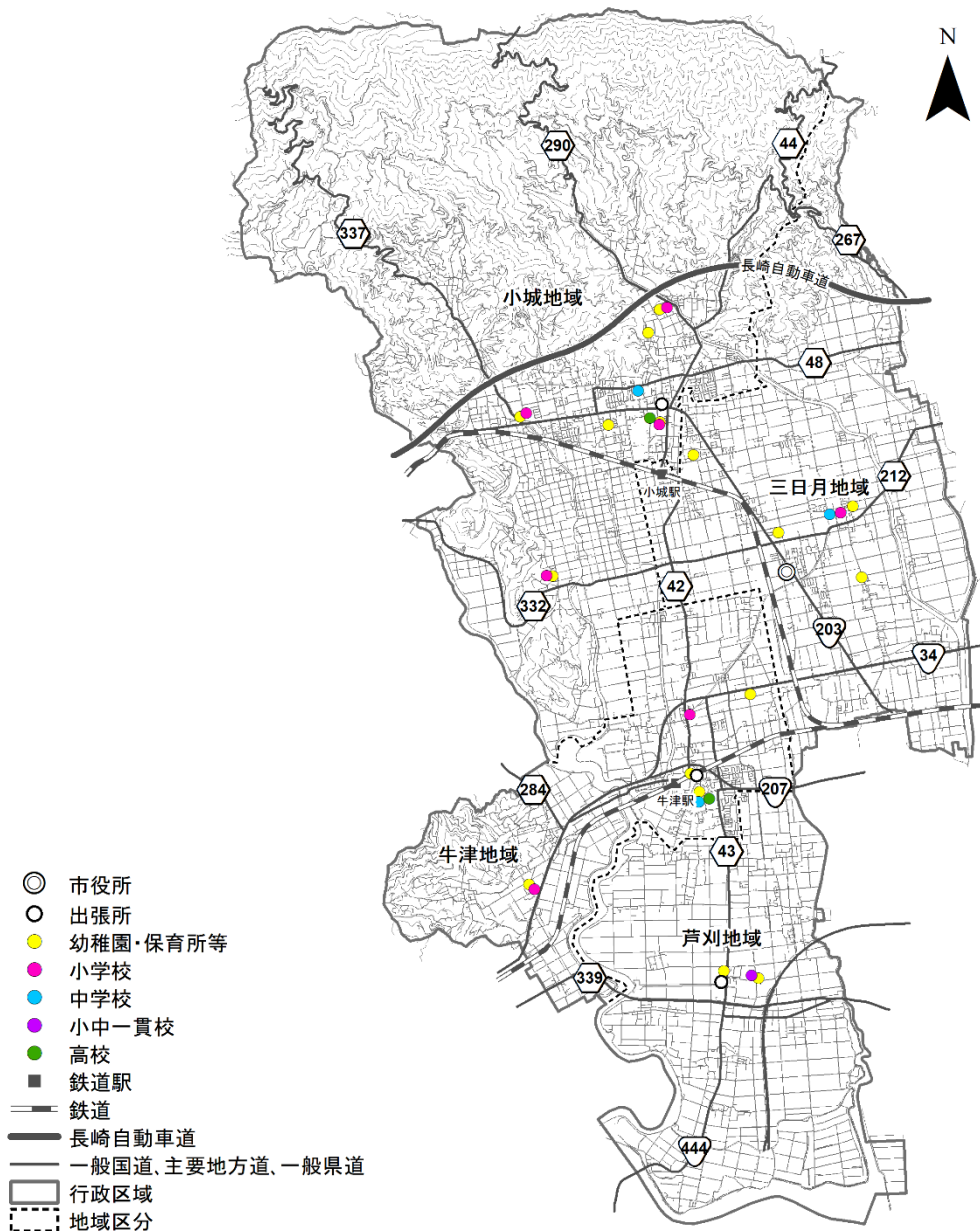


図 保育・教育施設

出典：庁内資料（平成27年度小城市立地適正化計画）

7-6 商業施設

本市には、食料品取扱い商業施設（スーパー、コンビニ、ドラッグストア）が 32 カ所、ATM 含む金融施設が 18 カ所、郵便局が 6 カ所立地しています。

分布についてみると、市役所周辺や国道沿線に集中した分布がみられます。

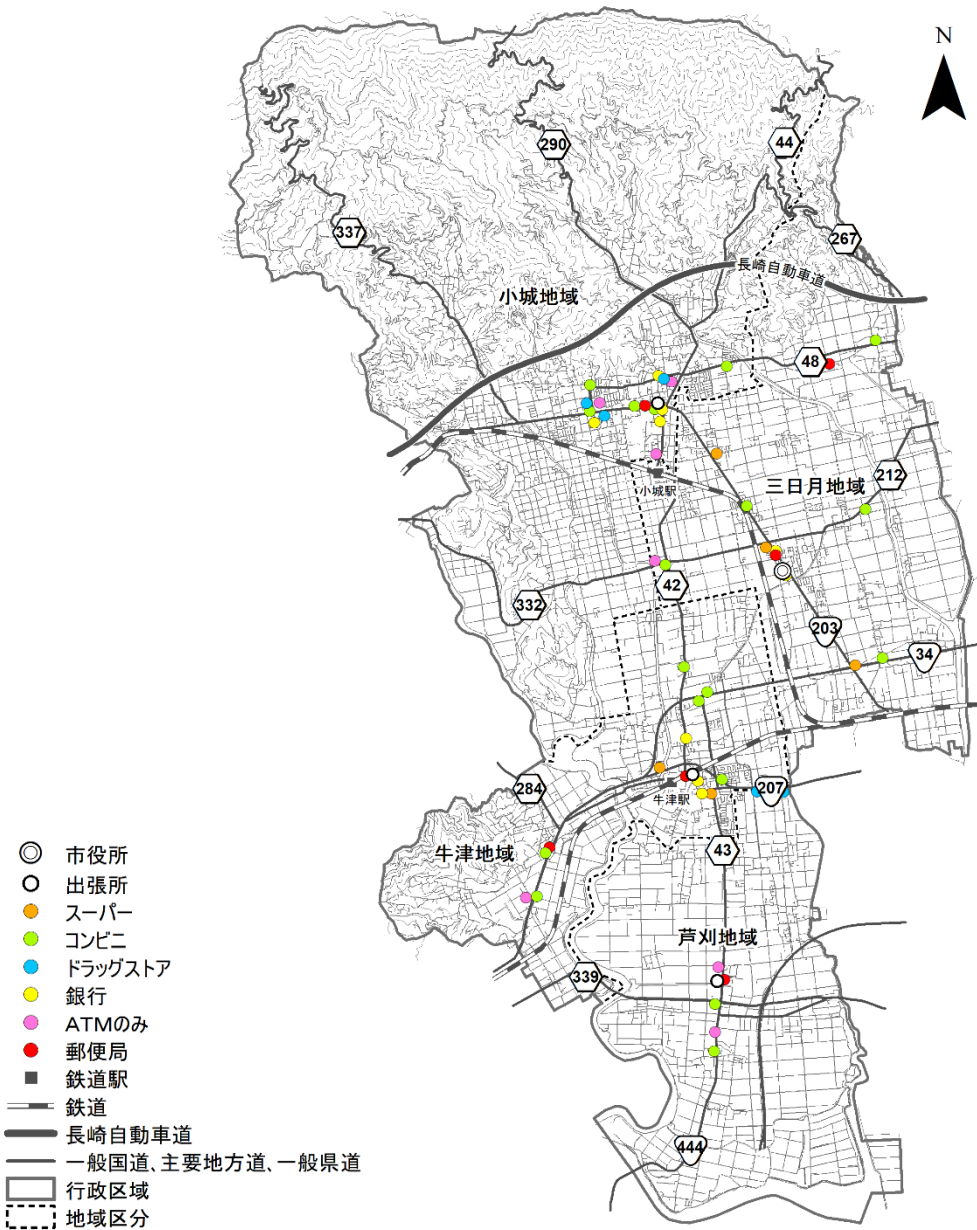


図 商業・金融施設

出典：庁内資料（平成 27 年度小城市立地適正化計画）

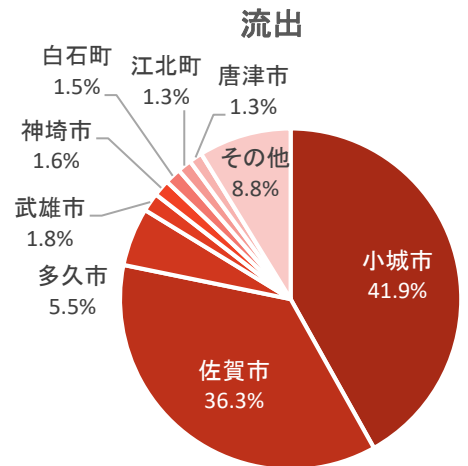
8 地域間の流動

8-1 通勤・通学動向

8-1-1 近年の通勤・通学動向

[流出]

- ・平成 27 年の国勢調査によれば、本市に居住し、市外へ通勤・通学する人の割合は 58.1%となっています。
- ・他市町へ通勤・通学する人の割合は、佐賀市が最も高く 36.3%、続いて多久市 5.5%、武雄市 1.8%となっています。



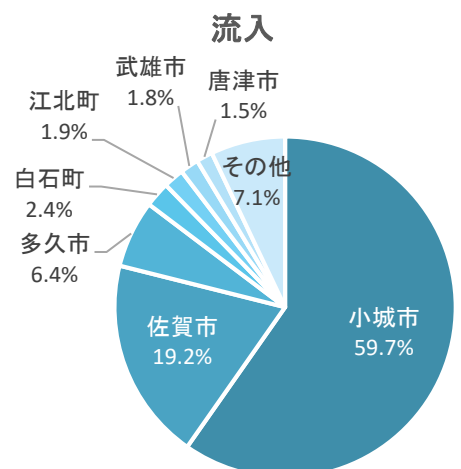
※当地に常住する就業者・通学者=24,579人

図 通勤・通学 (流出)

出典：平成 27 年国勢調査

[流入]

- ・市外から本市へ通勤・通学する人の割合は、40.3%となっています。
- ・流入元の第 1 位は佐賀市で 19.2%、続いて多久市 6.4%、白石町 2.4%となっています。



※当地で従業・通学する者=17,234人

図 通勤・通学 (流入)

出典：平成 27 年国勢調査

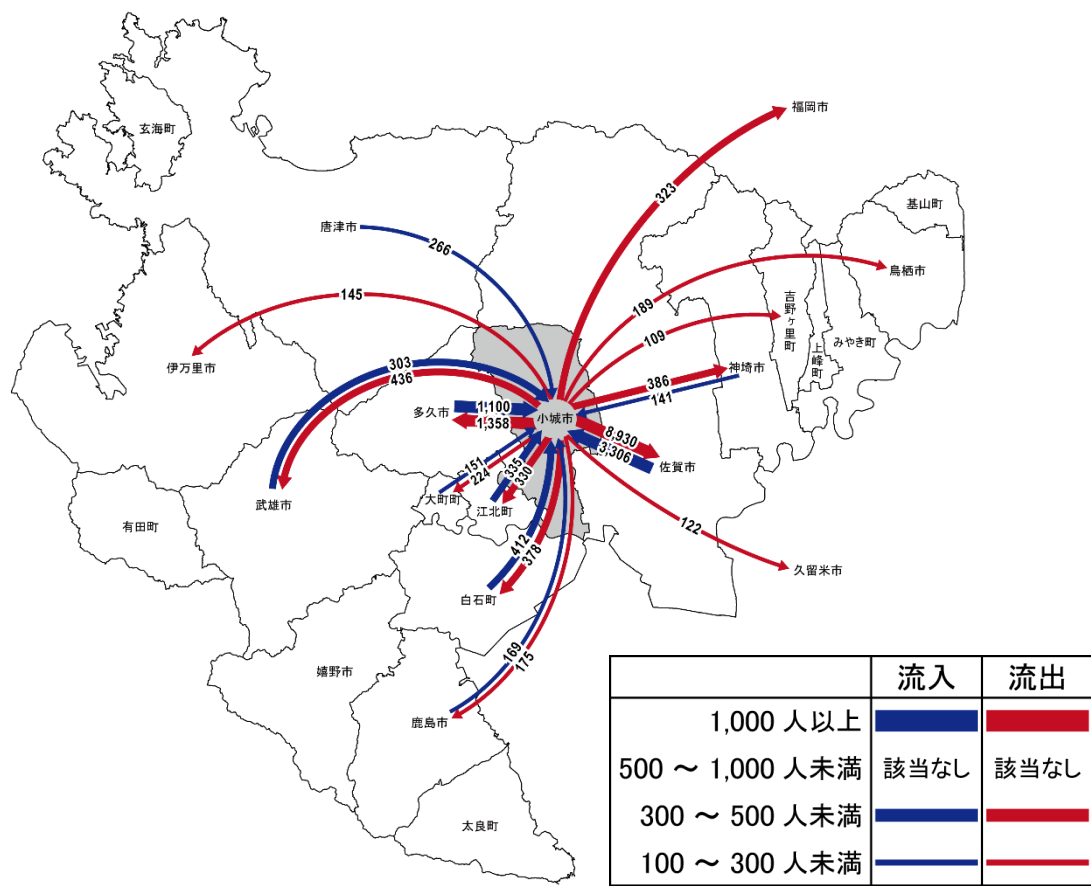


図 通勤通学流動

出典：平成27年国勢調査

9 災害

小城市全域の平野部では浸水想定区域が広く指定されており、小城地区、牛津地区及び芦刈地区の牛津川周辺で、3.0m以上～5.0m未満や5.0m以上～10.0m未満の浸水想定区域・浸水深が想定されています。三日月地区では、祇園川の東側で5.0m以上～10.0m未満の浸水想定区域・浸水深に想定されています。

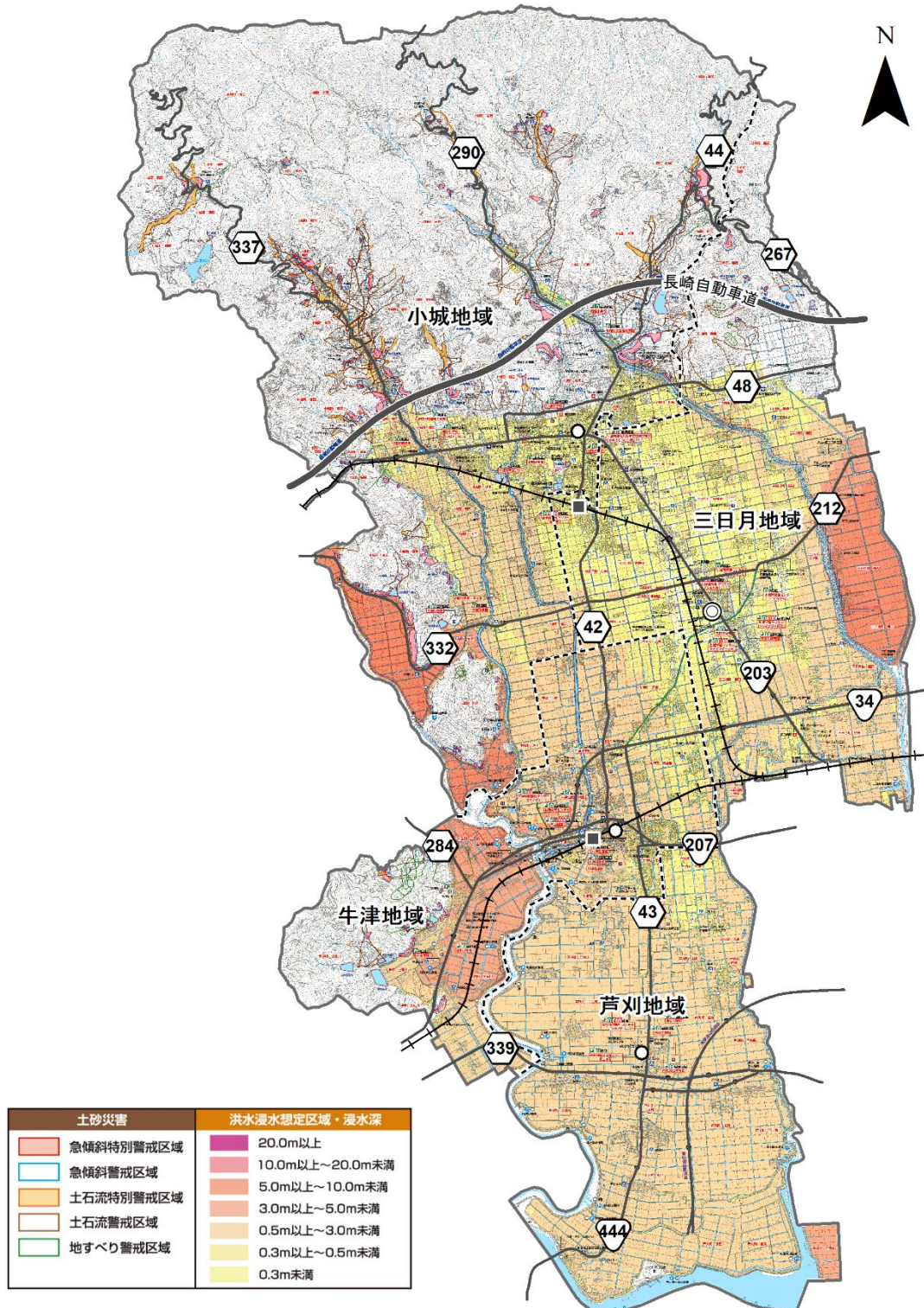


図 小城市ハザードマップ

出典：小城市HP

土砂災害		洪水浸水想定区域・浸水深	
	急傾斜特別警戒区域		20.0m以上
	急傾斜警戒区域		10.0m以上～20.0m未満
	土石流特別警戒区域		5.0m以上～10.0m未満
	土石流警戒区域		3.0m以上～5.0m未満
	地すべり警戒区域		0.5m以上～3.0m未満
			0.3m以上～0.5m未満
			0.3m未満

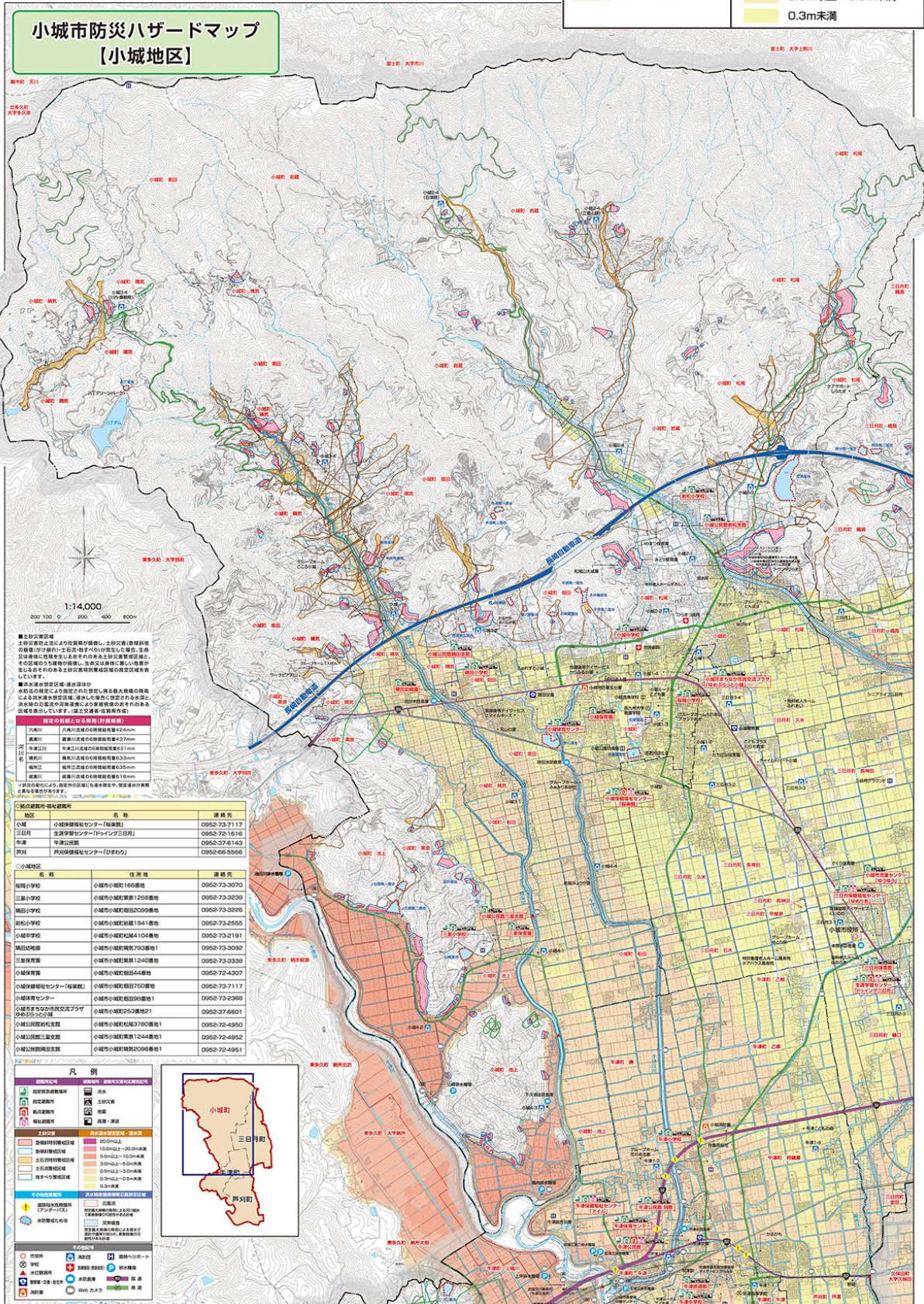


図 小城市ハザードマップ（小城地区）

出典：小城市HP

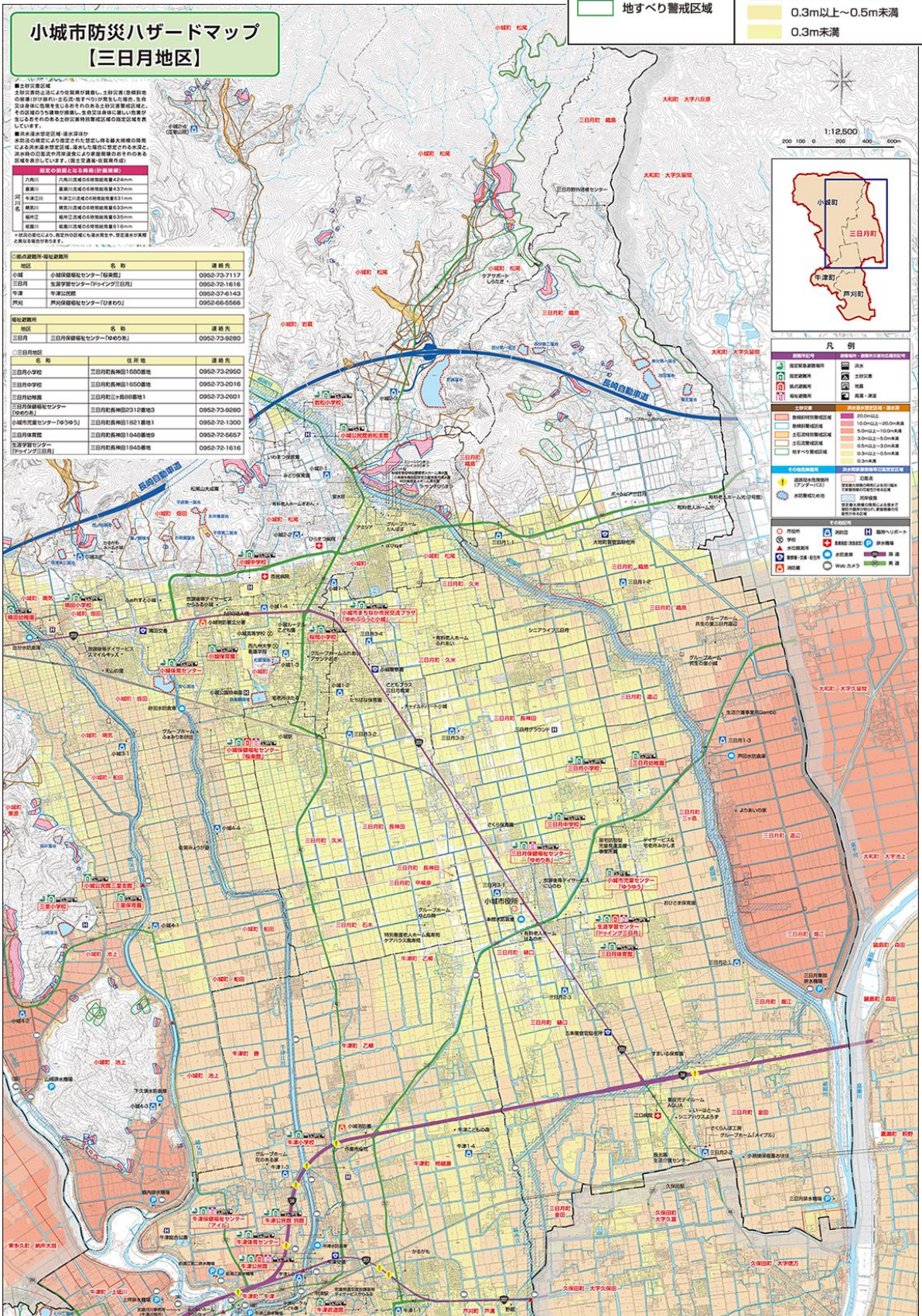
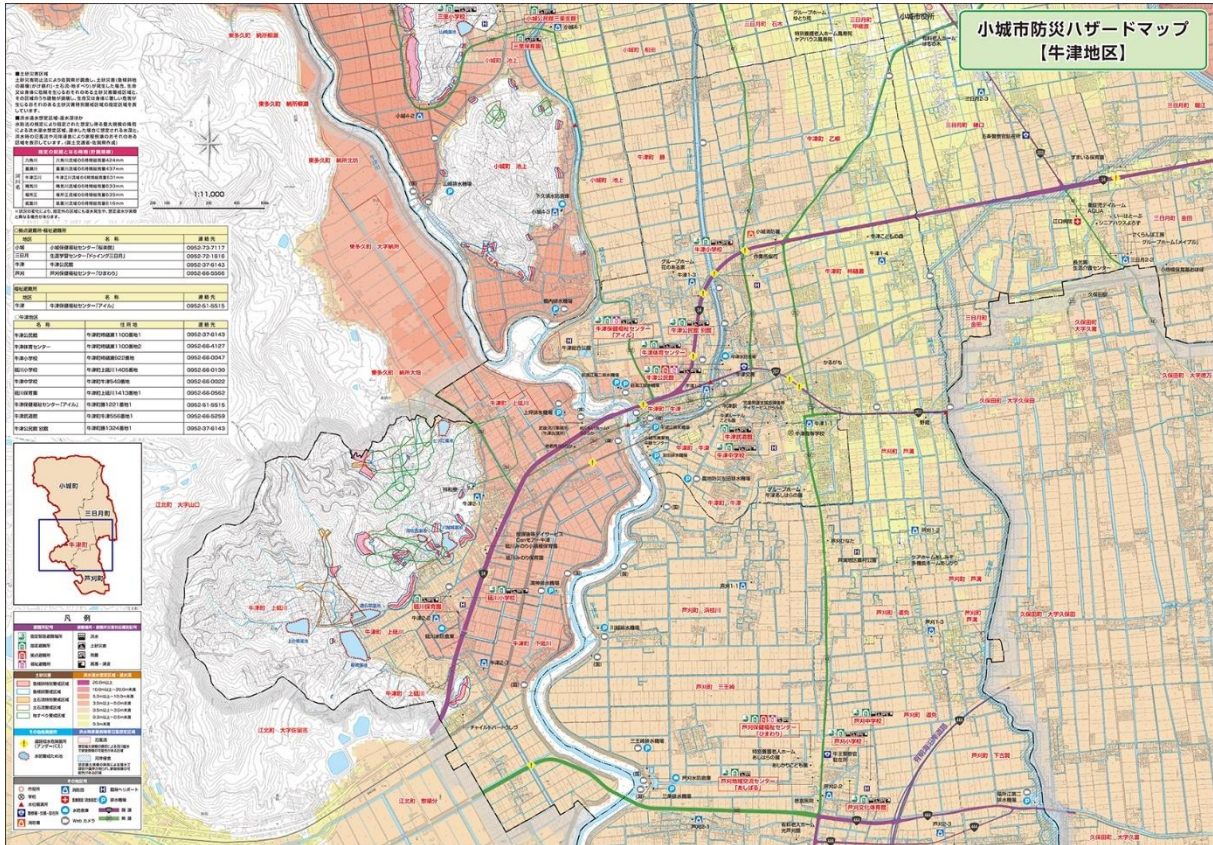


図 小城市ハザードマップ (三日月地区)

出典：小城市 HP



土砂災害		洪水浸水想定区域・浸水深	
	急傾斜特別警戒区域		20.0m以上
	急傾斜警戒区域		10.0m以上～20.0m未満
	土石流特別警戒区域		5.0m以上～10.0m未満
	土石流警戒区域		3.0m以上～5.0m未満
	地すべり警戒区域		0.5m以上～3.0m未満
			0.3m以上～0.5m未満
			0.3m未満

図 小城市ハザードマップ（牛津地区）

出典：小城市 HP



図 小城市ハザードマップ（芦刈地区）

出典：小城市 HP

第3章 小城市の道路交通現況

1 広域交通体系

本市は佐賀県のほぼ中央に位置し、東は佐賀市方面、北は唐津方面、西は武雄市、長崎県佐世保市方面、南は鹿島市、長崎県諫早市方面に主要な幹線道路が通過しています。

また、平成30年3月には高速交通網である長崎自動車道に小城スマートインターチェンジが開通し、本市へのアクセス性が向上しました。

鉄道網をみると、本市には鉄道駅が2カ所あり、多久市へ繋がる唐津線の小城駅、江北町へ繋がる長崎本線の牛津駅は、本市の重要な交通拠点になっています。

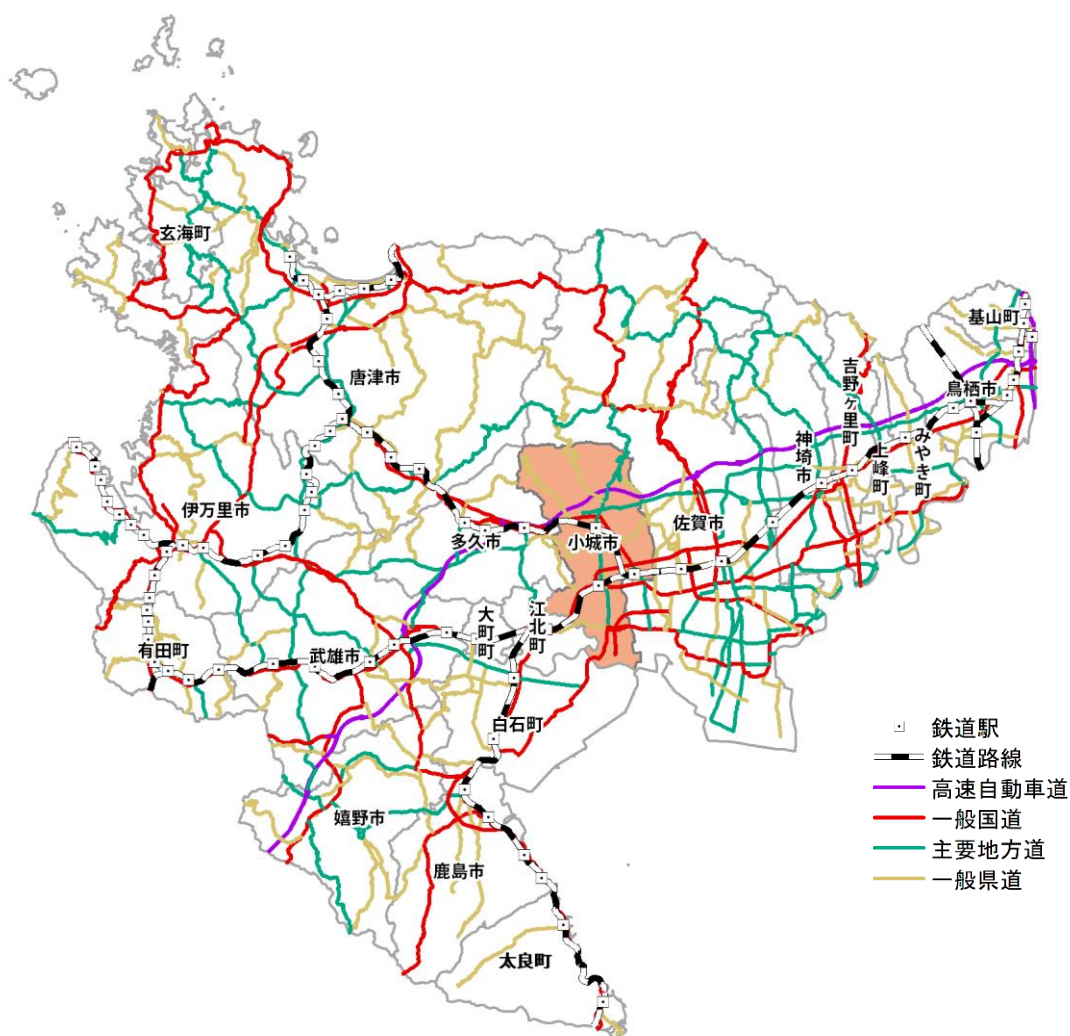


図 広域交通体系

2 道路現況

2-1 道路ネットワーク

市内の各地区を結ぶ幹線道路としては、市の中央部を南北に通る主要地方道 42 号、43 号及び 44 号があり、駅や市役所、出張所を結んでいます。

市域の南と北でネットワークの軸が異なっており、方向の異なる軸が連結し市域を網羅したネットワークを構成しています。

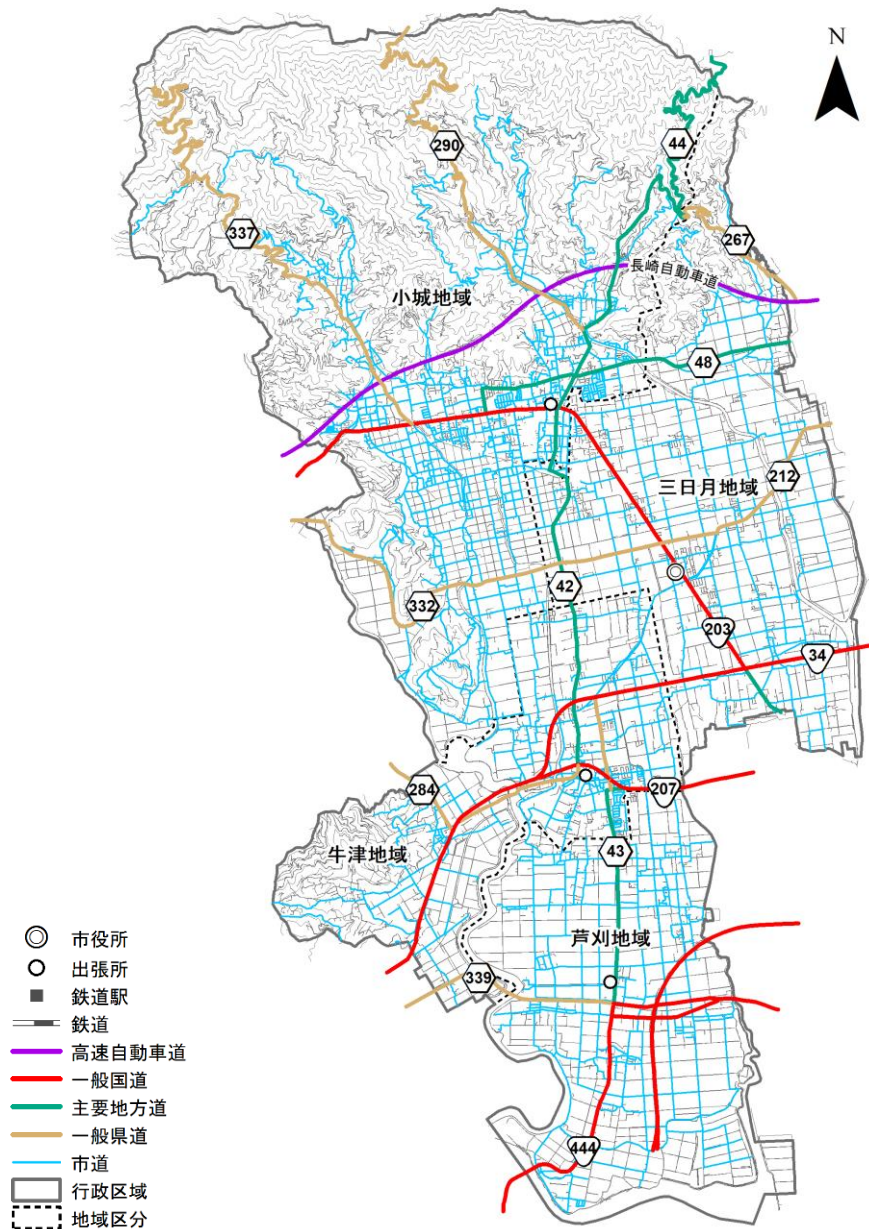


図 道路ネットワーク

出典：庁内資料（平成 30 年度道路台帳）

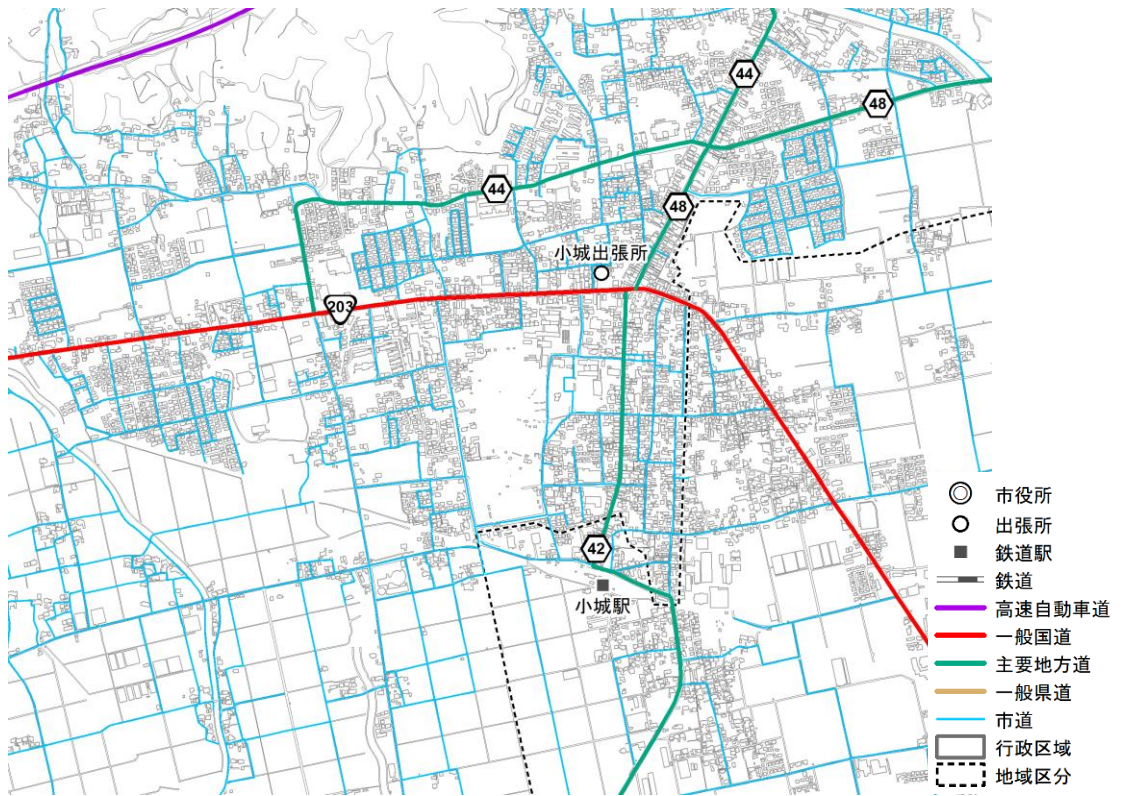


図 道路ネットワーク 拡大図①

出典：庁内資料（平成 30 年度道路台帳）

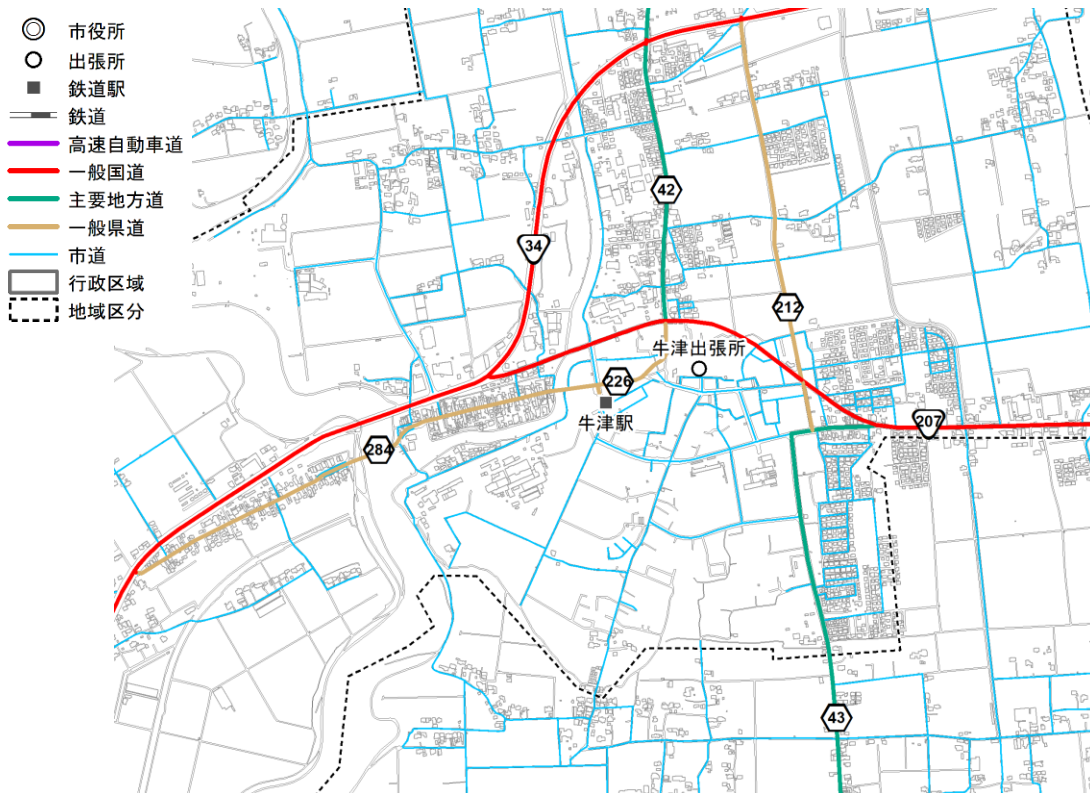


図 道路ネットワーク 拡大図②

出典：庁内資料（平成 30 年度道路台帳）

2-2 道路整備状況

市道整備状況をみると地域ごとに整備状況に差があり、三日月地域は他3地域と比べて改良済み道路が多くなっており、芦刈地域は他3地域と比べて未改良道路が多くなっています。

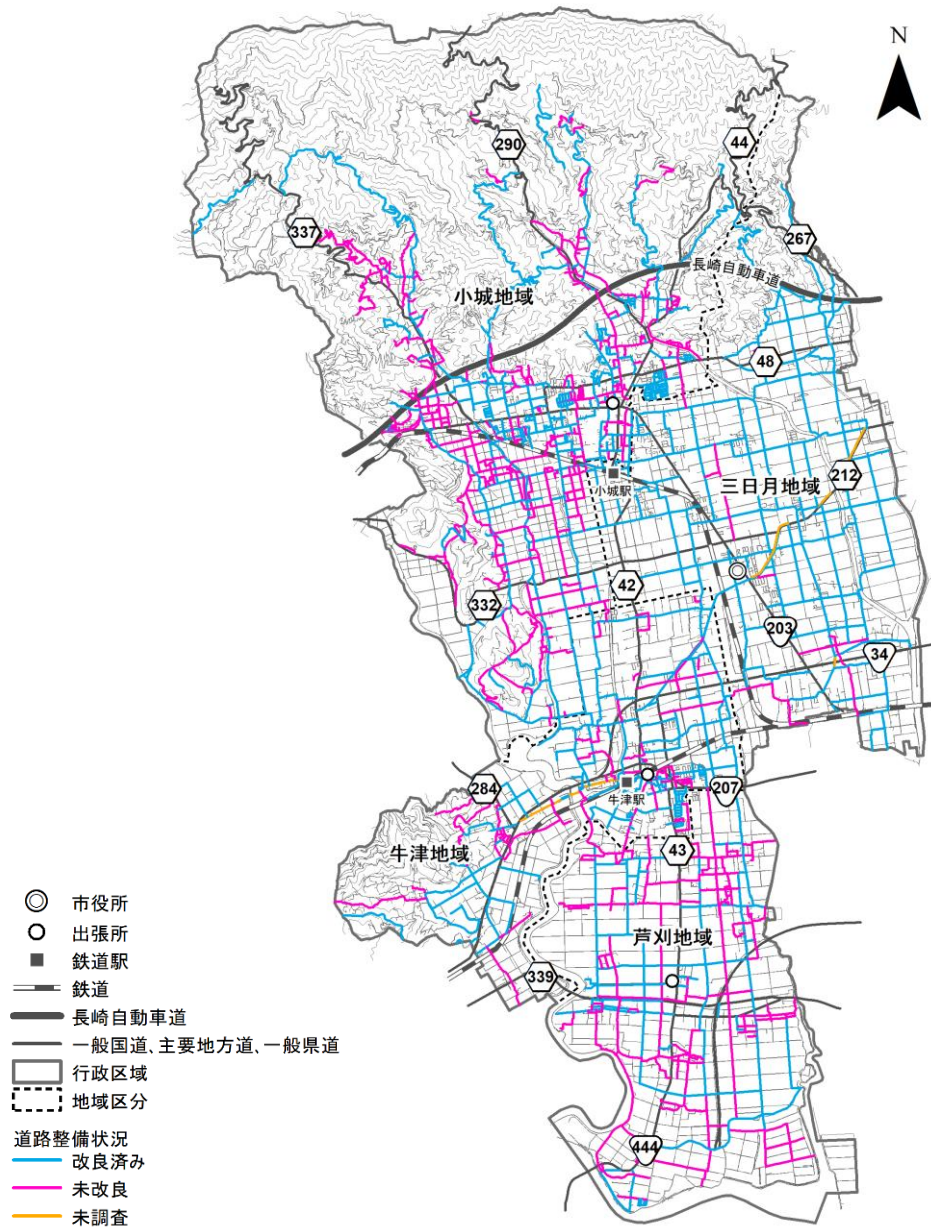


図 道路整備状況

出典：庁内資料（平成30年度道路台帳）

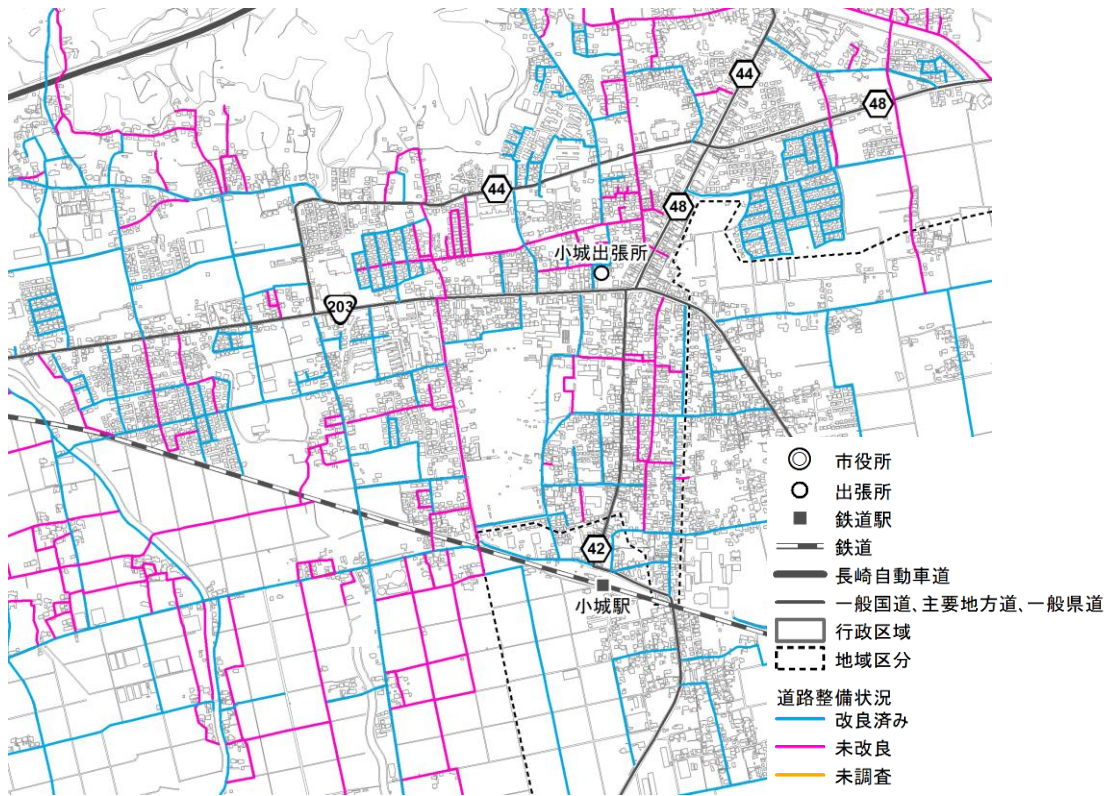


図 道路整備状況 拡大図①

出典：庁内資料（平成 30 年度道路台帳）

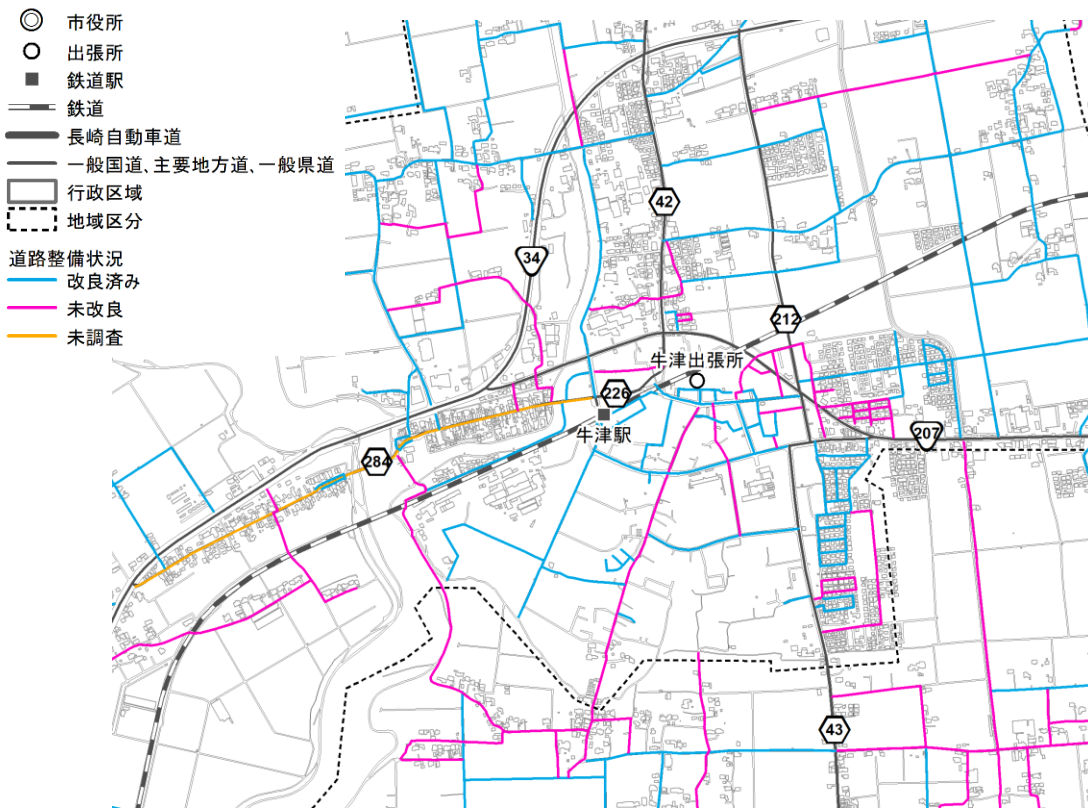


図 道路整備状況 拡大図②

出典：庁内資料（平成 30 年度道路台帳）

2-3 車道幅員

車道幅員についてみると、幅員が 4.0m～6.0m 未満、4.0m 未満の道路が比較的多く、6.0m 以上の道路はわずかしかありません。



図 車道幅員

出典：庁内資料（平成 30 年度道路台帳）
※路線毎の平均幅員を図化

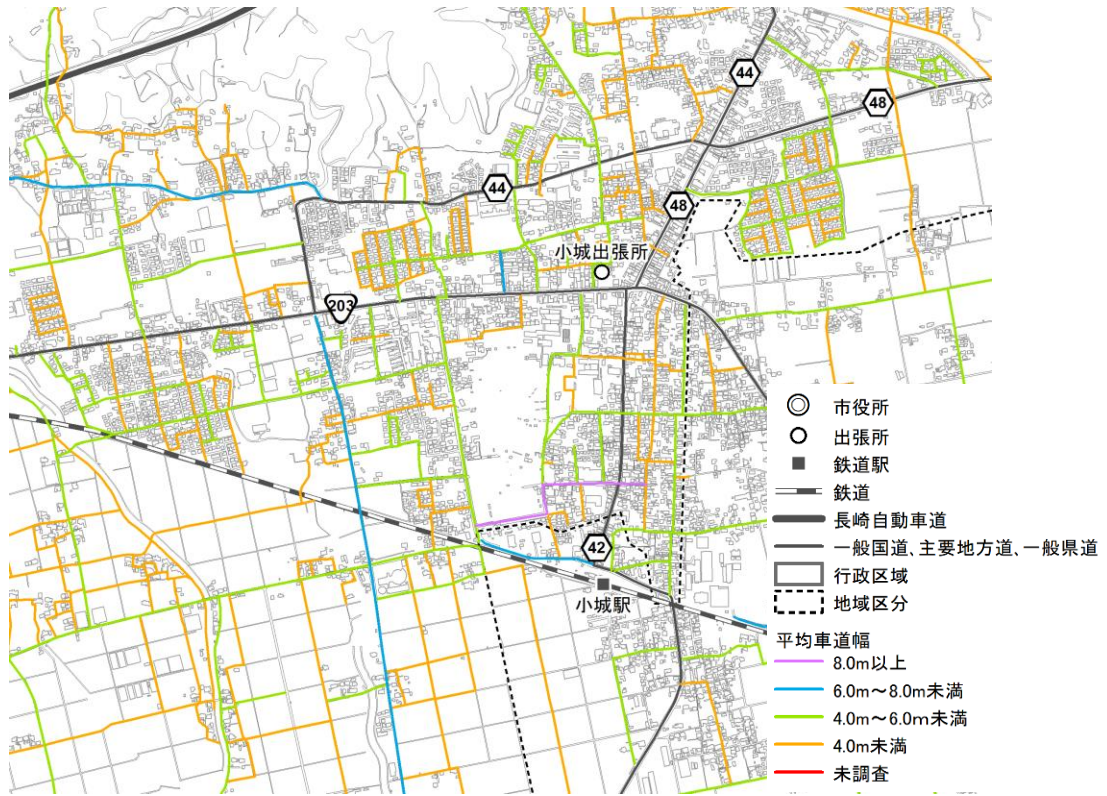


図 車道幅員 拡大図①

出典：庁内資料（平成 30 年度道路台帳）
 ※路線毎の平均幅員を図化

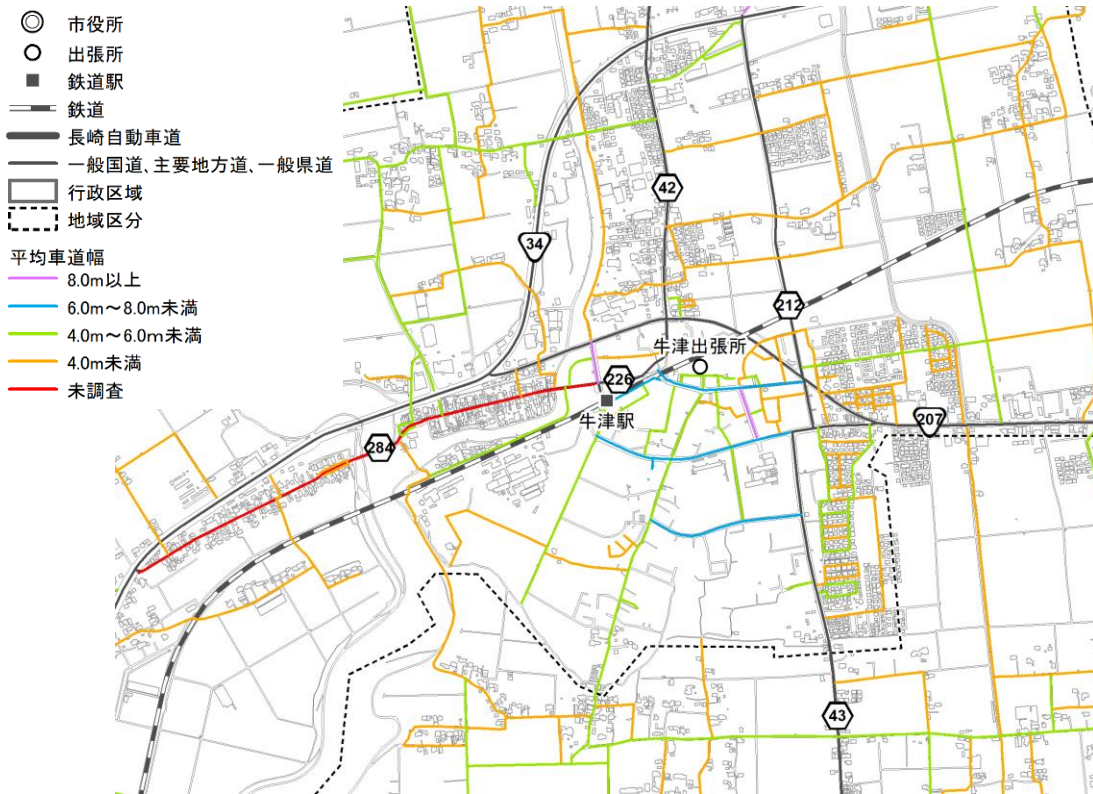


図 車道幅員 拡大図②

出典：庁内資料（平成 30 年度道路台帳）
 ※路線毎の平均幅員を図化

2-4 歩道の設置状況

小城地域、三日月地域に歩道のある市道がみられますが、市全体としては歩道のない市道が多い状況にあり、安全な歩行空間が確保されていない箇所が存在しています。

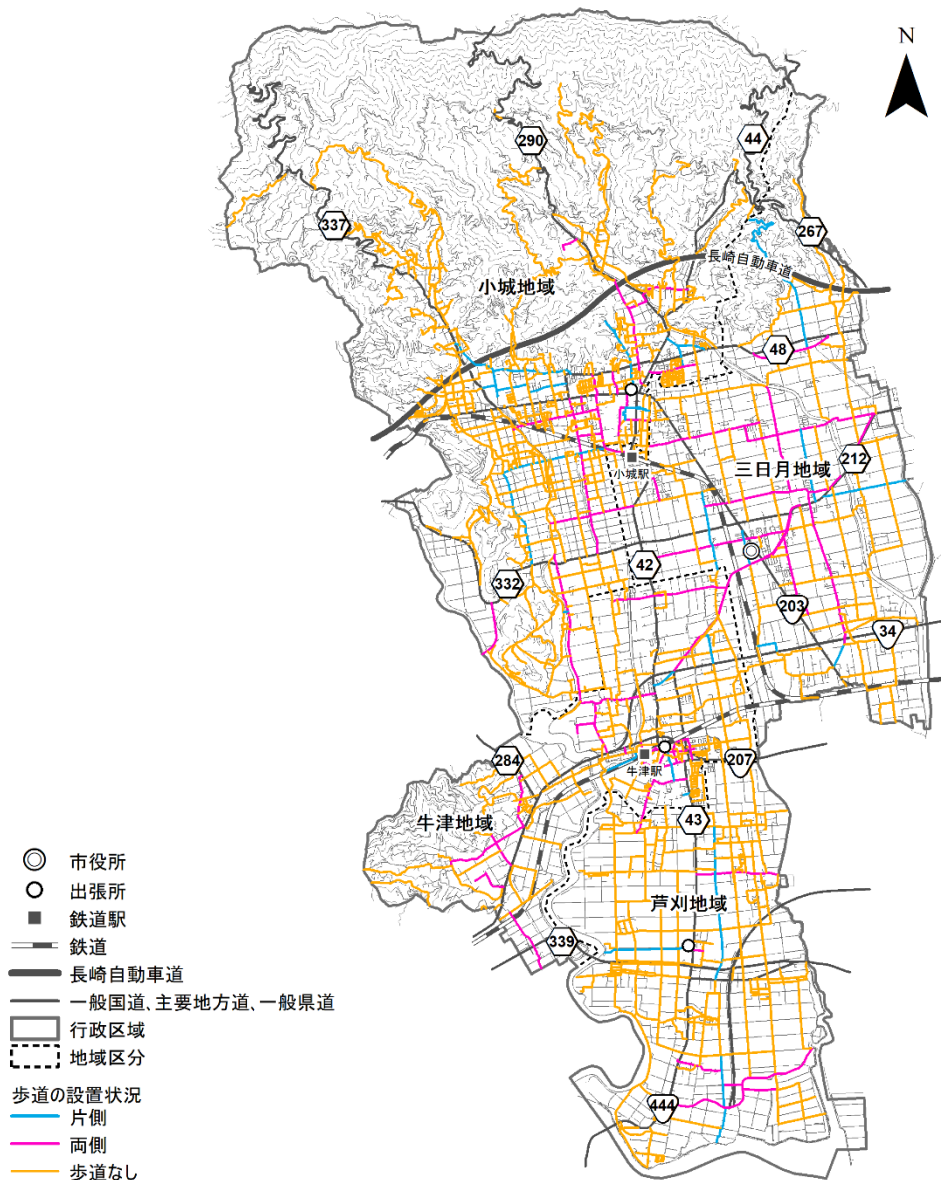


図 歩道の有無

出典：庁内資料（平成 30 年度道路台帳）

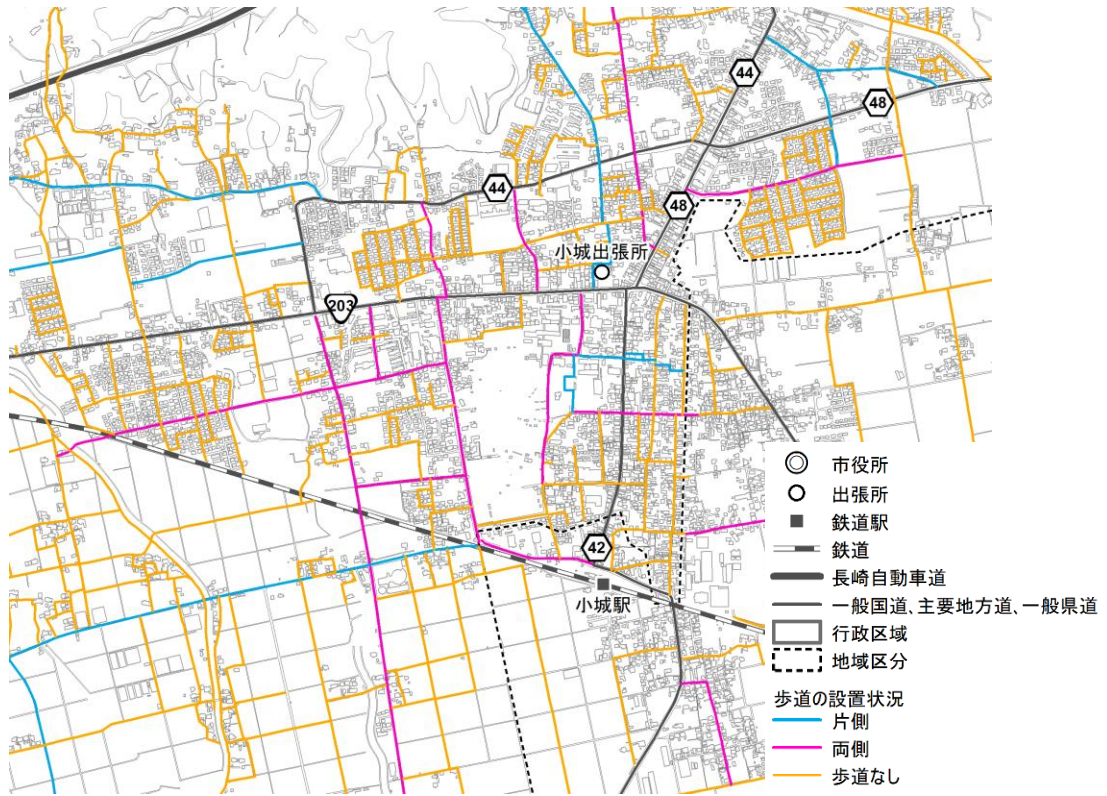


図 歩道の有無 拡大図①

出典：庁内資料（平成 30 年度道路台帳）

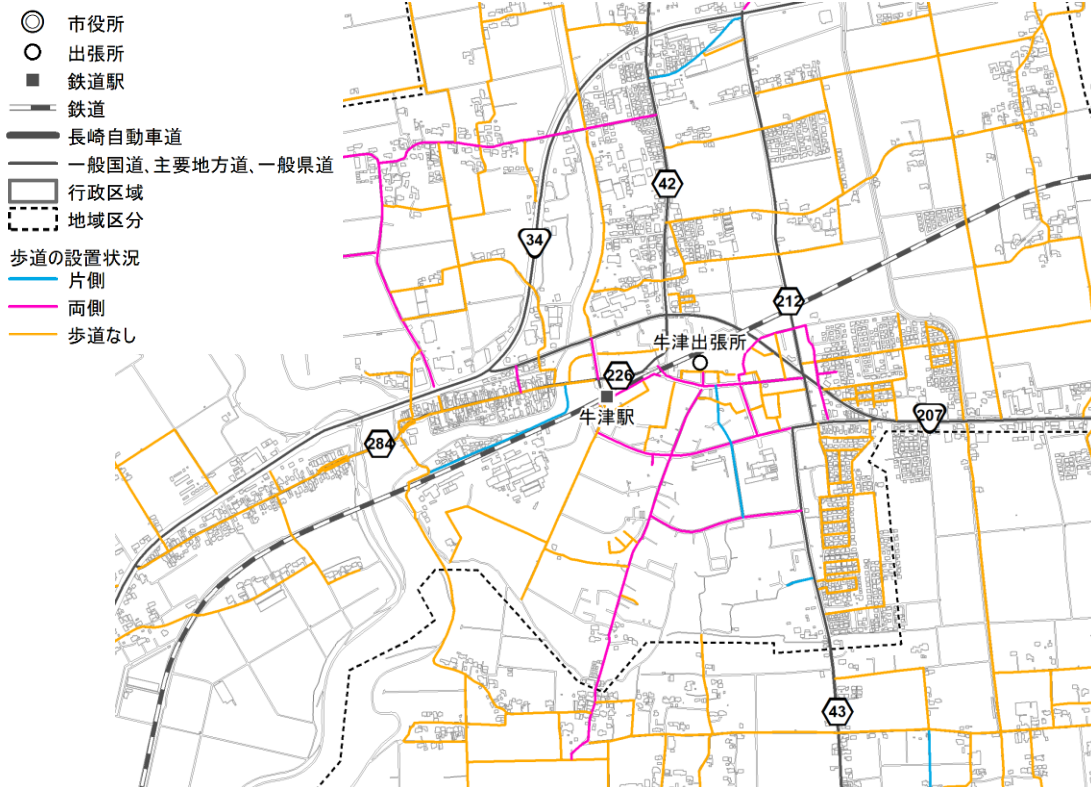


図 歩道の有無 拡大図②

出典：庁内資料（平成 30 年度道路台帳）

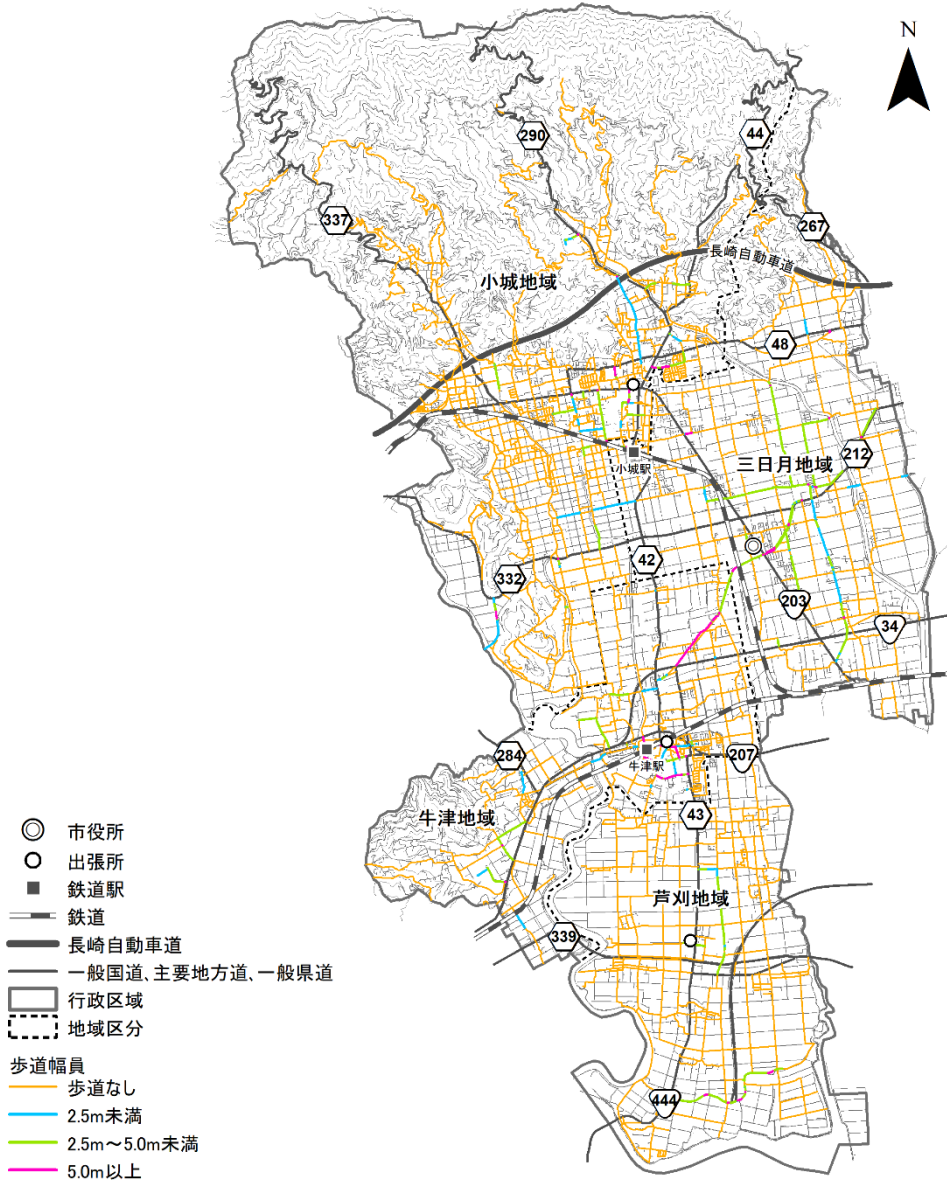


図 歩道幅員

出典：庁内資料（平成 30 年度道路台帳）

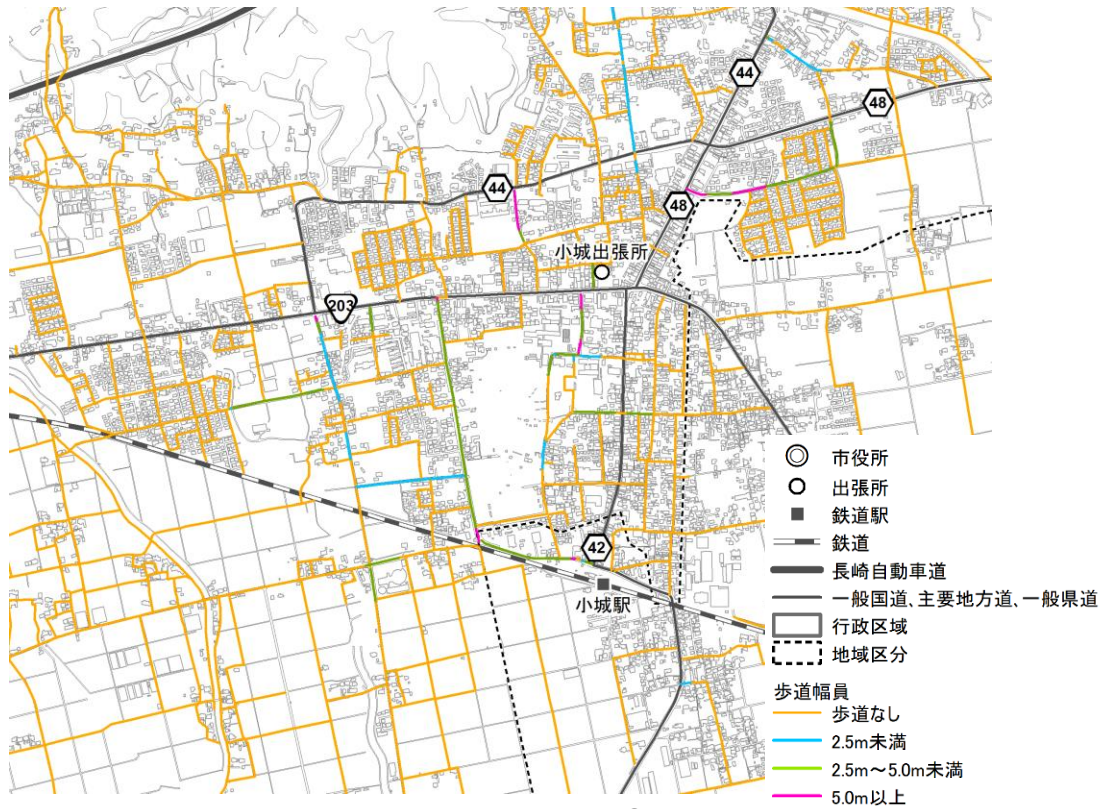


図 歩道幅員 拡大図①

出典：庁内資料（平成30年度道路台帳）

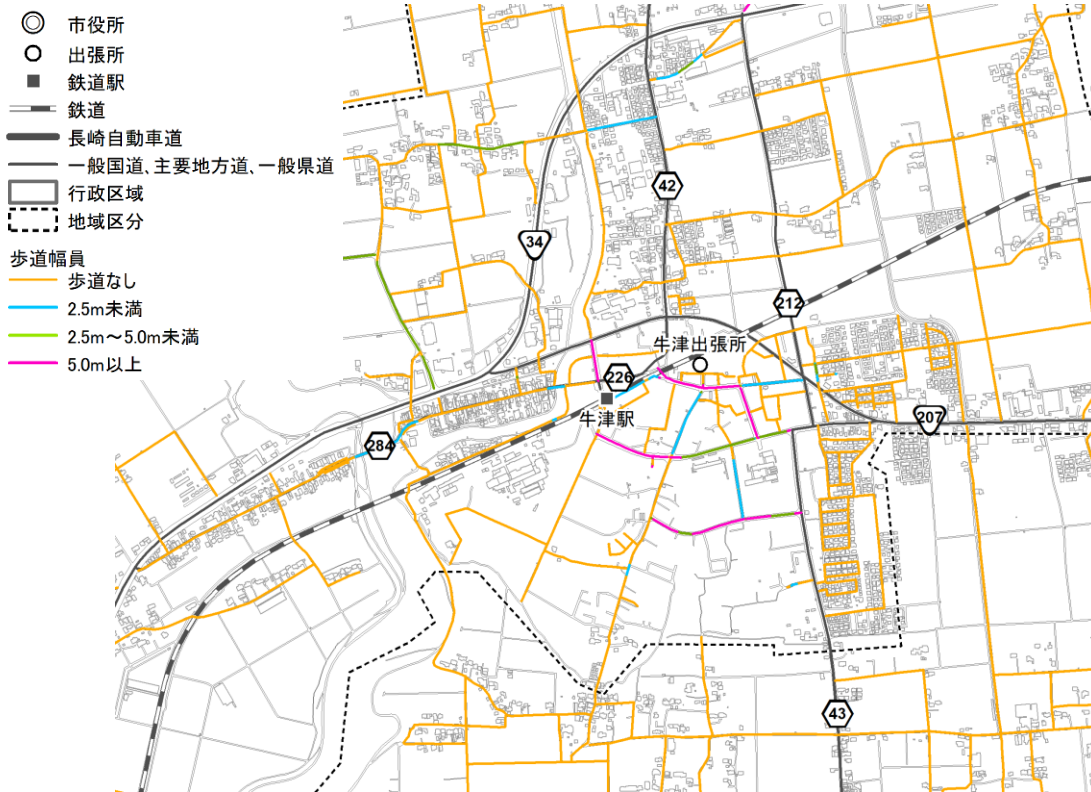


図 歩道幅員 拡大図②

出典：庁内資料（平成30年度道路台帳）

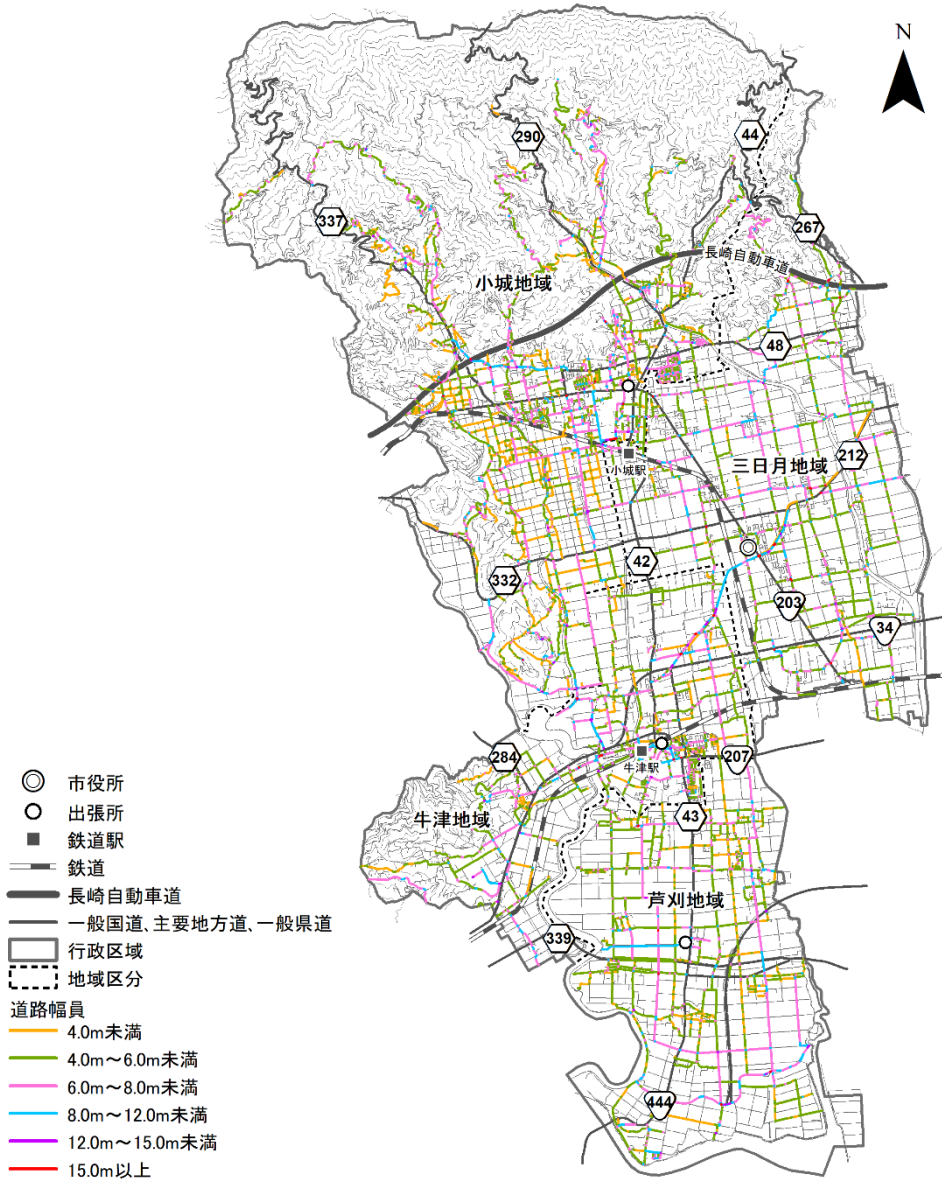


図 道路幅員

出典：庁内資料（平成 30 年度道路台帳）

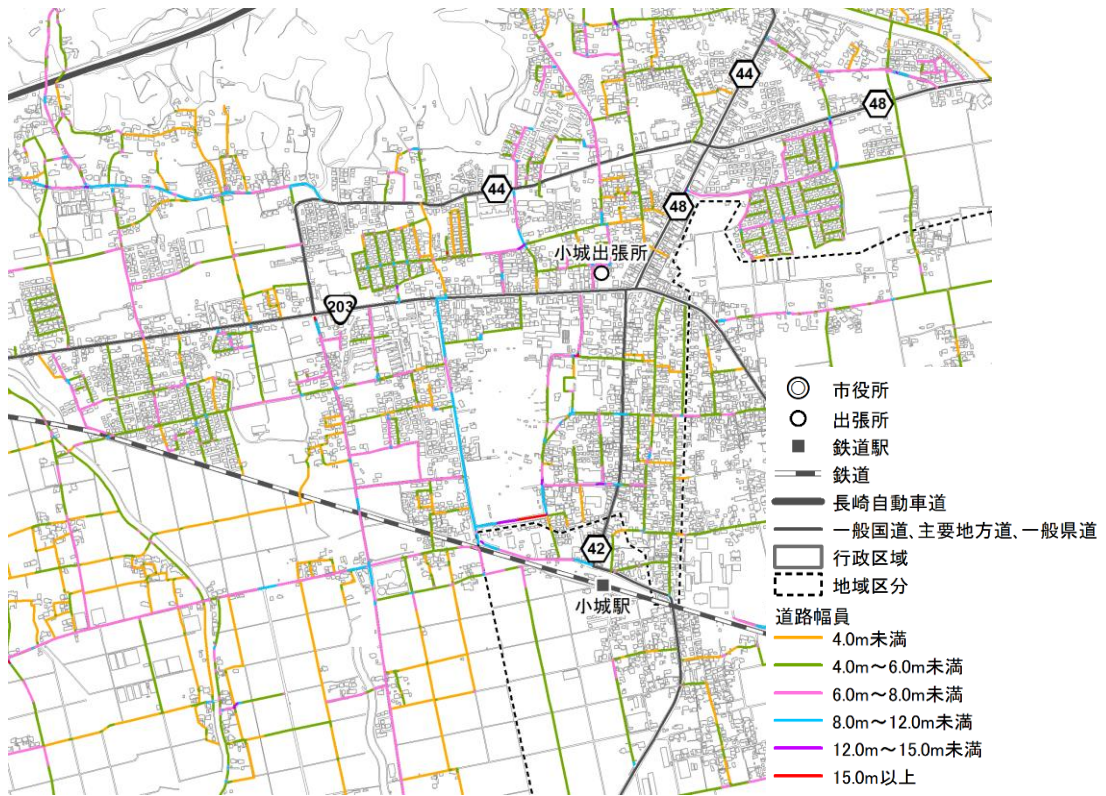


図 道路幅員 拡大図①

出典：庁内資料（平成 30 年度道路台帳）



図 道路幅員 拡大図②

出典：庁内資料（平成 30 年度道路台帳）

3 交通状況

3-1 路線別交通量

主要道路の自動車交通量についてみると、長崎自動車道と一般国道34号等の東西方向の交通量が多く、いずれも隣接する佐賀市や多久市とのアクセスに欠かせない道路となっています。高速道路や一般国道では、交通量が10,000台/12hを超える道路が多くみられます。交通量の経年変化をみると、牛津地域などでは減少傾向にあります。芦刈地域の大幅な交通量の減少は、平成25年の久保田IC～芦刈ICの有明沿岸道路開通が要因と考えられ、広域幹線道路の開通により、周辺路線への影響がみられます。

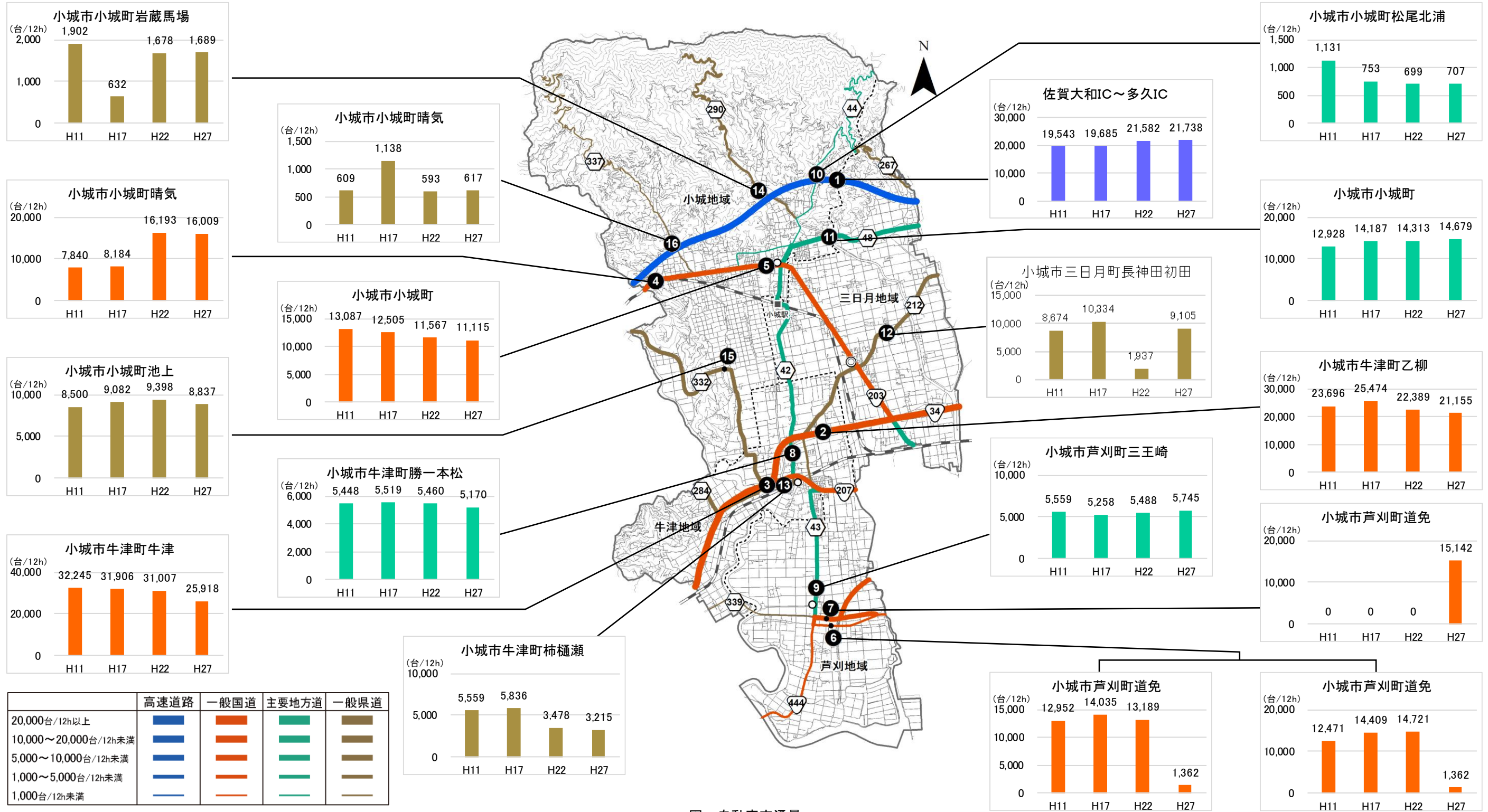


図 自動車交通量

出典：道路交通センサス

3-2 大型車混入率

大型車混入率は、長崎自動車道と一般国道444号の地点7が高くなっており、次いで一般国道34号、主要地方道48号、一般県道290号が高くなっています。
幹線道路では、混入率が10.0%を超える地点が多い状況にあります。

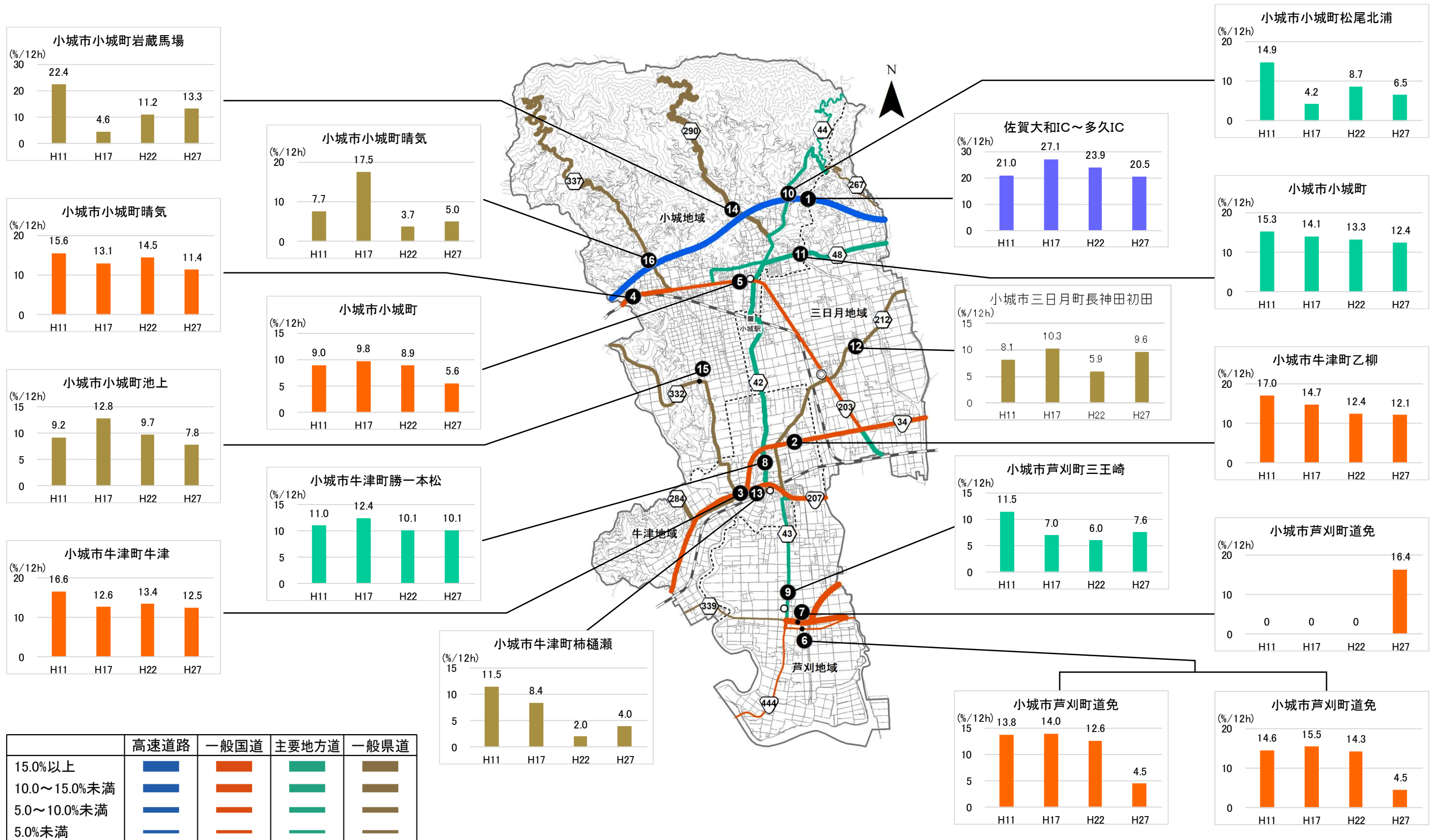


図 大型車混入率の状況

出典：道路交通センサス

3-4 旅行速度

旅行速度についてみると、高速道路である長崎自動車道を除くと一般国道 34 号が最も高く 40km/h を超えており、混雑度の高い一般国道 203 号や主要地方道 48 号は比較的旅行速度が低くなっています。高速道路を除いて、小城市内の旅行速度は 20km/h~40km/h となっていますが、一般県道 226 号（地点 13）が 18.8 km/h と唯一 20.0km/h を下回っています。

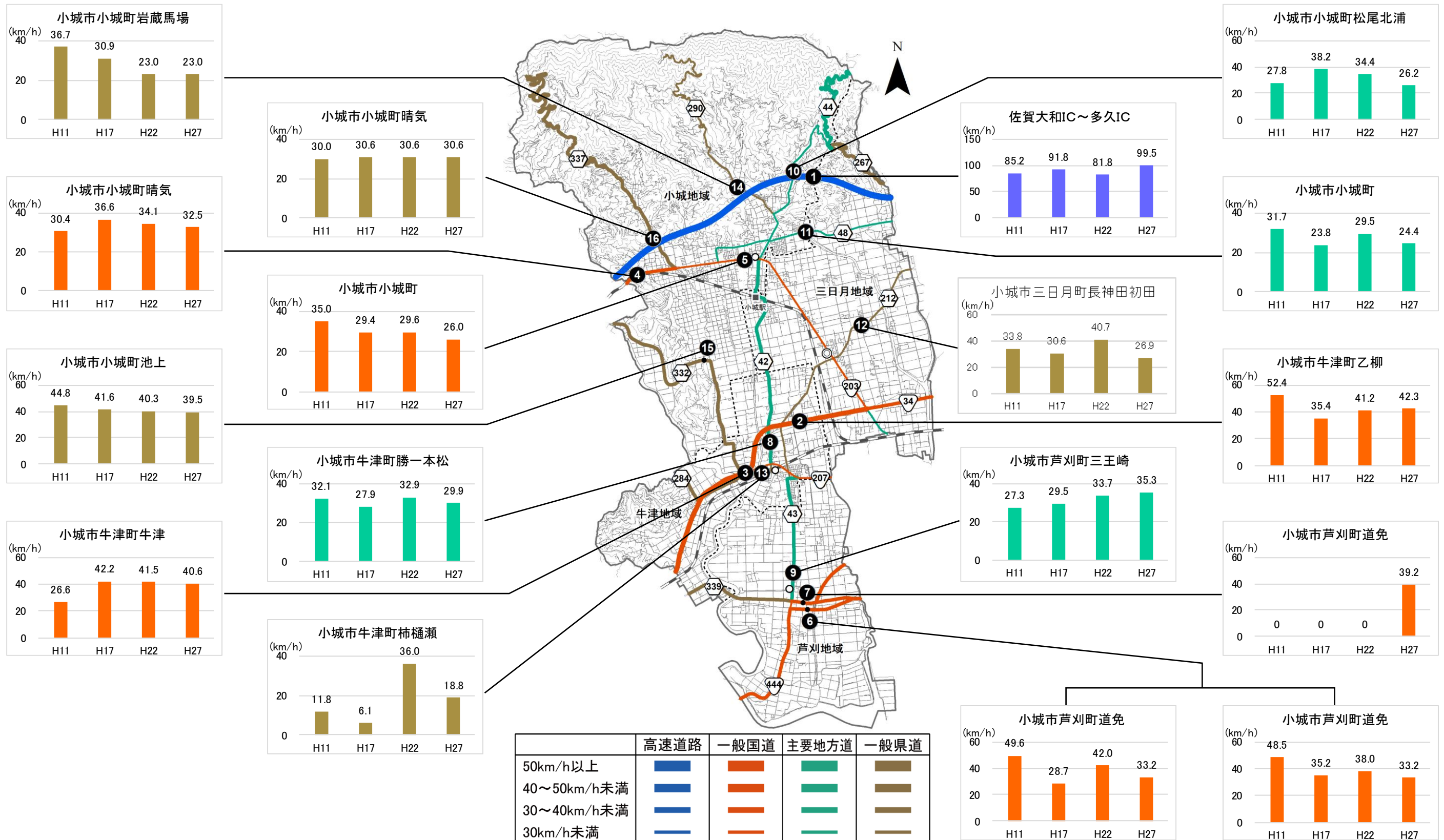


図 旅行速度の状況

出典：道路交通センサス

3-5 自動車保有台数、自動車依存状況

本市の自動車保有台数は、増加傾向にあり、平成28年には37,914台と平成23年の36,213台から約1,700台増加しています。

本市の自動車保有率は年々増加傾向にあることから自動車依存の傾向にあるといえ、平成28年の自動車保有率は83.0%となっています。

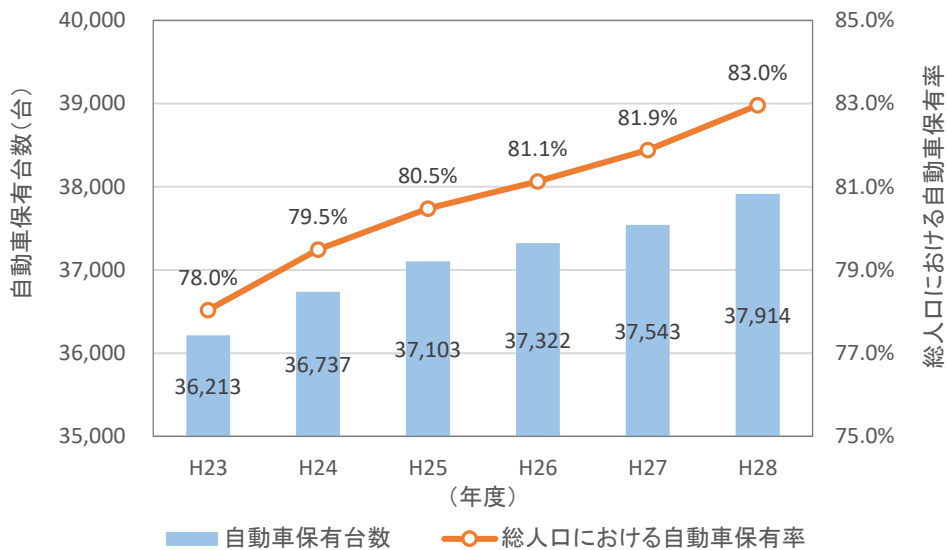


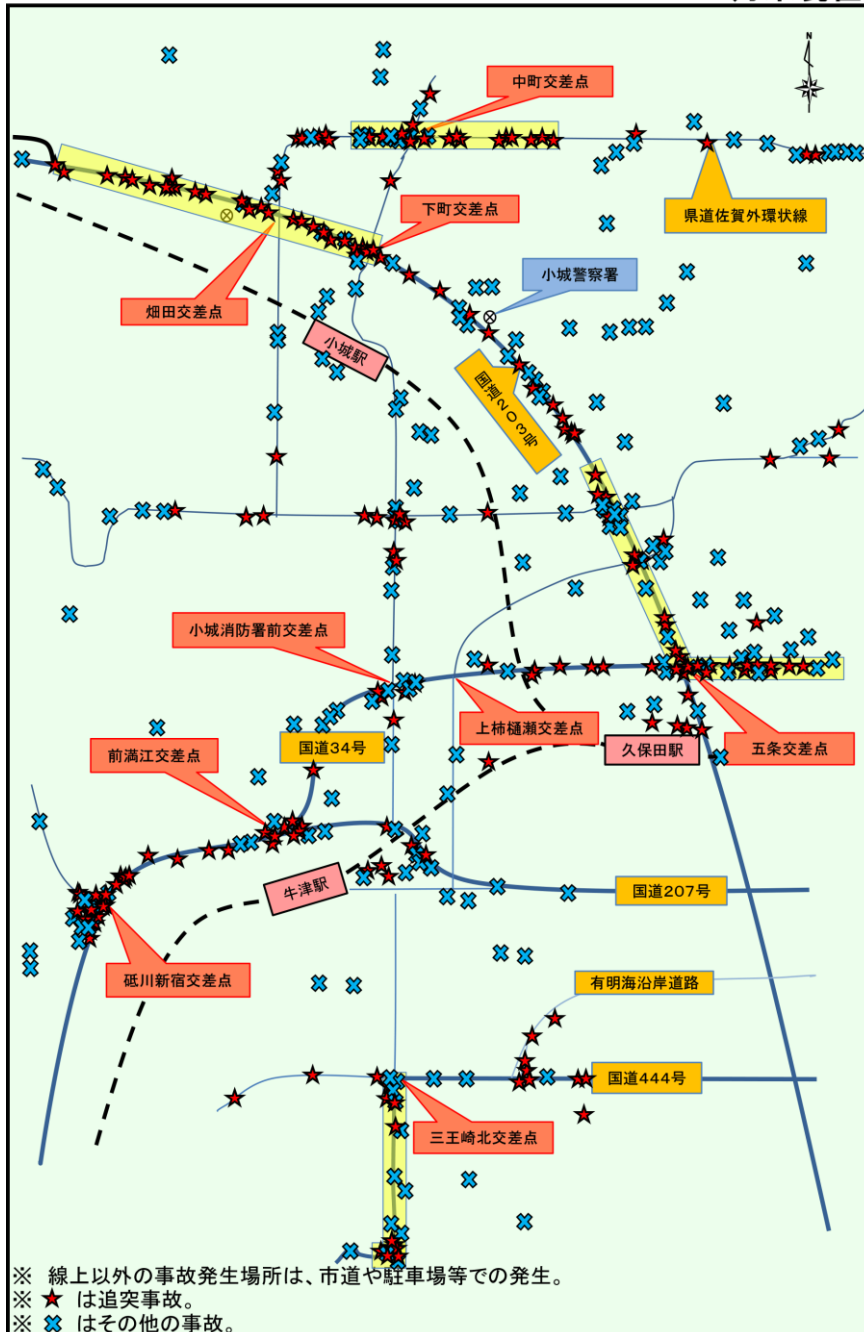
図 自動車保有台数の推移

出典：佐賀県統計年鑑・小城市HP（行政区別人口）

3-6 交通事故の発生状況

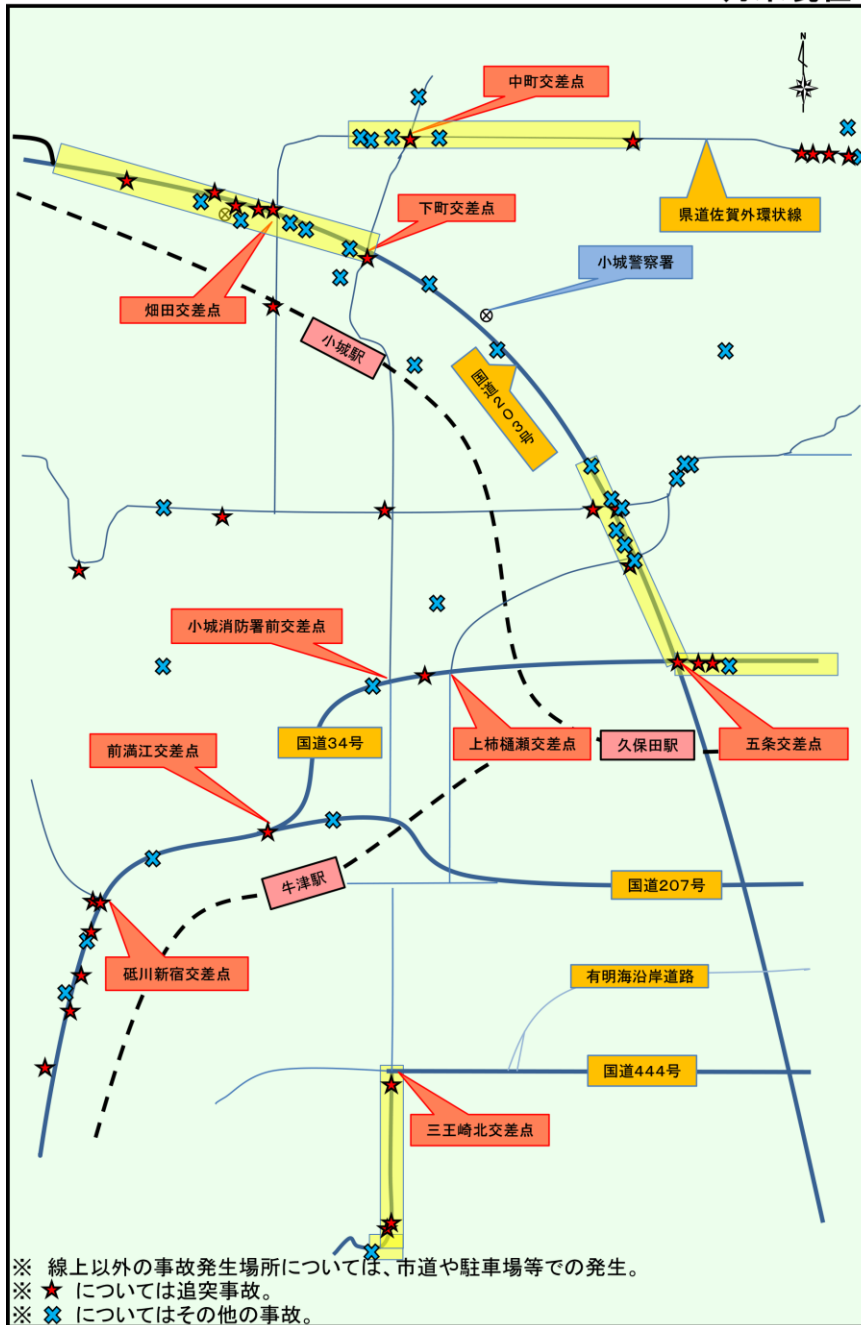
平成30年以降の人身事故発生マップについてみると、主要交差点での追突事故が多く、また、国道沿いで事故が多発しています。

平成30年 小城警察署管内(小城市) 人身事故発生マップ
12月末現在



出典：佐賀県警察署本部 HP

平成31年 小城警察署管内(小城市) 人身事故発生マップ
3月末現在



出典：佐賀県警察署本部 HP

3-7 通学路

通学路は、山間部を除く市全域に指定されています。

主要地方道、一般県道及び市道に沿った指定通学路が多く、一般国道 34 号や一般国道 207 号の指定区間は一部となっていますが、前節で比較的人身事故の多かった一般国道 203 号には長い区間が指定されています。

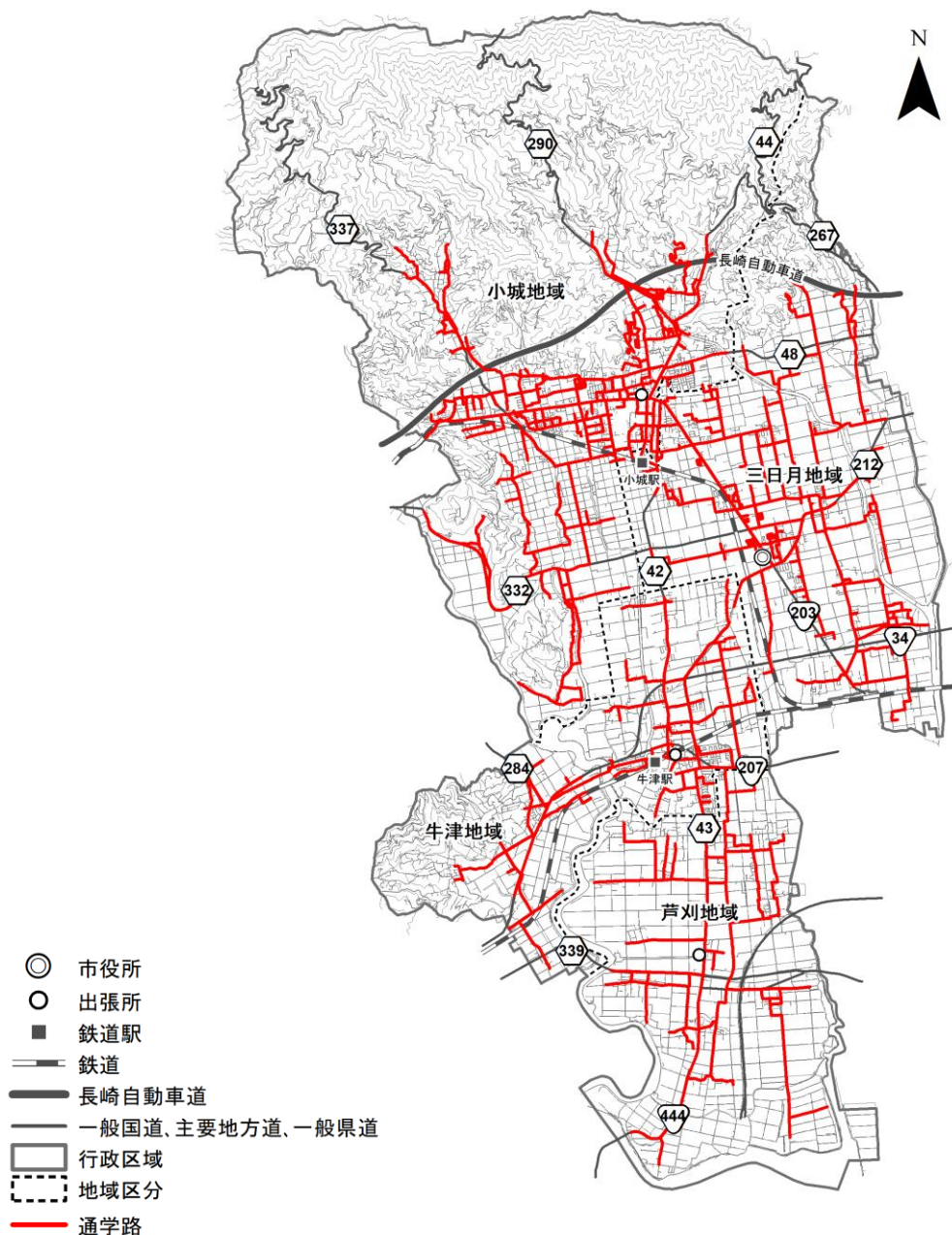


図 指定通学路

出典：庁内資料（令和 2 年各学校通学路マップ）

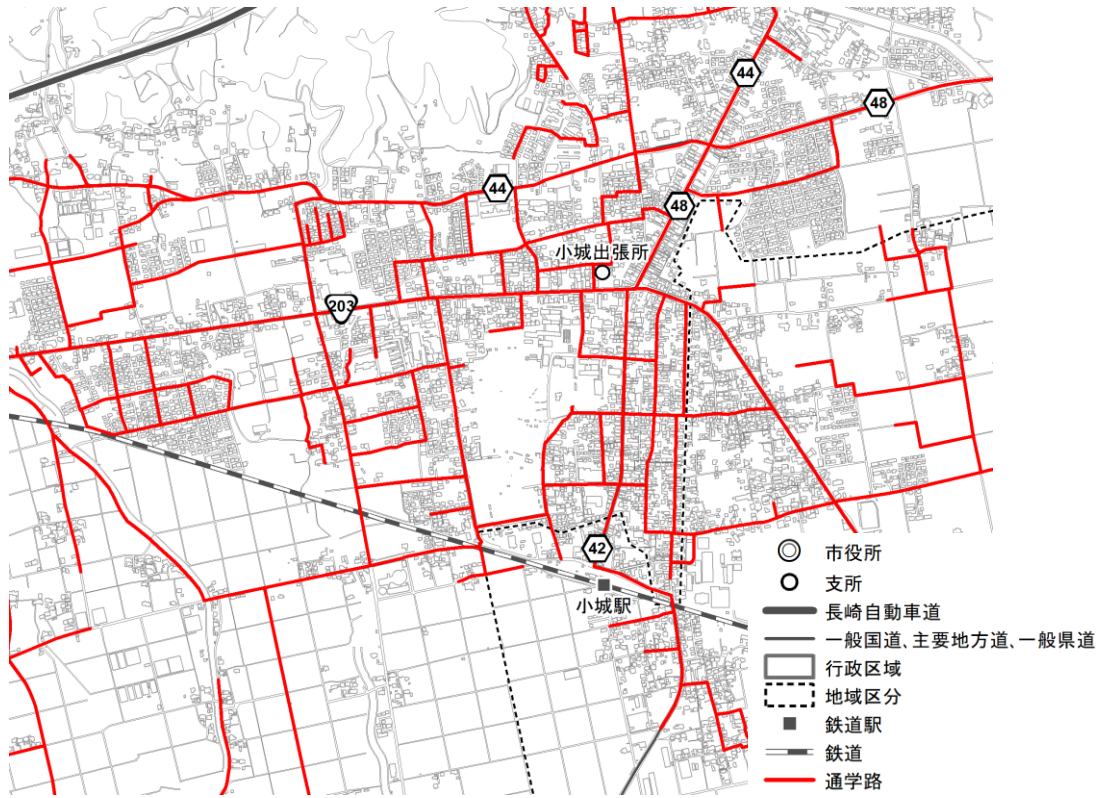


図 指定通学路 拡大図①

出典：庁内資料（令和2年各学校通学路マップ）

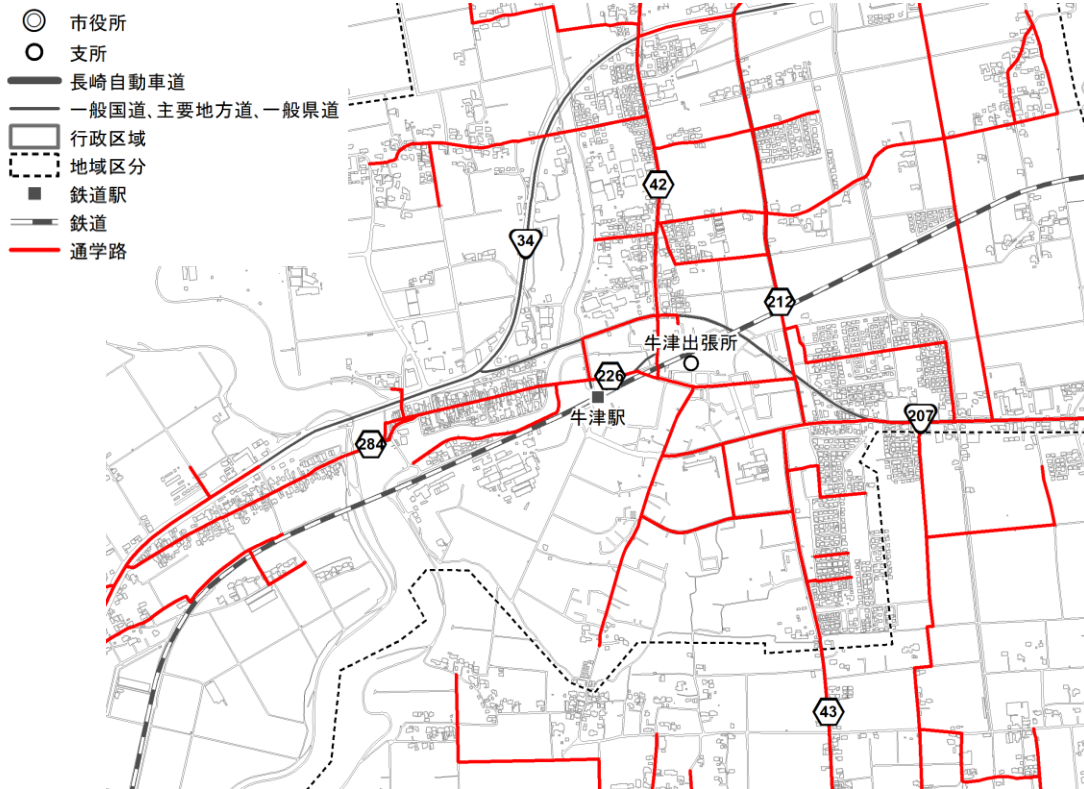


図 指定通学路 拡大図②

出典：庁内資料（令和2年各学校通学路マップ）

4 公共交通の現況

4-1 バスの利用状況

4-1-1 運行本数

本市の公共交通として路線バス（昭和バス、祐徳バス）及びコミュニティバス・乗合タクシーが運行しています。

平日運行本数（往復）40本以上の路線は、一般国道203号、一般国道207号を通る路線となっています。

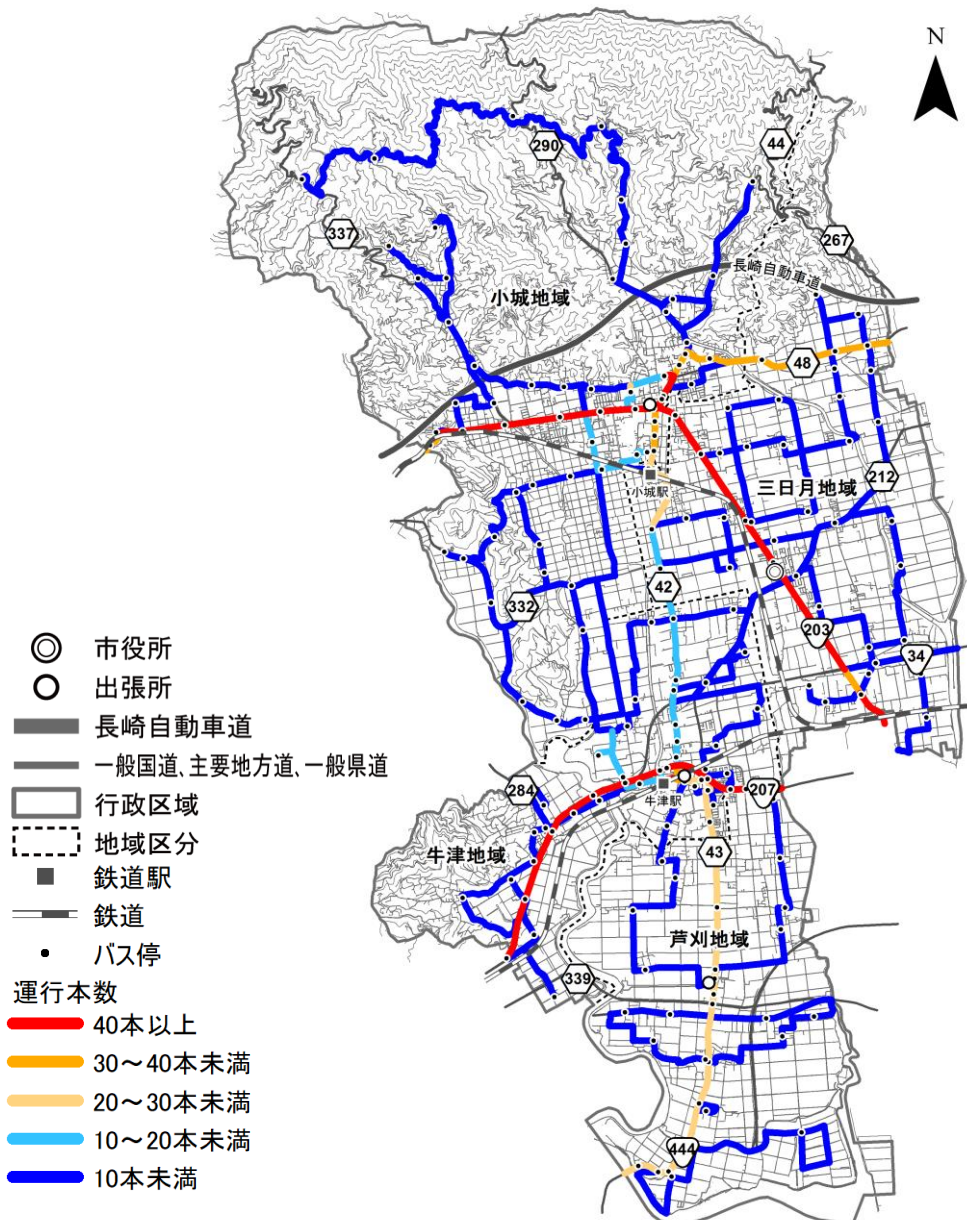


図 バスの運行状況

出典：平成29年度小城市都市計画基礎調査、小城市HP、各運行会社HP